

平成20年度水戸市内遺跡発掘調査報告書



2011

水戸市教育委員会

平成20年度水戸市内遺跡発掘調査報告書

2011

水戸市教育委員会

原色圖版 1



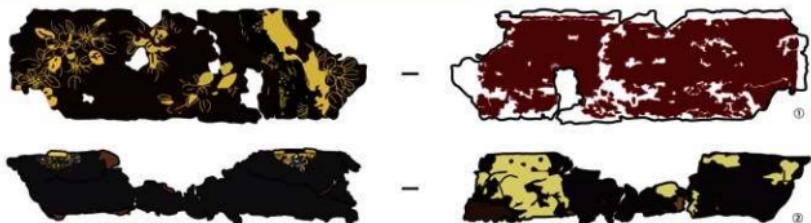
軍民坂遺跡（第 4 地點）SK007 繩文土器深鉢出土狀況



台渡里遺跡（第 43 次）3121 型式軒丸瓦檢出狀況



釜神町遺跡(第4地点)第1号遺構出土
黒地蒔繪箱物出土状況



釜神町遺跡(第4地点)第1号遺構出土黒地蒔繪箱物実測図(S=1/3)



①表面(補強処理後)



①裏面(補強処理後)

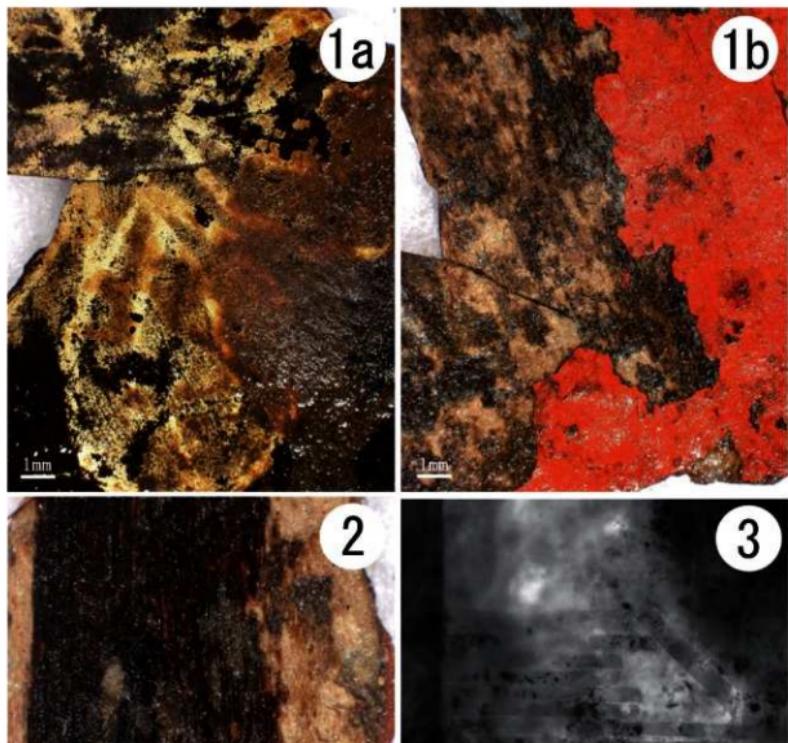


②表面(補強処理後)



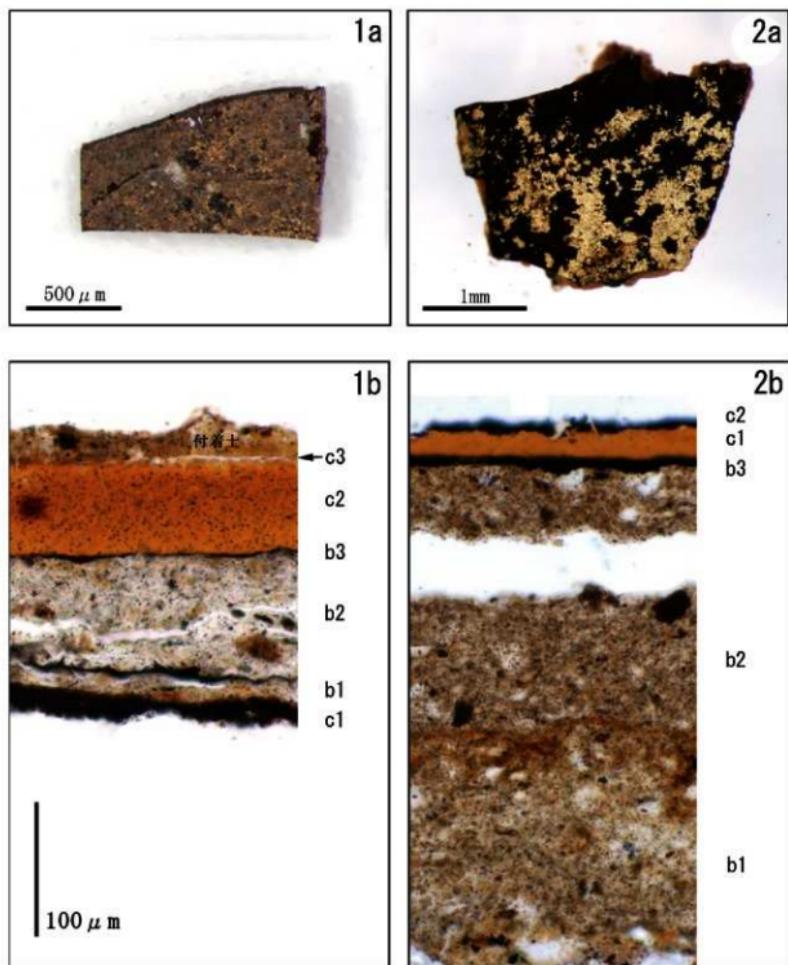
②裏面(補強処理後)

釜神町遺跡(第4地点)第1号遺構出土黒地蒔繪箱物補強処理後写真(S=1/3)



金神町遺跡（第4地点）第1号遺構出土黒地蒔絵箱物漆塗膜片および木胎財組織の顕微鏡写真

- 1a. 箱物外面（蒔絵） 1b. 箱物内面
2. 木胎部の木材片 3. 木胎木片の顕微鏡写真（針葉樹放射断面）



釜神町遺跡（第4地点）第1号遺構出土黒地蒔繪箱物漆塗膜と塗膜薄片の顕微鏡写真（スケール共通）

1a. 部材Aの塗膜片 1b. 部材Aの塗膜薄片の顕微鏡写真と塗膜構造

2a. 部材Bの塗膜片 2b. 部材Bの塗膜薄片の顕微鏡写真と塗膜構造

ごあいさつ

歴史的文化遺産のひとつである埋蔵文化財は、工事や開発などにより一度破壊されると二度と原状に復することができないため、私たちが大切に保存しながら後世へ伝えていかなければならない貴重な財産です。近年の大規模開発等による都市化の様相が強まる中で、埋蔵文化財の現状保存は非常に困難になりつつありますが、本市においてもその意義や重要性を踏まえ、文化財保護法及び関係法令に基づいた保護保存に努めているところです。

本書は、平成 20 年度に水戸市内において実施した国・県費補助による試掘・確認調査、本発掘調査、立会調査の報告書です。

平成 20 年度に実施した試掘・確認調査は 86 件に及び、個人住宅建築に伴う記録保存を目的とした本発掘調査は 9 件実施しました。この数は県内でもトップクラスです。本書には、これらの調査によって得られた先土器時代から江戸時代に及ぶ数々の興味深い成果が盛り込まれております。

大足町に位置する寺内遺跡では、先土器時代の石器が 2 点出土しました。旧内原地区ではこれまで先土器時代の遺跡はほとんど見つかっておらず、貴重な発見と言えます。

上国井町に位置する軍民坂遺跡では、本書の表紙を飾る東北地方と関東地方の文様が折衷した深鉢形土器が出土しました。北関東と南東北の地域間交流を示すものです。

渡里町一帯に広がる台渡里遺跡では、役所に関わるとみられる溝跡から多量の須恵器とともに、那賀郡衛正倉院の屋根に葺かれていたものと同じ文様を持つ軒丸瓦が出土しました。この瓦と同じ文様のものはこれまで台渡里魔寺跡（長者山地区）から出土しておりましたが、文様の全容がわかる状態の良い資料はなく、大変貴重な資料です。

備前町に位置する釜神町遺跡では、幕末に偕楽園下で生産されていた七面焼とともに、市内では初の発見例となる江戸時代の黒地蒔絵箱物が出土しました。備前町一帯は水戸藩の武家屋敷が存在した地域で、武家の調度品と考えられる資料です。本資料についてはその重要性を鑑み、表面にみられる鮮やかな蒔絵を恒久的に保存し、市民の皆様に展示・公開できるよう保存強化処理を施しました。

それぞれの調査面積・期間はさまざなものです、その成果を一つ一つ積み重ねることにより、水戸の歴史をより豊かなものにし、郷土の歴史的資源を生かした風格のあるまちづくりの一助となることを願ってやみません。

最後になりましたが、調査に当たり多大な御理解と御協力をいただきました事業者・土地所有者の皆様、並びに種々の御指導・御助言をいただきました文化庁記念物課、茨城県教育庁文化課、水戸市史跡等整備検討専門委員の皆様方に心から感謝を申し上げます。そしてここに刊行する本書が、かけがえのない郷土の文化財に対する意識の高揚と、学術研究等の資料として、広く御活用いただけることを期待し、ごあいさつといたします。

平成 23 年 3 月

水戸市教育委員会
教育長 鯨岡 武

例　言

1. 本書は平成 20 年度に国・県費の補助を受けて水戸市教育委員会が直営事業として実施した水戸市内に所在する遺跡の発掘調査報告書である。

2. 調査対象となった周知の遺跡は、下記のとおりである。

赤塚遺跡・坪遺跡・合ノ田遺跡・池上遺跡・一戦塚遺跡・稻荷塚古墳群・茨城高等学校遺跡・上野遺跡・江川館跡・榎巷遺跡・大串遺跡・大城遺跡・大塚新地遺跡・大鋸町遺跡・加倉井原遺跡・釜神町遺跡・釜久保遺跡・神生館跡・雁沢遺跡・河和田城跡・崩れ橋遺跡・軍民坂遺跡・小仲根遺跡・山王遺跡・下荒句古墳群・下本郷遺跡・新田遺跡・スワ遺跡・仙光内遺跡・台渡里遺跡・台渡里廃寺跡・高原遺跡・長者山遺跡・寺内遺跡・寺山遺跡・塔ノ上遺跡・東前原遺跡・中大野遺跡・中河内遺跡・中台遺跡・成沢大塚遺跡・東大野遺跡・福沢古墳群・藤田東湖生誕の地・舞台遺跡・堀遺跡・見川城跡・水戸城跡・向原遺跡・向山遺跡・薬王院東遺跡・谷田古墳群・吉田古墳群・米沢町遺跡・渡里町遺跡

3. 上記の遺跡のほかに、国指定史跡「吉田古墳」、茨城県指定史跡「台渡里廃寺跡（長者山地区）」および日新塾跡において、史跡整備に係る確認調査を行ったが、吉田古墳については、「吉田古墳Ⅲ 一史跡整備計画に伴う吉田古墳群第1号墳の第4・5次発掘調査報告書一」に調査成果を掲載している。また、台渡里廃寺跡（長者山地区）についても、「台渡里3—平成19～21年度長者山地区範囲確認調査概報一」に調査成果を掲載している。

日新塾跡については、平成21年度以降も継続して確認調査を行うため、これらの調査成果については、平成21年度以降に刊行を予定している正式報告書において公表する。

4. 調査にあたった組織は以下のとおりである。

（平成20年度）

事務局	内田秀泰	水戸市教育委員会事務局教育次長
仲田立	水戸市教育委員会事務局文化振興課長	
中里誠志郎	水戸市教育委員会事務局文化振興課長補佐	
宮崎賢司	水戸市教育委員会事務局文化振興課文化財係長	
萩谷慎一	水戸市教育委員会事務局文化振興課文化財係主査	
緑川義規	水戸市教育委員会事務局文化振興課文化財係主事	
閑口慶久	水戸市教育委員会事務局文化振興課文化財係文化財主事	
瀬美賢吾	水戸市教育委員会事務局文化振興課文化財係文化財主事	
金子千秋	水戸市教育委員会事務局文化振興課文化財係埋蔵文化財嘱託員	
五上義隆	水戸市教育委員会事務局文化振興課大串貝塚ふれあい公園所長	
飛田邦夫	水戸市教育委員会事務局文化振興課大串貝塚ふれあい公園嘱託員	
山戸祐子	水戸市教育委員会事務局文化振興課大串貝塚ふれあい公園嘱託員	
大津郁子	水戸市教育委員会事務局文化振興課大串貝塚ふれあい公園埋蔵文化財嘱託員	
現場担当者	川口武彦	水戸市教育委員会事務局文化振興課大串貝塚ふれあい公園文化財主事
	色川順子	水戸市教育委員会事務局文化振興課大串貝塚ふれあい公園埋蔵文化財嘱託員

（平成21年度）

事務局	内田秀泰	水戸市教育委員会事務局教育次長
中里誠志郎	水戸市教育委員会事務局文化課長	
五上義隆	水戸市教育委員会事務局文化課長補佐	
萩谷慎一	水戸市教育委員会事務局文化課文化財係長	
緑川義規	水戸市教育委員会事務局文化課文化財係主査	
閑口慶久	水戸市教育委員会事務局文化課文化財係文化財主事	
瀬美賢吾	水戸市教育委員会事務局文化課文化財係文化財主事	
米川暢敬	水戸市教育委員会事務局文化課文化財係文化財主事	
金子千秋	水戸市教育委員会事務局文化課文化財係埋蔵文化財嘱託員	
宮崎賢司	水戸市教育委員会事務局文化課大串貝塚ふれあい公園所長	

整理担当者	山戸祐子 大津郁子 荒時周平 川口武彦 色川順子	水戸市教育委員会事務局文化課大串貝塚ふれあい公園嘱託員 水戸市教育委員会事務局文化課大串貝塚ふれあい公園埋蔵文化財嘱託員 水戸市教育委員会事務局文化課大串貝塚ふれあい公園埋蔵文化財嘱託員 水戸市教育委員会事務局文化課大串貝塚ふれあい公園文化財主事 水戸市教育委員会事務局文化課大串貝塚ふれあい公園埋蔵文化財嘱託員
(平成 22 年度)		
事務局	鰐岡 武 内田秀泰 中里誠志郎 五上義隆 萩谷慎一 濱美賀吾 海老澤里枝 宮崎賢司 米川暢敬 山戸祐子 大津郁子	水戸市教育委員会事務局教育長 水戸市教育委員会事務局教育次長 水戸市教育委員会事務局文化課長 水戸市教育委員会事務局文化課長補佐兼芸術文化係長 水戸市教育委員会事務局文化課文化財係長 水戸市教育委員会事務局文化課文化財係文化財主事 水戸市教育委員会事務局文化課文化財係主事 水戸市教育委員会事務局文化課埋蔵文化財センター所長 水戸市教育委員会事務局文化課埋蔵文化財センター文化財主事 水戸市教育委員会事務局文化課埋蔵文化財センター嘱託員 水戸市教育委員会事務局文化課埋蔵文化財センター埋蔵文化財嘱託員
		(平成 22 年 9 月 30 日まで)
	金子千秋 田中恭子 三浦健太	水戸市教育委員会事務局文化課埋蔵文化財センター埋蔵文化財嘱託員 水戸市教育委員会事務局文化課埋蔵文化財センター埋蔵文化財嘱託員 水戸市教育委員会事務局文化課埋蔵文化財センター埋蔵文化財嘱託員
整理担当者	川口武彦 色川順子	(平成 22 年 10 月 1 日から) 水戸市教育委員会事務局文化課埋蔵文化財センター主幹 水戸市教育委員会事務局文化課埋蔵文化財センター埋蔵文化財嘱託員

5. 発掘調査と整埋作業には以下の者が参加した。

発掘調査参加者

岡見知紀(東京芸術大学大学院生)、佐藤佑香(茨城大学大学院生)、石川侑子、岡 沙織、樋口 碧(以上、茨城大学学生)、石川 勉、石崎寿子、石崎洋子、櫻澤由紀江、海老原四郎、圓野政雄、小山司農夫、片西登美江、加藤利男、川又恵美子、河原井俊吉郎、久保木きよ子、久保田馨、栗原芳子、黒須秀昭、鈴木潤一、高柳悦子、高安幸且、飛田とし子、富田 仁、中山忠雄、廣水一真、福原雅美、三浦健太、皆川明子、皆川幸子、村上巧兒、山崎武司、渡辺恵子

整理作業参加者

安島町子、飯田貴代子、小澤弥代、柏千枝子、齊藤千左乃、杉崎明美、鈴木加代子、須藤裕美、田上雪枝、橋本祥子、人見よね子、平根真由美、広瀬文子、深澤貞子、三浦悦子

6. 本書の執筆は各現場の担当者が分担して行い、全体の編集には川口・色川・田中・三浦があたった。遺構図のデジタルトースおよび地図作成は、川口・瀬美・三浦が分担して行った。出土遺物については団化および観察表作成、解説文執筆を色川・川口が分担し、古墳～平安時代の遺物解説文執筆については瀬美の、中・近世の遺物解説文執筆については閑口(教育委員会事務局文化課世界遺産推進室室長)の助言を得た。

7. 本書に関わる資料は、水戸市教育委員会が保管している。

8. 遺構の写真撮影は現場担当者が行い、遺物の写真撮影は川口が行った。

9. 発掘調査から本書の刊行に至るまで、下記の方々・諸機関より御指導・御教示・御協力を賜った。記して深く謝意を表す次第です(五十音順・敬称略)。

【個人】 青山俊明、荒井秀規、石川 功、稻田健一、今尾文昭、大塚初重、大橋泰夫、大森隆志、岡本東三、川崎純徳、川尻秋生、瓦吹 堅、黒澤彰哉、越川欣和、小杉山大輔、後藤一成、後藤孝行、後藤道雄、斎藤弘道、佐々木義則、曾根俊雄、高島英之、田所清季、田中 裕、谷口陽子、長谷川 啓、畠野経夫、日高 慎、吹野富美夫、松本太郎、三井 猛、宮内良隆、山路直充、山中敏史、横倉要次、吉村武彦

【機関】 文化庁文化財部記念物課、茨城県教育庁文化課、水戸八幡宮

凡例

- 遺構平面図・断面図の縮尺は統一していない。縮小率は各図面に示したスケールを参照願いたい。
 - 遺跡の位置図のうち、第1図は川口が『茨城県遺跡地図』(茨城県教育委員会編 2001)をスキャナーを用いて読み込んだ画像をデジタルトレースし、1:60, 000 の大きさに縮小したものである。個別の遺跡位置図は、三浦が水戸市都市計画図1:20, 000 白図(TIFF形式)を部分的に切りとったものに遺跡の範囲や調査地点を加筆した。
 - 遺構断面図及び土層堆積図の標高は、その都度図中に示している。
 - 本書中の色調に関する表現は新版標準土色帖(農林水産技術会議事務局監修 2000年版)に従った。
 - 引用・参考文献は、一括して本書の最後に提示した。
 - 表紙に使用した遺物の実測図は、軍民遺跡(第4地図)出土の縄文土器である。実測及び清書は色川が行った。

目 次

あいさつ

例言・凡例・目次

第1章 平成20年度の発掘調査と概要 ······ 1

第2章 開発に伴う試掘調査

2-1	坏遺跡(第8地点)	9
2-2	坏遺跡(第9地点)	10
2-3	合ノ田遺跡(第1地点)	11
2-4	一戦塚遺跡(第1地点)	12
2-5	稻荷塚古墳群(第1地点)	14
2-6	茨城高等学校遺跡(第1地点-2次)	15
2-7	上野遺跡(第1地点)	16
2-8	江川館跡(第3地点)	17
2-9	大串遺跡(第9地点)	18
2-10	大城遺跡(第1地点)	19
2-11	大塚新地遺跡(第6地点)	19
2-12	大塚新地遺跡(第7地点)	20
2-13	大塚新地遺跡(第8地点)	21
2-14	大額町遺跡(第9地点)	21
2-15	大鋸町遺跡(第10地点)	23
2-16	釜神町遺跡(第4地点)	23
2-17	雁沢遺跡(第1地点)	26
2-18	河和田城跡(第6地点)	28
2-19	崩れ橋遺跡(第1地点)	28
2-20	軍民坂遺跡(第4地点)	30
2-21	小仲根遺跡(第2地点)	31
2-22	山王遺跡(第1地点)	32
2-23	下荒町遺跡(第4地点-2次)	33
2-24	周知外(安楽寺遺跡近接)	34
2-25	新田遺跡(第1地点-2次)	35
2-26	仙光内遺跡(第2地点)	37
2-27	台渡里遺跡(第43次)	38
2-28	台渡里遺跡(第47次)	42
2-29	台渡里遺跡(第50次)	44

2-30	渡里廃寺跡（第49次）	45
2-31	長者山遺跡（第3地点）	46
2-32	寺内遺跡（第2地点）	48
2-33	東前原遺跡（第1地点）	50
2-34	塔ノ上遺跡（第2地点）	51
2-35	中河内遺跡（第3地点）	52
2-36	東大野遺跡（第1地点）	53
2-37	舞台遺跡（第5地点）	54
2-38	堀遺跡（第8地点）	55
2-39	堀遺跡（第13地点）	57
2-40	堀遺跡（第15地点）	57
2-41	水戸城跡（第16次）	58
2-42	向原遺跡（第6地点）	59
2-43	向山遺跡（第2地点）	60
2-44	薬王院東遺跡（第2地点）	61
2-45	谷田古墳群（第9地点）	62
2-46	米沢町遺跡（第11地点）	63
2-47	渡里町遺跡（第9地点）	64
第3章 個人住宅建築に伴う本発掘調査		
3-1	大串遺跡（第9地点）	66
3-2	大鋸町遺跡（第10地点）	70
3-3	軍民坂遺跡（第3地点）	74
3-4	軍民坂遺跡（第4地点）	76
3-5	東大野遺跡（第1地点）	80
第4章 開発に伴う工事立会調査		
4-1	水戸城跡（第20次）	82
第5章 開発に伴う踏査と採集遺物		
5-1	周知外（河和田町636番地）	84
5-2	駒形端古墳群	85
第6章 釜神町遺跡（第4地点）出土黒地蒔絵箱物の保存処理と分析		
6-1	保存処理の方法と経過	93
6-2	塗膜分析	94
引用・参考文献		
		97

図版目次

第1図	調査対象となった遺跡の位置	5	第7図	堀遺跡（第8・9地点）出土遺物	10
第2図	遺構・遺物が検出されなかった遺跡の位置（1）	6	第8図	堀遺跡（第9地点）のトレンチ配置	10
第3図	遺構・遺物が検出されなかった遺跡の位置（2）	7	第9図	合ノ田遺跡（第1地点）の位置	11
第4図	遺構・遺物が検出されなかった遺跡の位置（3）	8	第10図	合ノ田遺跡（第1地点）のトレンチ配置	11
第5図	堀遺跡（第8・9地点）の位置	9	第11図	合ノ田遺跡（第1地点）出土遺物	11
第6図	堀遺跡（第8地点）のトレンチ配置	9	第12図	一戦塚遺跡（第1地点）の位置	12

第 13 図	一戦塚遺跡（第 1 地点）のトレンチ配置	13	第 60 図	周知外（安楽寺遺跡近接）のトレンチ配置	34
第 14 図	稻荷塚古墳群（第 1 地点）の位置	14	第 61 図	新田遺跡（第 1 地点・2 次）の位置	35
第 15 図	稻荷塚古墳群（第 1 地点）のトレンチ配置	14	第 62 図	新田遺跡（第 1 地点・2 次）のトレンチ配置	35
第 16 図	茨城高等学校遺跡（第 1 地点・2 次）の位置	15	第 63 図	仙光内遺跡（第 2 地点）の位置	37
第 17 図	茨城高等学校遺跡（第 1 地点・2 次）のトレンチ配置	15	第 64 図	仙光内遺跡（第 2 地点）のトレンチ配置	37
第 18 図	茨城高等学校遺跡（第 1 地点・2 次）出土遺物	16	第 65 図	台渡里遺跡（第 43・47・50 次）の位置	38
第 19 図	上野遺跡（第 1 地点）の位置	16	第 66 図	台渡里遺跡（第 43 次）のトレンチ配置	38
第 20 図	上野遺跡（第 1 地点）のトレンチ配置	16	第 67 図	台渡里遺跡（第 43 次）の調査位置と周辺 の調査成果	39
第 21 図	江川簡跡（第 3 地点）の位置	17	第 68 図	台渡里遺跡（第 43 次）出土遺物（1）	40
第 22 図	江川簡跡（第 3 地点）のトレンチ配置	17	第 69 図	台渡里遺跡（第 43 次）出土遺物（2）	41
第 23 図	大串遺跡（第 9 地点）の位置	18	第 70 図	台渡里遺跡（第 47 次）のトレンチ配置	43
第 24 図	大串遺跡（第 9 地点）のトレンチ配置	18	第 71 図	台渡里遺跡（第 50 次）のトレンチ配置	44
第 25 図	大串遺跡（第 9 地点）出土遺物	18	第 72 図	台渡里庵寺跡（第 49 次）の位置	45
第 26 図	大城遺跡（第 1 地点）の位置	19	第 73 図	台渡里庵寺跡（第 49 次）のトレンチ配置	45
第 27 図	大城遺跡（第 1 地点）のトレンチ配置	19	第 74 図	長者山遺跡（第 3 地点）の位置	46
第 28 図	大塚新地遺跡（第 6～8 地点）の位置	19	第 75 図	長者山遺跡（第 3 地点）のトレンチ配置	46
第 29 図	大塚新地遺跡（第 6 地点）のトレンチ配置	20	第 76 図	長者山遺跡（第 3 地点）出土遺物	47
第 30 図	大塚新地遺跡（第 6 地点）出土遺物	20	第 77 図	寺内遺跡（第 2 地点）の位置	48
第 31 図	大塚新地遺跡（第 7 地点）のトレンチ配置	20	第 78 図	寺内遺跡（第 2 地点）のトレンチ配置	49
第 32 図	大塚新地遺跡（第 8 地点）のトレンチ配置	21	第 79 図	寺内遺跡（第 2 地点）出土遺物	50
第 33 図	大船町遺跡（第 9・10 地点）の位置	21	第 80 図	東前原遺跡（第 1 地点）の位置	50
第 34 図	大船町遺跡（第 9 地点）のトレンチ配置	22	第 81 図	東前原遺跡（第 1 地点）のトレンチ配置	51
第 35 図	大船町遺跡（第 9 地点）出土遺物	22	第 82 図	塔ノ上遺跡（第 2 地点）の位置	51
第 36 図	大船町遺跡（第 10 地点）のトレンチ配置	23	第 83 図	塔ノ上遺跡（第 2 地点）のトレンチ配置	52
第 37 図	釜神町遺跡（第 4 地点）の位置	23	第 84 図	中河内遺跡（第 3 地点）の位置	52
第 38 図	釜神町遺跡（第 4 地点）のトレンチ配置と トレンチ 1 の土層断面	24	第 85 図	中河内遺跡（第 3 地点）のトレンチ配置	53
第 39 図	釜神町遺跡（第 4 地点）出土遺物（1）	24	第 86 図	東大野遺跡（第 1 地点）の位置	53
第 40 図	釜神町遺跡（第 4 地点）出土遺物（2）	25	第 87 図	東大野遺跡（第 1 地点）のトレンチ配置	54
第 41 図	雁沢遺跡（第 1 地点）の位置	26	第 88 図	舞台遺跡（第 5 地点）の位置	54
第 42 図	雁沢遺跡（第 1 地点）のトレンチ配置	26	第 89 図	舞台遺跡（第 5 地点）のトレンチ配置	55
第 43 図	雁沢遺跡（第 1 地点）出土遺物	27	第 90 図	舞台遺跡（第 5 地点）出土遺物	55
第 44 図	河和田城跡（第 6 地点）の位置	28	第 91 図	堀遺跡（第 8・3・15 地点）の位置	55
第 45 図	河和田城跡（第 6 地点）のトレンチ配置	28	第 92 図	堀遺跡（第 8 地点）のトレンチ配置	56
第 46 図	崩れ橋遺跡（第 1 地点）の位置	28	第 93 図	堀遺跡（第 13 地点）のトレンチ配置	56
第 47 図	崩れ橋遺跡（第 1 地点）の測量図とトレンチ配置	29	第 94 図	堀遺跡（第 15 地点）のトレンチ配置	56
第 48 図	崩れ橋遺跡（第 1 地点）のトレンチC西壁土層断面	29	第 95 図	堀遺跡（第 15 地点）出土遺物	56
第 49 図	崩れ橋遺跡（第 1 地点）出土遺物	30	第 96 国	水戸城跡（第 16 次）の位置	58
第 50 国	軍民坂遺跡（第 4 地点）の位置	30	第 97 国	水戸城跡（第 16 次）のトレンチ配置	58
第 51 国	軍民坂遺跡（第 4 地点）のトレンチ配置	31	第 98 国	向原遺跡（第 6 地点）の位置	59
第 52 国	小仲根遺跡（第 2 地点）の位置	31	第 99 国	向原遺跡（第 6 地点）のトレンチ配置	59
第 53 国	小仲根遺跡（第 2 地点）のトレンチ配置	32	第 100 国	向山遺跡（第 2 地点）の位置	60
第 54 国	山王遺跡（第 1 地点）の位置	32	第 101 国	向山遺跡（第 2 地点）のトレンチ配置	60
第 55 国	山王遺跡（第 1 地点）のトレンチ配置	32	第 102 国	向山遺跡（第 2 地点）出土遺物	60
第 56 国	下荒句遺跡（第 4 地点・2 次）の位置	33	第 103 国	薬王院東遺跡（第 2 地点）の位置	61
第 57 国	下荒句遺跡（第 4 地点・2 次）のトレンチ配置	33	第 104 国	薬王院東遺跡（第 2 地点）のトレンチ配置	61
第 58 国	下荒句遺跡（第 4 地点・2 次）トレンチ C 土層断面	33	第 105 国	谷田古墳群（第 9 地点）の位置	62
第 59 国	周知外（安楽寺遺跡近接）の位置	34	第 106 国	谷田古墳群（第 9 地点）のトレンチ配置	62

第 107 図	米沢町遺跡（第 11 地点）の位置	63
第 108 図	米沢町遺跡（第 11 地点）のトレンチ配置	63
第 109 図	渡里町遺跡（第 9 地点）の位置	64
第 110 図	渡里町遺跡（第 9 地点）のトレンチ配置	64
第 111 図	渡里町遺跡（第 9 地点）出土遺物	65
第 112 図	大串遺跡（第 9 地点）の位置	66
第 113 図	大串遺跡（第 9 地点）の本調査範囲	66
第 114 図	大串遺跡（第 9 地点）の本調査区構成配置	67
第 115 図	大串遺跡（第 9 地点）SI01 土層断面	67
第 116 図	大串遺跡（第 9 地点）土坑土層断面	68
第 117 図	大串遺跡（第 9 地点）本調査出土遺物	69
第 118 図	大鏡町遺跡（第 10 地点）の位置	70
第 119 図	大鏡町遺跡（第 10 地点）の本調査範囲	70
第 120 図	大鏡町遺跡（第 10 地点）の本調査区構成配置	71
第 121 図	大鏡町遺跡（第 10 地点）遺構上層断面	72
第 122 図	大鏡町遺跡（第 10 地点）出土遺物	73
第 123 図	軍民坂遺跡（第 3 地点）の位置	74
第 124 図	軍民坂遺跡（第 3 地点）の本調査範囲	74
第 125 図	軍民坂遺跡（第 3 地点）の本調査遺構配置	75
第 126 図	軍民坂遺跡（第 3 地点）土坑土層断面	75
第 127 図	軍民坂遺跡（第 3 地点）出土遺物	76
第 128 図	軍民坂遺跡（第 4 地点）の位置	76
第 129 図	軍民坂遺跡（第 4 地点）の本調査範囲	77
第 130 図	軍民坂遺跡（第 4 地点）の本調査区構成配置	78
第 131 図	東大野遺跡（第 1 地点）の位置	80
第 132 図	東大野遺跡（第 1 地点）の本調査区構成配置	80
第 133 図	東大野遺跡（第 1 地点）出土遺物	81
第 134 図	水戸城跡（第 20 次）の位置	82
第 135 図	水戸城跡（第 20 次）出土遺物	83
第 136 図	周知外（河和田町 636 番地）の位置	84
第 137 図	周知外（河和田町 636 番地）採集遺物	84
第 138 図	駒形端古墳群の位置	85
第 139 図	駒形端古墳群踏査採集遺物	85
第 140 図	黒地蒔絵箱物塗膜の赤外線分光分析と X 線分析結果	96

写真目次

写真 1	SD02 出土 3121 型式軒丸瓦当面	42
写真 2	SI01 調査状況（北から）	69
写真 3	SK01 土層断面（南から）	69
写真 4	SK02 土層断面（南東から）	69
写真 5	完掘状況（南東から）	69
写真 6	SI01 土層断面（南東から）	72
写真 7	SI03・SD01 遺物検出状況（西から）	72
写真 8	SI02 土層断面（北西から）	72
写真 9	完掘状況（南東から）	72
写真 10	SK01 土層断面（北西から）	75
写真 11	SK01 完掘状況（北西から）	75
写真 12	完掘状況（南東から）	75
写真 13	完掘状況（東から）	75
写真 14	SB001-P2 遺物出土状況（南から）	78
写真 15	SB001-P4 完掘状況（南から）	78
写真 16	SI001 調査状況（北東から）	78
写真 17	SK007 土層断面（南から）	78
写真 18	SK007 覆上遺物出土状況（南西から）	79
写真 19	SK007 底面遺物出土状況（南から）	79
写真 20	SK012 遺物出土状況（東から）	79
写真 21	SK011 遺物出土状況（南から）	79
写真 22	SK011 完掘状況（南東から）	79
写真 23	調査風景（南西から）	79
写真 24	調査区完掘状況（西から）	79
写真 25	調査区完掘状況（南から）	79
写真 26	SD01・SK01 検出状況（南西から）	81
写真 27	SD01・SK01 土層断面（南西から）	81
写真 28	完掘状況（南西から）	81
写真 29	完掘状況（西から）	81

表目次

第 1 表	開発に伴う試掘・確認調査一覧	1/3
第 2 表	個人住宅建築に伴う本発掘調査一覧	4
第 3 表	開発に伴う工事立会調査一覧	4
第 4 表	土器・瓦・陶磁器観察表	86/91
第 5 表	石器観察表	92
第 6 表	金属器観察表	92
第 7 表	銭貨観察表	92
第 8 表	漆器内面付着黒色物と塗膜分析結果	94
第 9 表	塗膜の各層のエネルギー分散型 X 線 分析結果	95
第 10 表	生漆の赤外吸収位置とその強度	95

第1章 平成20年度の発掘調査と概要

平成20年度の水戸市内遺跡発掘調査は、57遺跡86地点（周知外3地点含む）がその対象となった。その内訳は、開発に係わる試掘・確認調査87件であった。

開発に係わる試掘調査では、27遺跡37地点で遺構が検出され、37遺跡52地点（周知外1地点含む）で遺物が出土した（第1表）。事業計画と試掘・確認調査によって得られた成果を比較したところ、大半は工事を実施した場合の遺跡への影響が軽微であると判断されたため、工事立会あるいは慎重工事の扱いとなり、本調査の実施が必要であると判断されたものは9件であった（第2表）。

本調査の対象となった9件のうち、民軍坂遺跡（第3地点）は平成19年度の後半に試掘・確認調査を行い、平成20年度に記録保存を目的とした本調査を実施することとなったものである。台渡里遺跡（第41次）および山王遺跡（第1地点）については、検出された遺構・遺物が質・量ともに充実しており、本書の紙幅を大幅に超えることから、本書では第2表に調査の概要のみを記し、次年度以降に刊行を予定している報告書にその成果を収録する。堀遺跡（第9地点）についても、区画毎に報告すると、全体像が不鮮明になるため、本書では第2表に調査の概要のみを記し、詳細については別途、刊行を予定している報告書に収録する。

大串遺跡（第9地点）、大鋸町遺跡（第10地点）、民軍坂遺跡（第3・4地点）、東大野遺跡（第1地点）の調査成果については本書に収録した。また、工事立会の扱いとなり、立会調査の際に遺物が出土した地点が3箇所ある（第3表）。遺構・遺物が検出されなかった遺跡（地点）の詳細な位置は第2～4図のとおりである。

第1表 開発に伴う試掘・確認調査一覧

No	遺跡名	調査地	調査期間	調査原因	調査面積 (m ²)	調査担当者	遺構	遺物
1	小坂遺跡 (第5地点-1次)	河和田3丁目 2536 (市宮河和田住宅40～49号棟)	1月28日	市宮住宅建築	—	岡口慶久	○	—
2	井手遺跡 (第8地点)	河和田3丁目 2370-1	4月21日	共同住宅建築	36.6	源美賀子	○	○
3	丹波遺跡 (第9地点)	河和田1丁目 1615-1	7月9日	個人住宅建築	6.15	岡口慶久	—	△
4	井手遺跡 (第10地点)	河和田1丁目 1707-16	10月1日	個人住宅建築	13.6	源美賀子	—	—
5	合ノ田遺跡 (第1地点)	大塙町字合ノ田 709	11月6日	個人住宅建築	17.51	岡口慶久	○	○
6	池上遺跡 (第2地点)	大塙町 1959-3	4月21日	個人住宅建築	12	源美賀子	—	—
7	一戦塚遺跡 (第1地点)	牛伏町 181-1外	6月2日～5日	墓地造成工事	124	源美賀子	○	○
8	稻荷塚古墳群 (第1地点)	大塙町 1757	3月23日	宅地造成工事	342	岡口慶久	○	○
9	茨城高等学校遺跡 (第1地点)	八幡町 8-54 (水戸八幡宮)	3月16日	仮洋殿設置	10	岡口慶久	—	△
10	上野遺跡 (第1地点)	栗崎町字原 10 (栗渡8-1067号棟)	10月28日	側溝新設工事	3.04	源美賀子	—	△
11	川口断面 (第3地点)	内原町 639-1	3月23日	個人住宅建築	15	岡口慶久	○	—
12	櫻井遺跡 (第2地点)	田島町椿塚 211-1	10月21日	個人住宅建築	12.5	源美賀子	—	—
13	大串遺跡 (第9地点)	大串町字原坪 598-2	5月12日	個人住宅建築	45.9	源美賀子	○	○
14	大城遺跡 (第1地点)	大足町舟塚 1277-1	6月5日	個人住宅建築	23	源美賀子	—	○
14	大塙新地遺跡 (第6地点)	大塙町字表 467	5月30日	個人住宅建築	10	源美賀子	○	○
15	大塙新地遺跡 (第7地点)	大塙町 544-10	6月23日	個人住宅建築	13.8	源美賀子	—	△
16	大塙新地遺跡 (第8地点)	大塙町字表 484	12月11日	個人住宅建築	10.5	源美賀子	○	—
17	大塙新地遺跡 (第9地点)	大塙町 544-9	3月17日	個人住宅建築	2	岡口慶久	—	—
18	大塙町遺跡 (第9地点)	元吉田町 2339-4	12月11日	店舗建設	26	源美賀子	○	○
19	大塙町遺跡 (第10地点)	元吉田町 2280-9, 2280-10	8月6日	個人住宅建築	10	源美賀子	○	○

No	遺跡名	調査地	調査期間	調査原因	調査面積 (m ²)	調査担当者	遺構	遺物
20	加倉井原遺跡 (第5地点)	加倉井町字原 1347-1	10月1日	携帯電話通信基地局建設	12	瀬美賀呂	—	—
21	釜神町遺跡 (第4地点)	備前町 754-4・11・12	3月13日	個人住宅建築	15	岡口慶久	○	○
22	釜久保遺跡 (第4地点)	大原町字釜久保 1595-10	4月22日	個人住宅建築	24.25	岡口慶久	—	—
23	神之瀬跡 (第1地点)	飯富町 4633-1	8月6日	個人住宅建築	28.3	岡口慶久	—	—
24	柳沢河岸跡 (第1地点)	元石川町字柳沢 909-1・4・6・8・ 12, 910-1	6月9日～13日	伐抜工事	475	瀬美賀呂	○	○
25	河和田城跡 (第6地点)	河和田町 552	5月7日	個人住宅建築	12.2	岡口慶久	—	△
26	河和田城跡 (第7地点)	河和田町 1102	7月9日	携帯電話通信基地局建設	15	岡口慶久	—	—
27	河和田城跡 (第8地点)	河和田町 468-1	9月11日	個人住宅建築	8	瀬美賀呂	—	—
28	河和田城跡 (第9地点)	河和田町 1172-1 地先～911地先 (認定外道路)	12月8日	道路舗装工事	—	岡口慶久	—	—
29	河和田城跡 (第10地点)	河和田町字中城 895-4	2月3日	個人住宅建築	14	岡口慶久	—	—
30	崩木橋遺跡 (第1地点)	内原町 4304-33 (主要地方道石岡常北線)	9月16日～25日	地道掘解工事	12.04	岡口慶久、瀬美賀呂、金子千秋	○	○
31	甲斐坂道跡 (第4地点)	上深井町 3585-1	11月20日	個人住宅建築	10	瀬美賀呂	○	○
32	小仲坂道跡 (第2地点)	元石川町字荒尾 1892-1	4月16日	個人住宅建築	16	岡口慶久	—	△
33	山上遺跡 (第1地点)	赤尾町字山王 582-1	11月26日	個人住宅建築	7.5	瀬美賀呂	○	○
34	下荒坂道跡 (第4地点・2次)	萩原台 4丁目 238	6月10日	個人住宅建築	76.1	岡口慶久	○	△
35	下荒坂古墳群 (第1地点)	開江町字向井原 116-4 の一部	6月10日	墓場建設	8	岡口慶久	—	—
36	下木塚道跡 (第3地点)	千波町 47-2	6月2日	個人住宅建築	6	岡口慶久	—	—
37	周辺跡 (安樂寺遺跡附近)	元吉町 2506	2月2日	個人住宅建築	12	岡口慶久	—	△
38	周辺跡 (酒門町内地)	酒門町 535-3	6月12日	個人住宅建築	2	岡口慶久	—	—
39	周辺跡 (佐吉沢剛唱跡)	元吉町字一里原東 1816-2	9月9日	宅地造成工事	89.4	岡口慶久、金子千秋	—	—
40	新田遺跡 (第1地点・2次)	全瀬町 1366-1	7月28日～8月1日	水槽建設	219.4	瀬美賀呂	○	○
41	アメノ遺跡 (第1地点)	内原町 1463-66	5月9日	個人住宅建築	6	岡口慶久、金子千秋	—	—
42	仙光寺遺跡 (第2地点)	飯島町字開場 527-4	9月12日	個人住宅建築	9	瀬美賀呂	○	○
43	台原里遺跡 (第43次)	渡里町 3009-1	7月10日	個人住宅建築	49.68	瀬美賀呂	○	○
44	台原里遺跡 (第47次)	渡里町字宿屋敷 2987-4, -14	10月9日	共同住宅建築	24	瀬美賀呂	○	○
45	台原里遺跡 (第50次)	渡里町 3001-3	12月3日	範例確認	15.4	川口武彦	—	○
46	台原里麻守跡 (第49次)	渡里町 3058-3	10月31日	個人住宅建築	8.24	瀬美賀呂	—	○
47	高畠遺跡 (第2地点)	大堀町字武組 1002-1	5月12日	個人住宅建築	13.2	瀬美賀呂	—	—
48	長畠山遺跡 (第3地点)	渡里町 3151-4, 3151-6	8月21日～26日	範例確認	89.75	川口武彦	○	○
49	小内遺跡 (第2地点)	大延町寺前 1189-3・4・5, 1190-1・2	1次 10月29日～30日 2次 1月13日～14日	墓地造成	185.95	岡口慶久	○	○
50	寺山遺跡 (第1地点)	開江町 334-4, 325-3, 334-3	1月20日	宅地造成工事	18	岡口慶久	—	—
51	芦ノ上遺跡 (第2地点)	小林町字小林 1200-1	1月29日	個人住宅建築	16.5	岡口慶久、金子千秋	—	△
52	東原遺跡 (第1地点)	東前町 2-57・60	11月11日	個人住宅建築	71.5	岡口慶久	—	△
53	中大野遺跡 (第1地点)	中大野 691 地先～660-2 地先 (認定外道路)	12月19日	道路舗装工事	—	岡口慶久	—	—

No	遺跡名	調査地	調査期間	調査原因	調査面積(m ²)	調査担当者	遺構	遺物
54	中河内遺跡 (第3地点)	中河内町194-1・3～6	11月6日	個人住宅建築	7.5	瀬美賀舟	—	○
55	中台遺跡 (第1地点)	鶴岡町字四ノ割2458-8	2月10日	個人住宅建築	21	間口慶久	—	—
56	成沢大塚遺跡 (第1地点)	成沢町字大塚411-2・5、412-1・2・3	2月10日	個人住宅建築	10.5	瀬美賀舟	—	—
57	東川野道跡 (第1地点)	東大野137-2	8月30日	個人住宅建築	37.5	川口武彦	○	○
58	福井古墳群 (第1地点)	米沢町字上組415-1、415-7	3月13日	個人住宅建築	9	間口慶久	—	—
59	福井古墳群 (第2地点)	米沢町字上組415-12、417-41	3月13日	個人住宅建築	9	間口慶久	—	—
60	藤山湖牽牛灘の地 (好文カレッジ跡地)	梅香1-2-20	12月24日	建物解体工事	28	間口慶久	—	—
61	舞台遺跡 (第5地点)	三澤町字舞台466	9月24日	個人住宅建築	9	瀬美賀舟	—	○
62	舞門遺跡 (第6地点)	三澤町字行人山587-3	11月26日	個人住宅建築	9	瀬美賀舟	—	—
63	舞門遺跡 (第8地点)	福井町字馬場東295	3月23日	個人住宅建築	24.9	瀬美賀舟	○	△
64	舞門遺跡 (第9地点)(区画No.1)	渡里町字高野台3309-9	7月17日	個人住宅建築	18	瀬美賀舟、川口武彦	○	○
65	舞門遺跡 (第9地点)(区画No.2)	渡里町字高野台3309-10	2月24日	個人住宅建築	16	瀬美賀舟	○	○
66	舞門遺跡 (第9地点)(区画No.4)	渡里町字高野台3309-3	12月22日	個人住宅建築	17.5	瀬美賀舟	—	○
67	舞門遺跡 (第9地点)(区画No.5)	渡里町字高野台3309-8	10月21日	個人住宅建築	16.3	瀬美賀舟	○	○
68	舞門遺跡 (第9地点)(区画No.6)	渡里町字高野台3309-4	9月12日	個人住宅建築	8	瀬美賀舟	○	○
69	舞門遺跡 (第9地点)(区画No.12)	渡里町字高野台3314-2	12月22日	個人住宅建築	10.5	瀬美賀舟	—	○
70	舞門遺跡 (第9地点)(区画No.7)	渡里町高野台3309-7	4月14日	個人住宅建築	25	瀬美賀舟、川口武彦	○	○
71	舞門遺跡 (第13地点)	渡里町字野木3224-1の一部	4月9日	個人住宅建築	29.25	瀬美賀舟	○	○
72	舞門遺跡 (第15地点)	福井町327-1	7月11日	個人住宅建築	21	瀬美賀舟	○	○
73	見川古城跡 (第9地点)	見川町字1008-2地先～1007-1地先 (認定外道路)	12月8日	道路舗装工事	—	間口慶久	—	—
74	水戸城跡 (第16次)	三の丸1丁目6 (三の丸小学校)	4月4日	学校校舎改築	24	間口慶久	—	△
75	向山遺跡 (第6地点)	有賀町字於中原483-2、-5	1次 8月26日 2次 10月31日	個人住宅建築	6.87 7.5	瀬美賀舟	○	○
76	向山遺跡 (第2地点)	大串町字原121-7	8月20日	個人住宅建築	14	瀬美賀舟	○	○
77	東院東遺跡 (第2地点)	元吉田町字東船573-2～10・11・12	1月28日	宅地造成工事	82.5	間口慶久・金子千秋	○	○
78	谷田古墳群 (第9地点)	谷田町805-10、805-3	7月3日	個人住宅建築	16.4	瀬美賀舟	○	○
79	吉田古墳群 (第4地点)	元吉田町字西船207-15	10月9日	個人住宅建築	4	間口慶久	—	—
80	吉田古墳群 (第5地点)	元吉田町字西船120-1	10月22日	銀行店舗建設	63	間口慶久	—	—
81	吉田古墳群	元吉田町字境内 (駅前207号線)	12月12日	側溝新設および道路舗装工事	—	瀬美賀舟	—	—
82	米沢町遺跡 (第10地点)	元吉田町字一本松226-1	9月8日	宅地造成工事	115	間口慶久	—	—
83	米沢町遺跡 (第11地点)	千波町字中道南1502-14	9月9日	個人住宅建築	15.4	間口慶久、金子千秋	—	○
84	米沢町遺跡 (第12地点)	元吉田町200-1	10月9日	集合住宅建築	12	間口慶久	—	—
85	渡里町遺跡 (第4地点)	渡里町2373-3	4月1日	個人住宅建築	2	川口武彦	—	—
86	渡里町遺跡 (第9地点)	渡里町2568-1	1月15日	共同住宅建築	76.3	瀬美賀舟	○	○

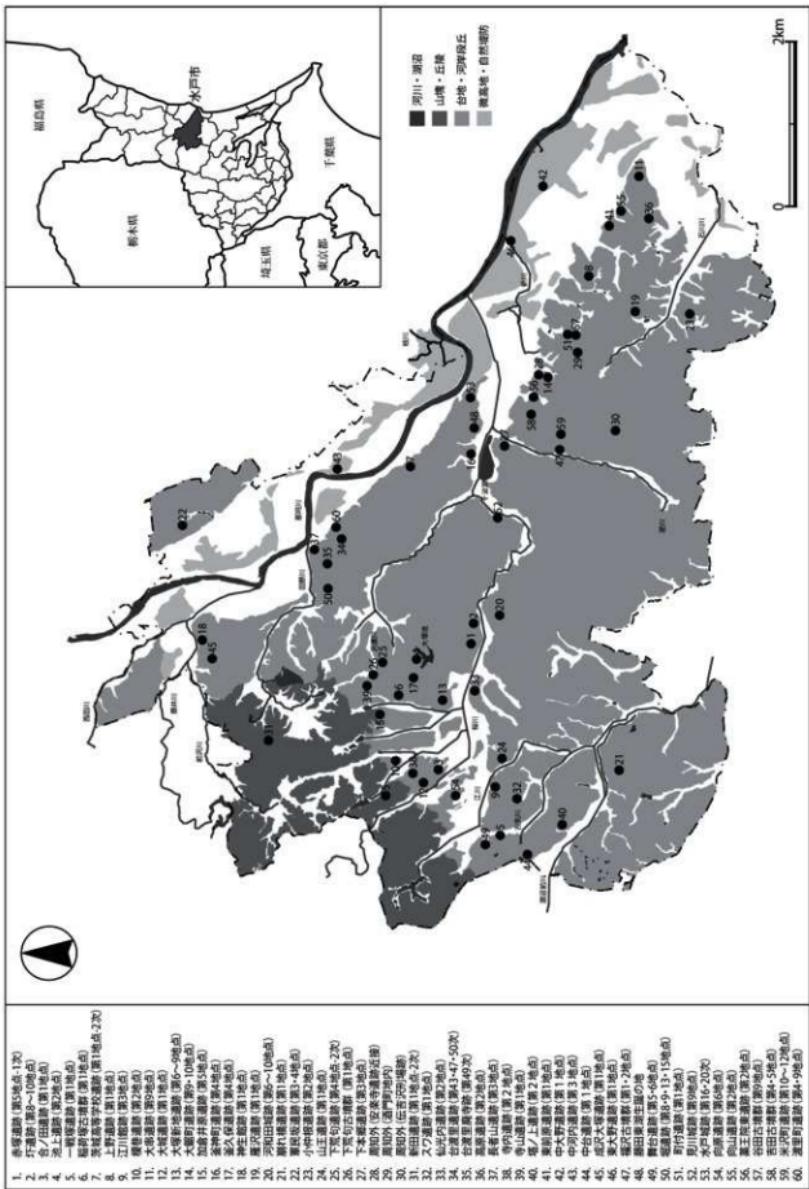
*遺物欄の○は遺構確認面や遺構覆土中からの出土遺物。△は表土・攪乱層中からの出土遺物を示す。

第2表 個人住宅建築に伴う本発掘調査一覧

No	遺跡名	調査地	調査期間	調査面積 (m ²)	調査担当者	遺構	遺物
1	大串道路 (第9地点)	大串町字原坪 598-2	7月31日～ 8月12日	103.34	川口武彦		
2	大瀬町道路 (第10地点)	元吉山町 2280-10	11月4日～ 11月19日	135.37	瀬美賀吾		
3	軍民坂道路 (第3地点)	上岡井町 3667-1・5	6月25日～ 7月3日	57.04	川口武彦		
4	河民坂道路 (第4地点)	上岡井町 3585-1	1月22日～ 3月19日	66	瀬美賀吾、色川順子		
5	山王道路 (第1地点)	赤尾開町字山王 582-1	2月9日～ 3月11日	66	間口慶久、金子千秋		
6	古渡里道路 (第41次)	渡里町字渡入保 2771-12	4月30日～ 6月4日	90.22	川口武彦、色川順子		
7	東大野道路 (第1地点)	東大野 137-2	9月4日～ 9月8日	45.6	川口武彦		
8	塙道路 (第9地点区画No.3)	渡里町 3316-6, 3317-1	4月9日～ 5月2日	80.7	川口武彦、色川順子		
9	塙道路 (第9地点区画No.7)	渡里町高野台 3309-7	1月31日～ 2月22日	96.21	川口武彦		

第3表 開発に伴う工事立会調査一覧

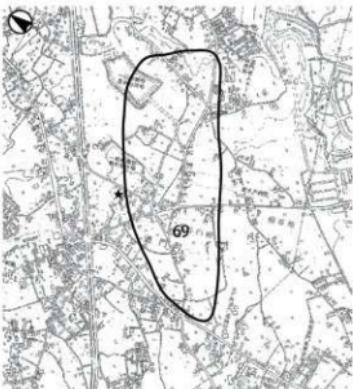
No	遺跡名	調査地	調査期間	調査原因	調査面積 (m ²)	調査担当者	遺物
1	大塙新地道路 (第6地点)	大塙町字表 467	8月22日	個人住宅合併淨化槽埋設工事	4.5	瀬美賀吾	
2	町付道路 (第1地点)	酒門町 638-1	6月18日	個人住宅	—	瀬美賀吾	土解器
3	水戸城跡 (第20次)	三の丸1-6-29(弘道館)	12月8日	井戸屋形修築	—	瀬美賀吾	



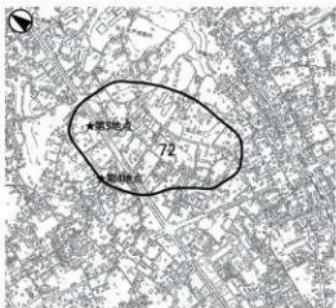
第1図 調査対象となつた遺跡の位置



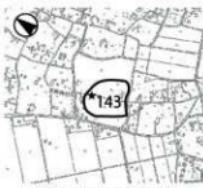
中台遺跡(第1地点)



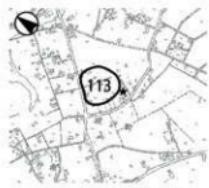
周知外(酒門町地内)



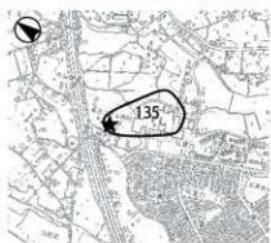
吉田古墳群(第4・5地点)



中野遺跡(第1地点)



成沢大塚遺跡(第1地点)



寺山遺跡(第1地点)



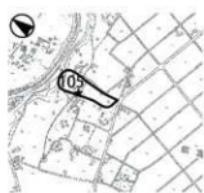
八條遺跡(第10地点)



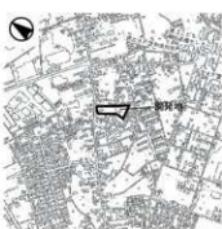
加倉井原遺跡(第5地点)



見川城跡(第9地点)



神生館跡(第1地点)

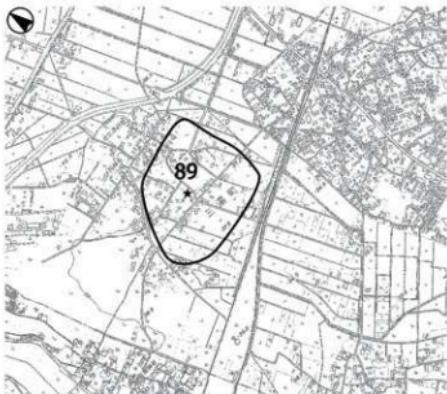


周知外(伝吉沢刑場跡)

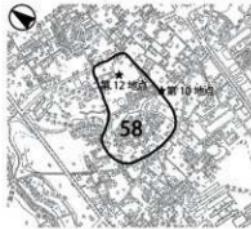
第2図 遺構・遺物が検出されなかった遺跡の位置（1）



第3図 遺構・遺物が検出されなかつた遺跡の位置（2）



舞台遺跡(第6地点)



米沢町遺跡(第10-12地点)

第4図 遺構・遺物が検出されなかった遺跡の位置（3）

第2章 開発に伴う試掘調査

試掘調査は、周知の遺跡の範囲内において実施するが、範囲外であっても現地踏査の結果、遺物が採集される場合、地形等から遺跡の存在が予測される場合、開発面積が広大である場合には、周知の範囲外においても試掘調査を実施した。

試掘調査は、開発予定地内に数mの大きさのトレンチ（試掘溝）を設定し、重機（バックホウ）および人力により、関東ローム層上面まで掘削し、遺構・遺物の有無について確認した。遺構か否かの判断が困難な場合には、サブトレンチ等を設定し、精査により遺構の確認を行った。また、遺跡の時期や遺構の正確を判断するために、サブトレンチを設定し、部分的に掘り下げた場合もある。

遺物は表面採集遺物、トレンチ一括遺物、遺構確認面一括遺物、遺構出土遺物に区分し、取り上げを行った。

2-1 坪遺跡（第8地点）

所在地 水戸市河和田3丁目2370-1

開発面積 645.73 m²

調査期間 平成20年4月21日

調査原因 共同住宅建築

調査担当 涼美賢吾

調査概要 開発対象地のうち、地下に掘削の及ぶ申請建物部分および合併浄化槽埋設部分にトレンチを2箇所設定し、関東ローム層上面を目標に重機を用いて掘削した（第6図）。

（1）トレンチの概要

トレンチ1 9.5m×2m、地表下150cmで湧水が認められ、調査の続行が困難となつた。部分的に黄褐色土の存在は確認出来たが、遺構の存在は希薄であると判断した。遺物は縄文土器片が少量出土した。

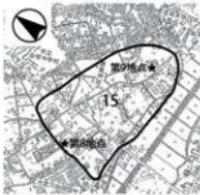
トレンチ2 4.4m×4m、当該トレンチは塩ビ管やコンクリート片等が混じる現代の搅乱が及んでいたが、南壁に沿って、遺構とみられるプランSX01を確認した。プラン上面から縄文土器片が少量出土していることから、縄文時代中期の遺構もしくは遺物包含層がある可能性が高い。（涼美）

（2）出土遺物

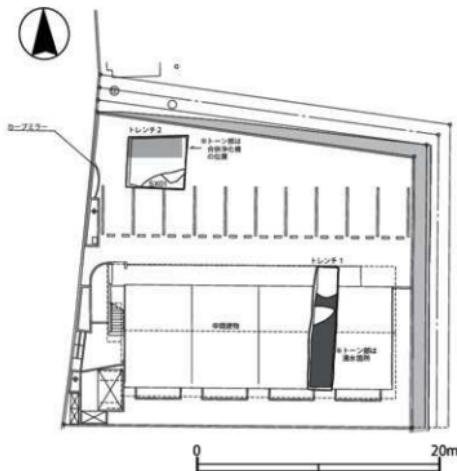
第7図-1～7は縄文土器である。1は隆帯に沿って1列の角押文が施されている。3は隆起線文、4～6は沈線文、7は条線文が施されている。1は中期前半「阿玉台I b式」、2は中期後半「加曾利E 1～2式」、3・4は「加曾利E 2式」、5・6は「加曾利E 3～4式」に位置付けられる。（色川）

（3）確認された埋蔵文化財の取扱い

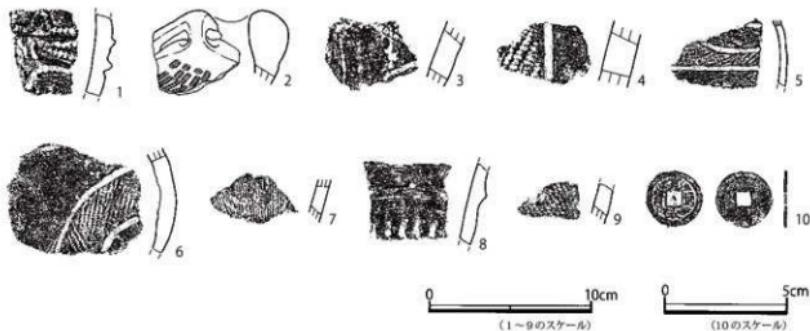
トレンチ2で遺構は確認されたものの、遺構SX01については保護できるとの観点から埋蔵文化財専門職員による工事立会が相当であるとした。（涼美）



第5図 坪遺跡（第8・9地点）の位置



第6図 坪遺跡（第8地点）のトレンチ配置



第7図 坪遺跡（第8・9地点）出土遺物（1～7:第8地点, 8～10:第9地点）

2-2 坪遺跡（第9地点）

所在地 水戸市河和田1丁目 1615-1

開発面積 302 m²

調査期間 平成20年7月9日

調査原因 個人住宅建築

調査担当 関口慶久

調査概要 開発対象地のうち、申請建物部分及び浄化槽埋設予定部分に2本のトレンチを設定し、重機により関東ローム層上面を目標に重機を用いて掘削した（第8図）。

（1）トレンチの概要

トレンチ1 6.5m × 0.6m。地表下85cmの深さで関東ローム層上面が確認された。遺物は表土層から縄文土器片が少量出土した。

トレンチ2 1.5m × 1.5m。地表下90cmの深さで関東ローム層上面が確認された。遺物は表土層から縄文土器片と寛永通宝1枚（第7図-10）が出土した。

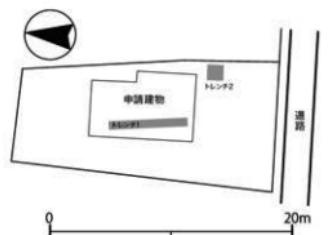
（2）出土遺物

第7図-8・9は縄文土器である。8は中期中葉「阿玉台I b式」、9は中期の土器である。10は寛永通宝（新寛永）である。（色川）

（3）確認された埋蔵文化財の取り扱い

遺構は確認されず、基礎の掘削も関東ローム層上面まで及ばないことから、慎重工事が相当であるとした。

（関口）



第8図 坪遺跡（第9地点）のトレンチ配置

2-3 合ノ田遺跡（第1地点）

所在地 水戸市大足町字合ノ田 709 番地

開発面積 314 m²

調査期間 平成 20 年 11 月 6 日

調査原因 個人住宅建築

調査担当 関口慶久

調査概要 開発対象地のうち、地下に掘削の及ぶ申請建物部分および合併浄化槽埋設部分にトレンチを 2 箇所設定し（第10図）、関東ローム層上面を目標に重機を用いて掘削した。

（1）トレンチの概要

トレンチ 1 6.5m × 1.5m。地表下 30cm の深さで竪穴建物跡 1 棟が確認された（SI01）。SI01 の広がりを把握するため、3.2m × 1.8m の範囲を拡張した。調査の結果、最初に確認された竪穴建物跡と切り合う、主軸の異なる竪穴建物跡 1 棟（SI02）、円形のピット 1 基、梢円形プランの土坑 1 基（SK01）が確認された。遺物は SI01 の覆土上層より奈良・平安時代の土師器・須恵器が多数出土した。

トレンチ 2 2m × 1m。地表下 50cm で関東ローム層上面が確認されたが、遺構・遺物は確認されなかった。

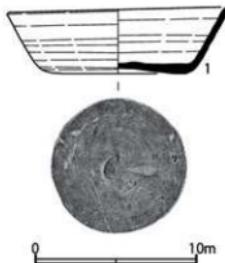
（関口）

（2）出土遺物

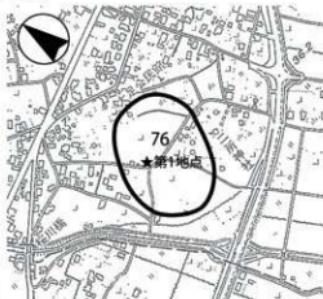
第11図-1 は SI01 の覆土上層より出土した須恵器無台環である。胎土の特徴から木葉下窯跡群の製品とみられ、技術的・形態的特徴から 8 世紀後葉頃の製品とみられる。（色川）

（3）確認された埋蔵文化財の取り扱い

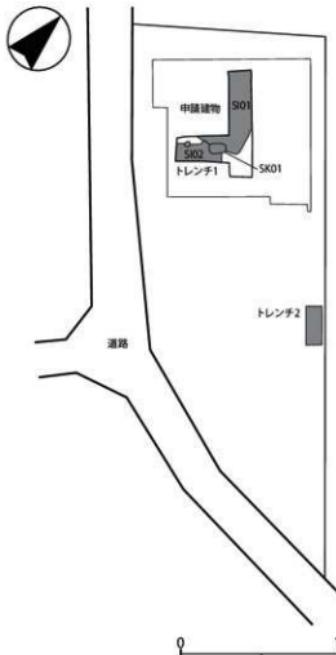
トレンチ 1 において竪穴建物跡や土坑とみられる遺構が確認されたが、設計変更により、現況地盤に 30cm の盛土を行い、保護層を確保できることから、慎重工事が相当であるとした。（関口）



第11図 合ノ田遺跡（第1地点）出土遺物



第9図 合ノ田遺跡（第1地点）の位置



第10図 合ノ田遺跡（第1地点）のトレンチ配置

2-4 一戦塚遺跡（第1地点）

所在地 水戸市牛伏町 181-1, 182, 185, 186 の一部

開発面積 2,982.3 m²

調査期間 平成 20 年 6 月 2 日～6 月 5 日

調査原因 墓地造成工事

調査担当 濑美賀吾

調査概要 開発対象地のうち、地下に掘削の及ぶ申請建物部分および合併浄化槽埋設部分にトレンチを 5 箇所設定し（第 13 図）、関東ローム層上面を目標に重機を用いて掘削した。

（1）トレンチの概要

トレンチ 1 10m × 3m。地表下 20cm の深さで竪穴建物跡が 2 棟確認された（SI01・SI02）。確認面から土師器・須恵器が出土していることから、奈良・平安時代の遺構とみられる。遺物の出土量は多い。

トレンチ 2 4m × 2m。地表下 20cm で竪穴建物跡が 1 棟確認された。位置関係からトレンチ 1 で確認された SI01 の延長部分とみえる。遺物の出土量は多い。

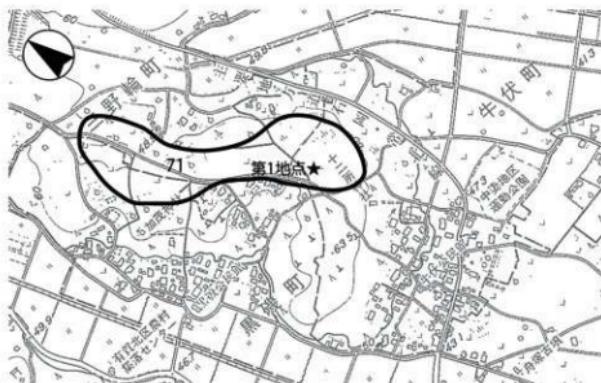
トレンチ 3 13m × 3m。地表下 20cm で竪穴建物跡が 1 棟確認された（SI03）。トレンチ 1 で確認された SI02 と主軸が一致することから、奈良・平安時代の遺構とみられる。遺物の出土量は多い。

トレンチ 4 7m × 3m。地表下 70～80cm で関東ローム層上面が確認されたが、擾乱が著しく、遺構は確認されなかった。遺物の出土量はトレンチ 1～3 に比べて少ない。

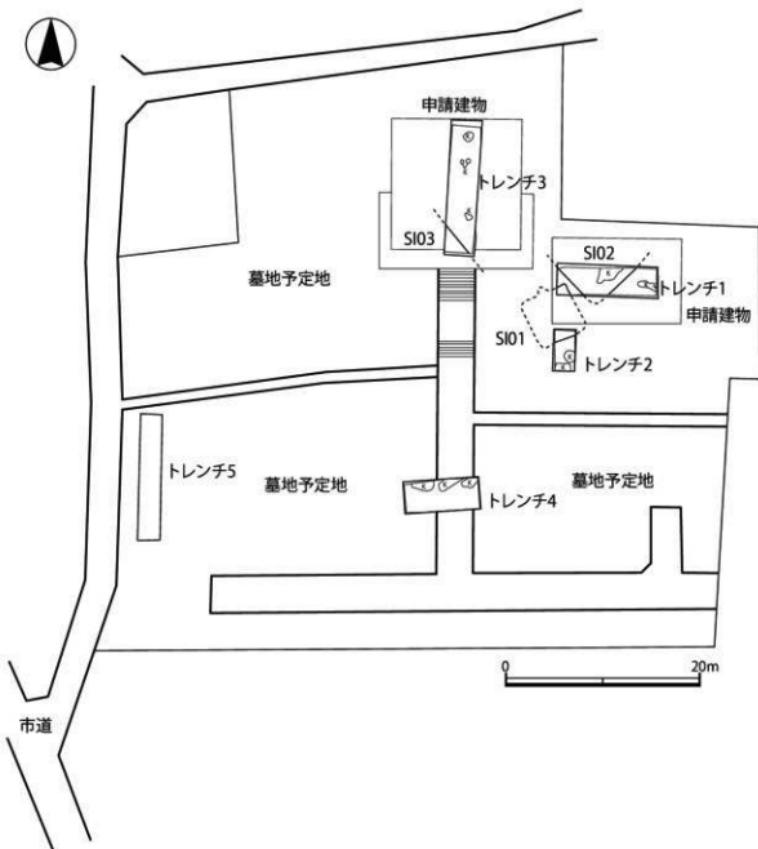
トレンチ 5 13m × 2m。地表下 70～80cm で関東ローム層上面が確認されたが、遺構は確認されなかった。遺物の出土量は少ない。

（2）確認された埋蔵文化財の取り扱い

トレンチ 1～3 において竪穴建物跡が確認され、30cm 以上の保護層を確保することが困難であることから、記録保存を目的とした本发掘調査が相当であるとした。
(瀬美)



第 12 図 一戦塚遺跡（第1地点）の位置



第13図 一戦塚遺跡（第1地点）のトレンチ配置

2-5 稲荷塚古墳群（第1地点）

所在地 水戸市大塚町 1757

開発面積 5,563 m²

調査期間 平成 21 年 3 月 23 日

調査原因 宅地造成工事

調査担当 関口慶久

調査概要 開発対象地内にトレンチを 4 箇所設定し、関東ローム層上面を目標に重機を用いて掘削した（第 15 図）。また、3 基の古墳の規模・位置とトレンチの位置関係を把握する必要があったことから、南から 1 号墳・2 号墳・3 号墳と命名し、墳裾の範囲を測量した。

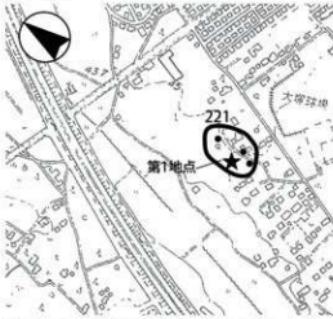
（1）トレンチの概要

トレンチ 1 82m × 1.5m。地表下 45 ~ 65cm で関東ローム層上面が確認され、擾乱が著しかったものの、東端で第 1 号墳の周溝が、西端で時期・性格不明の溝跡が 1 条検出された。遺物は土師器の細片が若干出土している。

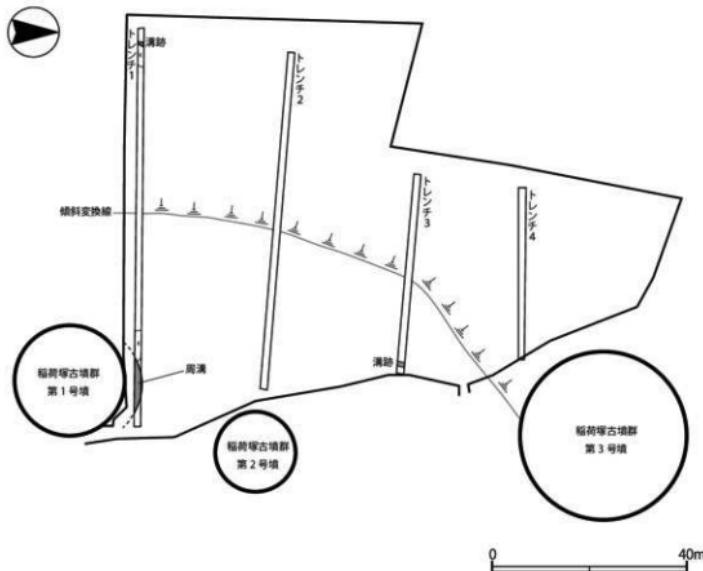
トレンチ 2 70m × 1.5m。地表下 30 ~ 85cm で関東ローム層上面が確認されたが、遺構は検出されなかった。遺物は土師器の細片が若干出土している。

トレンチ 3 41m × 1.5m。地表下 20 ~ 35cm で関東ローム層上面が確認されるとともに、東端で時期・性格不明の溝跡が 1 条検出された。遺物は土師器の細片が若干出土している。

トレンチ 4 35m × 1.5m。地表下 100 ~ 110cm で関東ローム層上面が確認されたが、擾乱が著しく、遺構は検出されなかった。遺物は土師器の細片が若干出土している。



第 14 図 稲荷塚古墳群（第 1 地点）の位置



第 15 図 稲荷塚古墳群（第 1 地点）のトレンチ配置

(2) 古墳の規模

墳裾の測量調査の結果、第1号墳が直径23m、第2号墳が直径17m、第3号墳が直径34mを測ることが判明した。第1号墳については、トレント1において周溝が確認されており、周溝の外径は推定28mに及ぶことが明らかとなつた。

(3) 確認された埋蔵文化財の取り扱い

トレント1において第1号墳の周溝が、トレント1と3において溝跡が確認されたが、30cm以上 の保護層を確保できることから、埋蔵文化財専門職員による工事立会が相当であるとした。(関口)

2-6 茨城高等学校遺跡（第1地点-2次）

所在地 水戸市八幡町8-54

開発面積 126 m²

調査期間 平成21年3月16日

調査原因 仮拝殿設置

調査担当 関口慶久

調査概要 開発対象地内にトレントを2箇所設定し（第17図）、関東ローム層上面を目標に重機を用いて掘削した。

(1) トレントの概要

トレント1 3m×1m、地表下35cmで灰褐色の硬化面が、地表下40cmで関東ローム層上面が確認された。硬化面および関東ローム層上面から遺構・遺物は検出されなかった。表土層からは奈良・平安時代の土器片および近世～近代にかかる陶磁器・土器が出土した。

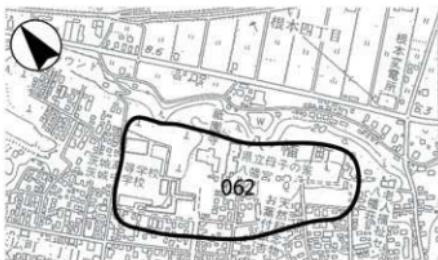
トレント2 7m×1m、地表下35cmで灰褐色の硬化面が、地表下40cmで関東ローム層上面が確認されたが、遺構・遺物は検出されなかった。(関口)

(2) 出土物

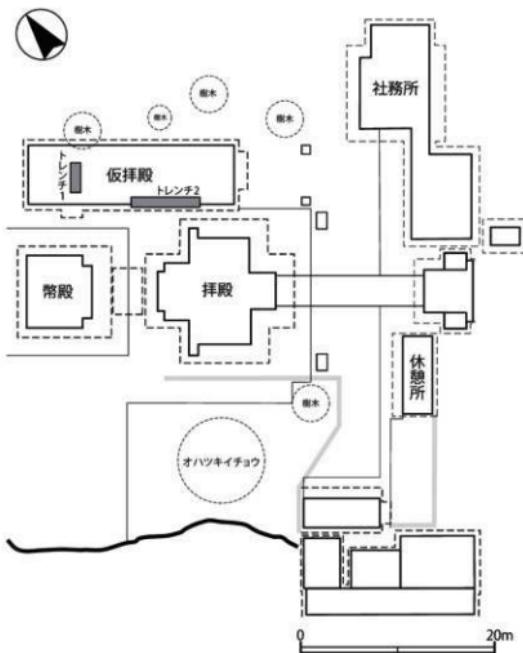
第18図-1～4は近世～近代にかかる時期の陶磁器類である。1は在地産の磁器端反碗、2は瀬戸・美濃産の碗で国民食器、3は肥前産の仏壇具、4は瀬戸・美濃産の陶器白泥梅文碗である。(色川)

(3) 確認された埋蔵文化財の取り扱い

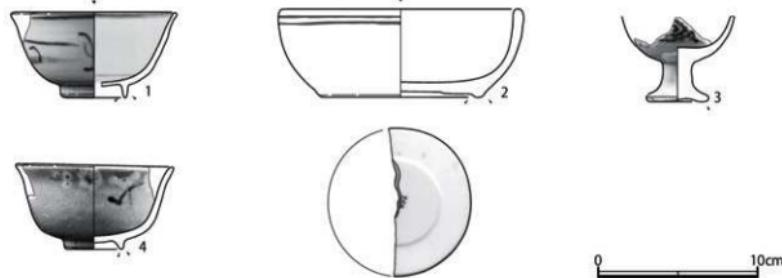
近世に遡る遺構は確認されなかつたことから、慎重工事が相当であるとした。(関口)



第16図 茨城高等学校遺跡（第1地点-2次）の位置



第17図 茨城高等学校遺跡（第1地点-2次）のトレント配置



第18図 茨城高等学校遺跡（第1地点-2次）出土遺物

2-7 上野遺跡（第1地点）

所 在 地 水戸市栗崎町地内（市道常澄8-1067号線）

開発面積 1,346.42 m²

調査期間 平成20年10月28日

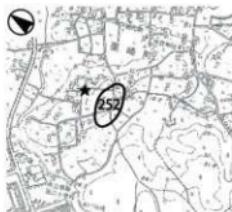
調査原因 側溝新設工事

調査担当 源美賀吾

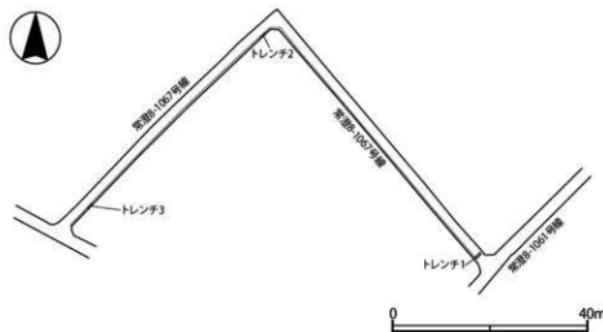
調査概要 開発対象地内にトレンチを3箇所設定し（第20図），関東ローム層上面を目標に重機を用いて掘削した。

（1）トレンチの概要

トレンチ1 1.5m × 0.65m。地表下30～40cmで関東ローム層上面が確認されたが、遺構・遺物は確認されなかった。



トレンチ2 1.5m × 0.6m。地表下45cmで関東ローム層上面が確認されたが、遺構は確認されなかった。トレンチの南壁沿いにイモ穴とみられる搅乱があり、底部に糸切り痕を残すクロ成形カラケ片が出土した。



第20図 上野遺跡（第1地点）のトレンチ配置

トレンチ3 1.8m × 0.65m。地表下46cmで関東ローム層上面が確認されたが、搅乱が著しく、遺構・遺物は確認されなかった。

(2) 確認された埋蔵文化財の取扱い

遺構は確認されなかったことから、慎重工事が相当であるとした。

(渥美)

2-8 江川館跡（第3地点）

所在地 水戸市内原町639-1

開発面積 715.4 m²

調査期間 平成21年3月23日

調査原因 個人住宅建築

調査担当 関口慶久

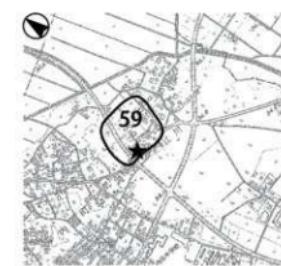
調査概要 開発対象地内にトレンチを1箇所設定し（第22図）、関東ローム層上面を目標に重機を用いて掘削した。

(1) トレンチの概要

トレンチ1 5m × 3m。地表下40cmで関東ローム層上面が確認され、円形のプランが検出された。井戸跡とみられる。覆土の様相や掘方の形状から近代以降の所産と考えられる。

(2) 確認された埋蔵文化財の取扱い

近世以前の遺構・遺物は確認されなかったことから、慎重工事が相当であるとした。



第21図 江川館跡（第3地点）の位置



第22図 江川館跡（第3地点）のトレンチ配置

2-9 大串遺跡（第9地点）

所在地 水戸市大串町字原坪 598-2

開発面積 165.06 m²

調査期間 平成20年5月12日

調査原因 個人住宅建築

調査担当 濱美賢吾

調査概要 開発対象地内にトレンチを2箇所設定し（第24図）、関東ローム層上面を目標に重機を用いて掘削した。

（1）トレンチの概要

トレンチ1 14.3m × 3m。地表下60～70cmで関東ローム層上面が確認され、竪穴建物跡1棟（SI01）と土坑1基（SK01）が検出された。遺物は表土から陶器片1点が出土した。

トレンチ2 2m × 1.5m。地表下60～70cmで関東ローム層上面が確認され、土坑1基（SK02）が検出された。

（渥美）

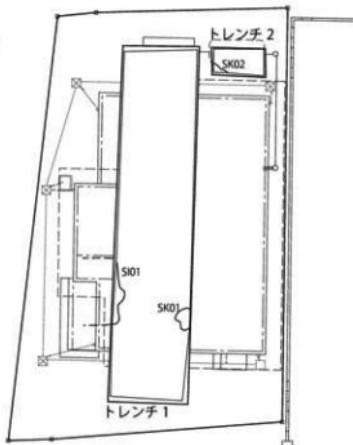
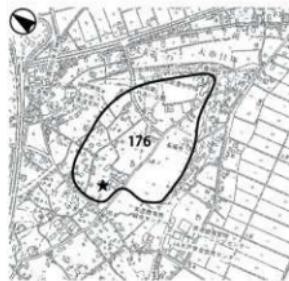
（2）出土遺物

第25図-1は近世の陶器である。底面に糸切痕を残す。（色川）

（3）確認された埋蔵文化財の取扱い

遺構・遺物は確認され、30cm以上の保護層を確保できないことから、記録保存目的とした本発掘調査が相当であるとした。本調査の成果については本書「3-1 大串遺跡（第9地点）」を参照願いたい。

（渥美）

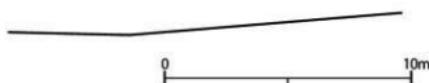


市道 常澄8-1504号線



0 10cm

第25図 大串遺跡（第9地点）出土遺物



第24図 大串遺跡（第9地点）のトレンチ配置

2-10 大城遺跡（第1地点）

所在地 水戸市大足町字舟塚 1277-1

開発面積 474 m²

調査期間 平成 20 年 6 月 5 日

調査原因 個人住宅建築

調査担当 濱美賢吾

調査概要 開発対象地内にトレンチを 2 箇所設定し（第 27 図）、関東ローム層上面を目標に重機を用いて掘削した。

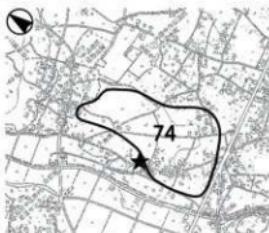
（1）トレンチの概要

トレンチ 1 6m × 3m。地表下 50cm で湧水がみられ、調査の続行は不可能であった。遺構・遺物は確認されなかった。

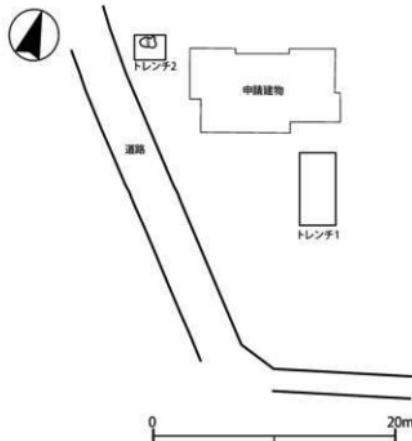
トレンチ 2 2m × 2.5m。地表下 20cm で関東ローム層上面が確認され、黒い落ち込みが 1 基が検出された。性格を把握するため、サブトレンチを設定し、一部掘削したところ、10cm もせずに底面が確認され、明確なプランを持たないことから、遺構とは認定できなかった。遺物は土師器片が少量出土したが、これらは流れ込みと判断した。

（2）確認された埋蔵文化財の取扱い

遺構は確認されなかったことから、慎重工事が相当であるとした。
(濱美)



第 26 図 大城遺跡（第1地点）の位置



第 27 図 大城遺跡（第1地点）のトレンチ配置

2-11 大塚新地遺跡（第6地点）

所在地 水戸市大塚町字表 467

開発面積 226.81 m²

調査期間 平成 20 年 5 月 30 日

調査原因 個人住宅建築

調査担当 濱美賢吾

調査概要 開発対象地内にトレンチを 1 箇所設定し（第 29 図）、関東ローム層上面を目標に重機を用いて掘削した。

（1）トレンチの概要

トレンチ 1 5m × 2m。地表下 60 ~ 70cm で竪穴建物跡 1 棟（SI01）が検出された。その推定規模は一辺 5m 程度と中型のもので、白色粘土と焼土粒子がトレン



第 28 図 大塚新地遺跡（第6～8地点）の位置

チの北壁沿いに飛散していることから、本遺構に伴う竈がトレンチ北のブロック壊直下へ潜り込んでいる可能性がある。遺物は土師器が多く出土しており、その技術的・形態的特徴から7世紀末～8世紀前葉の年代が与えられる。

(渥美)

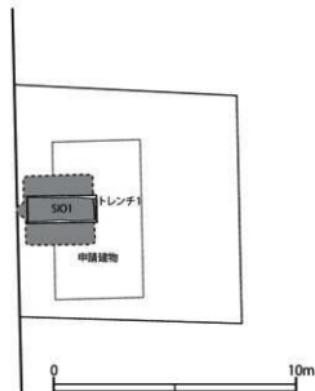
(2) 出土遺物

第30図-1は弥生土器である。RをS巻きした原体(軸不明)による縄文が施されている。2～4はSI01に伴う遺物で、すべて土師器である。2は灰、3・4は甕である。時期は8世紀前葉に位置付けられる。(色川)

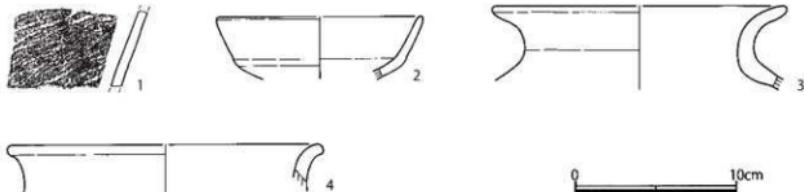
(3) 確認された埋蔵文化財の取扱い

遺構は確認されたが、30cm以上の保護層を確保できることから、工事立会が相当であるとした。

(渥美)



第29図 大塚新地遺跡（第6地点）のトレンチ配置



第30図 大塚新地遺跡（第6地点）出土遺物

2-12 大塚新地遺跡（第7地点）

所在地 水戸市大塚町 544-10

開発面積 252 m²

調査期間 平成20年6月23日

調査原因 個人住宅建築

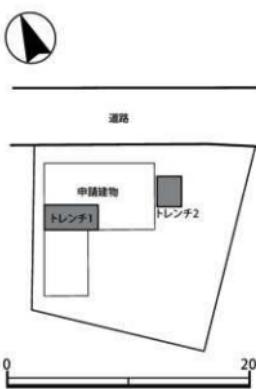
調査担当 渥美賢吾

調査概要 開発対象地内にトレンチを2箇所設定し（第31図）、関東ローム層上面を目標に重機を用いて掘削した。

(1) トレンチの概要

トレンチ1 4.4m×2m。地表下150cmで関東ローム層上面が検出されたが、トレンチャーによる搅乱が著しく、遺構は確認されなかった。遺物は土師器片が少量出土した。

トレンチ2 2.5m×2m。当該トレンチの周辺は関東ロームの第一黑色帶付近まで搅乱が及んでいる状況が確認されたが、遺構・遺物は確認されなかった。



第31図 大塚新地遺跡（第7地点）のトレンチ配置

(2) 確認された埋蔵文化財の取扱い

遺構は確認されなかったことから、慎重工事が相当であるとした。

(渥美)

2-13 大塚新地遺跡（第8地点）

所在地 水戸市大塚町字表 484

開発面積 1,316.17 m²

調査期間 平成 20 年 12 月 11 日

調査原因 個人住宅建築

調査担当 渥美賀吾

調査概要 開発対象地内にトレンチを 2 箇所設定し（第 32 図）、関東ローム層上面を目標に重機を用いて掘削した。

(1) トレンチの概要

トレンチ 1 4m × 1.5m。地表下 60cm で関東ローム層上面が検出されたが、遺構・遺物は確認されなかった。

トレンチ 2 3m × 1.5m。地表下

60cm で関東ローム層上面が検出される

とともに、中央部において焼土粒子が飛散する範囲があり、土師器・須恵器等の遺物が出土した。遺構は確認されなかった。

(2) 確認された埋蔵文化財の取扱い

遺構は確認されなかったことから、慎重工事が相当であるとした。

(渥美)

2-14 大鋸町遺跡（第9地点）

所在地 水戸市元吉田町 2339-4

開発面積 408 m²

調査期間 平成 20 年 12 月 11 日

調査原因 店舗建設

調査担当 渥美賀吾

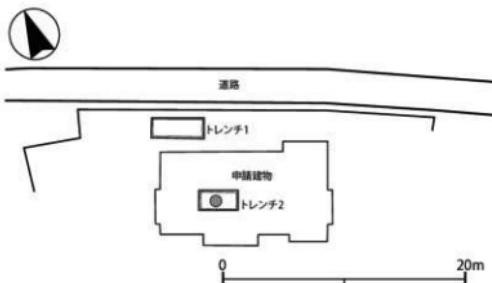
調査概要 開発対象地内にトレンチを 3 箇所設定し（第 34 図）、関東ローム層上面を目標に重機を用いて掘削した。

(1) トレンチの概要

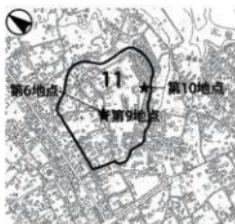
トレンチ 1 3.4m × 2m。地表下 30cm で関東ローム層上面が検出されるとともに、北西隅において土坑が確認された（SK01）。遺物は土師器片が少量出土した。

トレンチ 2 5.8m × 2m。地表下 10 ~ 20cm で関東ローム層上面が検出されるとともに、竪穴建物跡 2 棟が確認された（SI01・SI02）。これらのうち、南東にある SI01 にはサブトレンチを掘削して床面（硬化面）を確認した。SI02 の一部には現代の搅乱が及んでいる。出土した須恵器の技術的・形態的特徴から、SI01 の帰属時期は 8 世紀前葉と考えられる。また、位置関係から考えて、SI02 は SI01 と切り合い関係を持つ可能性が高いが、遺構の主軸方向がほぼ同一と考えられることから 8 世紀後半～9 世紀前半のうちのいずれかにおさまるものと判断される。

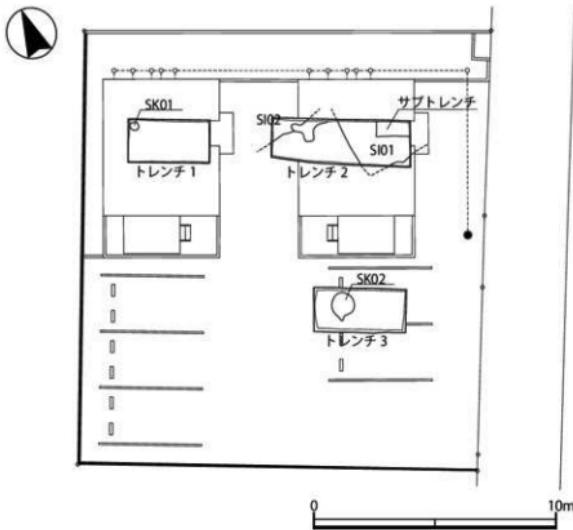
トレンチ 3 3.8m × 2m。地表下 30 ~ 40cm で関東ローム層上面が検出されるとともに、北東隅において土坑が確認された（SK02）。その確認プランの形状から、掘立柱建物跡を構成する柱穴とみられる。従って、当該トレ



第 32 図 大塚新地遺跡（第8地点）のトレンチ配置



第 33 図 大鋸町遺跡（第9・10地点）の位置



第34図 大鋸町遺跡（第9地点）のトレンチ配置



第35図 大鋸町遺跡（第9地点）出土遺物

ンチの外に遺構が広がっているものとみられる。

(渥美)

(2) 出土遺物

第35図-1は弥生土器である。付加条第2種R×Rによる繩文が施されている。時期は後期後半「十王台式」に位置付けられる。

(色川)

(3) 確認された埋蔵文化財の取扱い

遺構は確認されたが、30cm以上の保護層を確保できることから、工事立会が相当であるとした。

(渥美)

2-15 大鋸町遺跡（第10地点）

所在地 水戸市元吉田町 2280-9, 2280-10

開発面積 559.37 m²

調査期間 平成20年8月6日

調査原因 個人住宅建築

調査担当 涼美賢吾

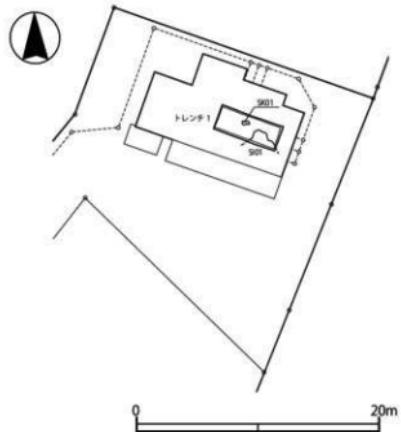
調査概要 開発対象地内にトレンチを1箇所設定し（第36図）、関東ローム層上面を目標に重機を用いて掘削した。

（1）トレンチの概要

トレンチ1 5m×2m。地表下40～80cmで関東ローム層上面が検出されるとともに、竪穴建物跡1棟（SI01）と土坑1基（SK01）が確認された。遺物は土師器片や弥生土器片が少量出土した。

（2）確認された埋蔵文化財の取扱い

遺構が確認され、30cm以上の保護層が確保できないことから、記録保存を目的とした本发掘調査が相当であるとした。本調査の成果については本書「3-2 大鋸町遺跡（第10地点）」を参照願いたい。（涼美）



第36図 大鋸町遺跡（第10地点）のトレンチ配置

2-16 釜神町遺跡（第4地点）

所在地 水戸市備前町 754-4, 754-11, 754-12

開発面積 366.5 m²

調査期間 平成21年3月13日

調査原因 個人住宅建築

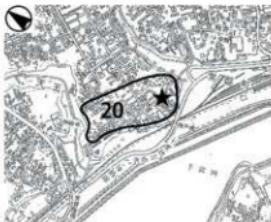
調査担当 関口慶久

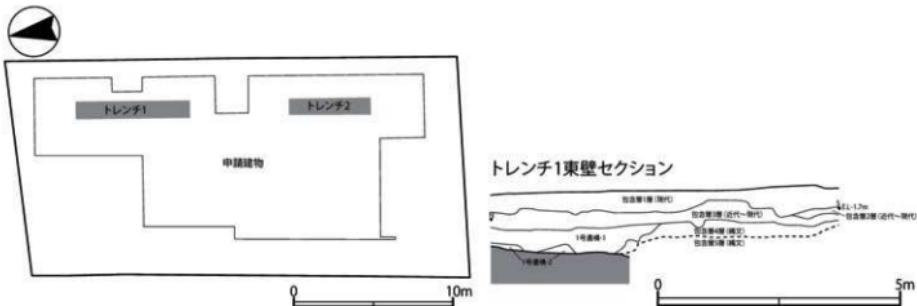
調査概要 開発対象地内にトレンチを2箇所設定し（第38図）、関東ローム層上面を目標に重機を用いて掘削した。

（1）トレンチの概要

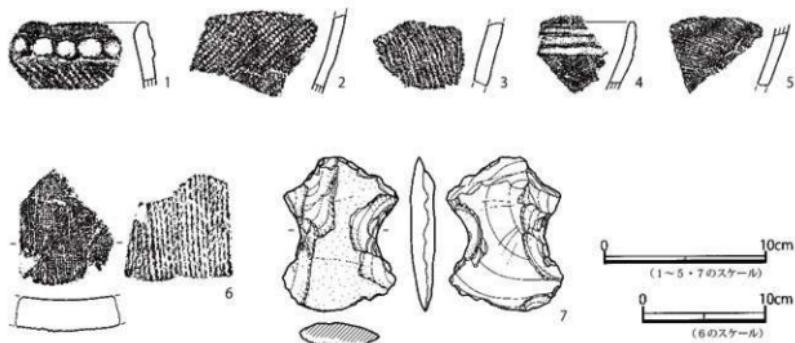
トレンチ1 7m×1m。遺物包含層が4層確認されている（第38図）。包含層1層～3層（層厚58cm）は近代以降の所産である。トレンチ1の北側約2.6mまでは関東ローム層上面が確認できたが、それより南側では急速に落ち込んでいる。上市台地の縁辺部がかつてはこの地点まで及んでいたことが窺われる。トレンチ1で検出された遺構は第1号遺構である。本遺構からは18世紀後半～19世紀前半代の近世陶磁器・金属器・木製品が多量に出土した。掘方が不整形であり、また土質の状況から近世の一括廃棄土坑（ごみ穴）であることは間違いない。出土遺物は瀬戸・美濃産の磁器を中心に七面焼も一定量出土している。本遺跡が立地する備前町じゃ江戸期の地割がほぼそのまま残っており、古地図との照合が可能な地域である。本地点は武家屋敷跡であり、鳥居氏・萩原氏の屋敷地に比定される。これらの遺物は武家地における遺物組成を窺ううえでの好資料となる。また、遺構底面からは金箔を貼った漆塗の木片が検出された（原色図版2-4）。黒地絵箱（武家の調度品）の断片と思われる。詳細については第6章を参照願いたい。

トレンチ2 5m×1m。地表下200cmで縄文時代の遺物包含層（トレンチ1で確認された包含層4層・5層）が確





第38図 釜神町遺跡（第4地点）のトレンチ配置とトレンチ1の土層断面



第39図 釜神町遺跡（第4地点）出土遺物（1）

認された。それより上層は全て近代以降の盛土層である。遺構は認められなかったが、縄文土器片が相当量出土している。その出土量から勘案すれば、本地点付近に縄文時代の集落が広がっている可能性が高い。（関口）

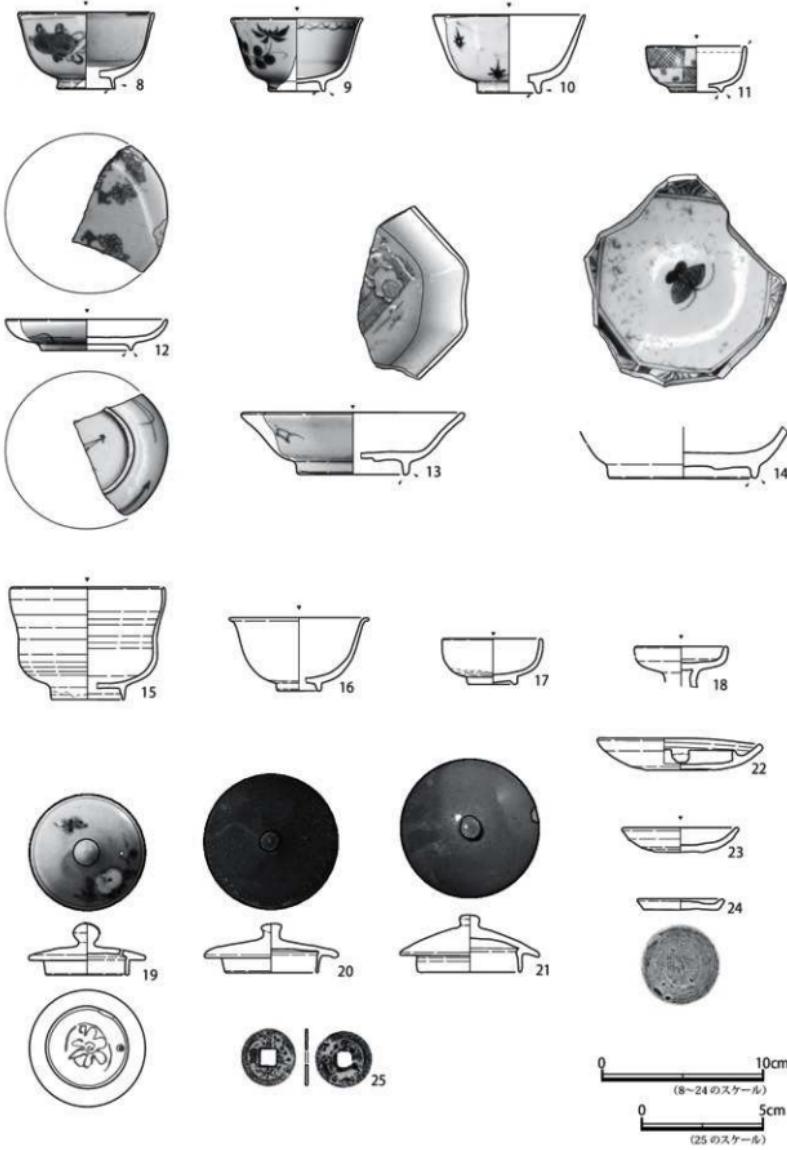
（2）出土遺物

第39図-1～5は縄文土器である。1・2は後期中葉「加曾利B式」、4・5は晩期に位置付けられる。6は奈良時代の平瓦である。凹面に布目压痕、凸面に長縄叩きの痕跡がみられる。側面の角度から桶巻き作りによるものと考えられる。7は分銅形打製石斧で、石材はホルンフェルスである。第40図-8～14は磁器、15～19・22は焼綿陶器、20・21・23は陶器である。15～23は倍楽園下に營まれた七面製陶所産の製品であり、1838年以降の年代が与えられるものである。中でも19は内面に花卉文の墨書きがみられる興味深い資料である。24はかわらけ、25は寛永通宝（新寛永）である。（色川）

（3）確認された埋蔵文化財の取扱い

遺構が確認されたが、30cm以上の保護層が確保できることから、慎重工事が相当であるとした。

（関口）



第40図 釜神町遺跡（第4地点）出土遺物（2）

2-17 雁沢遺跡（第1地点）

所在地 水戸市元石川町字雁沢 909-1, -4, -6, -8, -12,

910-1

開発面積 2,899.77 m²

調査期間 平成20年6月9日～6月13日

調査原因 伐採工事

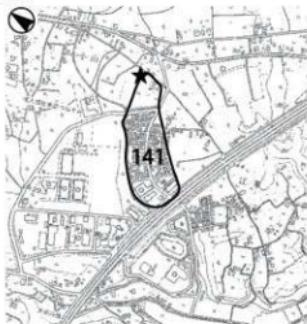
調査担当 澤美賛吾

調査概要 開発対象地内にトレーナーを7箇所設定し（第42図）、関東ローム層上面を目標に重機を用いて掘削した。

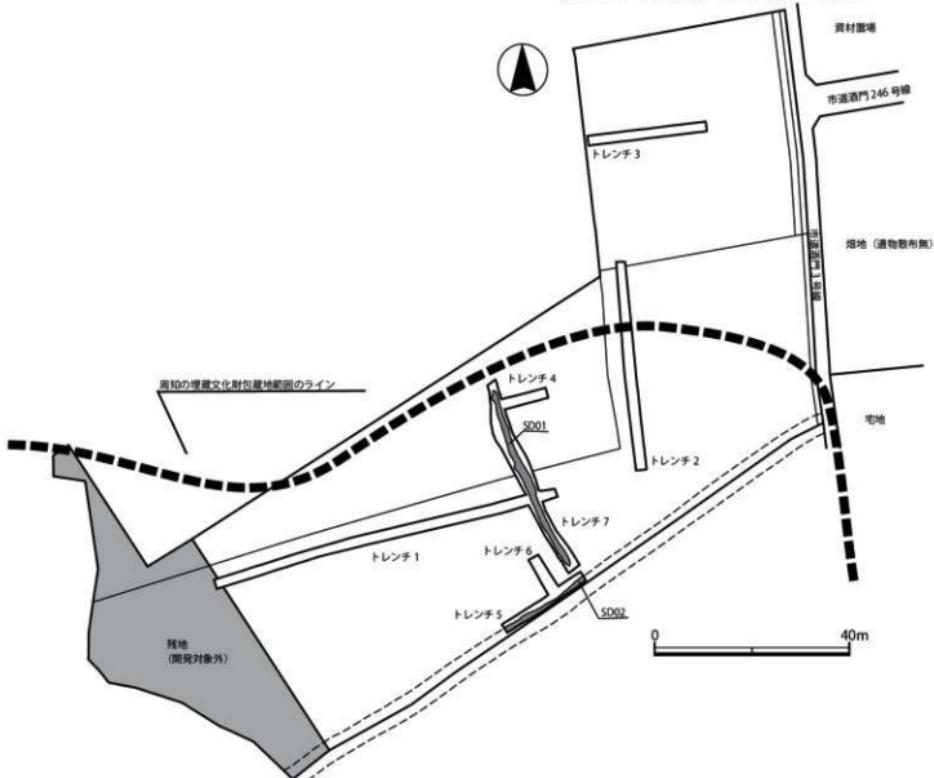
（1）トレーナーの概要

トレーナー1 72m×2m。地表下30～40cmで関東ローム層上面が検出されるとともに、トレーナー西端から62mの地点で溝跡が確認された（SD01）。SD01の上面からは縄文土器が出土した。

トレーナー2 43m×2m。地表下40～50cmで関東ローム層上面



第41図 雁沢遺跡（第1地点）の位置



第42図 雁沢遺跡（第1地点）のトレーナー配置

が検出されたが、遺構・遺物は確認されなかった。

トレンチ3 25m × 2m。地表下40～50cmで関東ローム層上面が検出されるとともに、トレンチ西端で幅50cm程の細い溝状のプランが確認された。その性格や構造を把握するため、サブトレンチを設けて掘削したところ、遺物の出土もみられず30cmで底面に至った。断面形状からも近現代に何らかの管を埋設したような痕跡と判断されたことから、埋蔵文化財とは認定しなかった。

トレンチ4 8m × 2m。地表下40～50cmで関東ローム層上面が検出されたが、遺構・遺物は確認されなかった。

トレンチ5 19m × 2m。地表下40cmで関東ローム層上面が検出されるとともに、トレンチ南半から溝跡が確認された（SD02）。SD02は隣地境界線の直下を中心に幅4m前後で東北東から西南西に向かって走っていると推定される。当該境界線は水戸市市制施工前から酒門町（石川村）と常澄村（大場村）との境であったとの聞き取り結果があること、現在の公図にある地割りどおりに溝が検出されたことから、近世村落の境溝（区画溝）である可能性が高い。

トレンチ6 6m × 2m。地表下40cmで関東ローム層上面が検出されたが、遺構・遺物は確認されなかった。

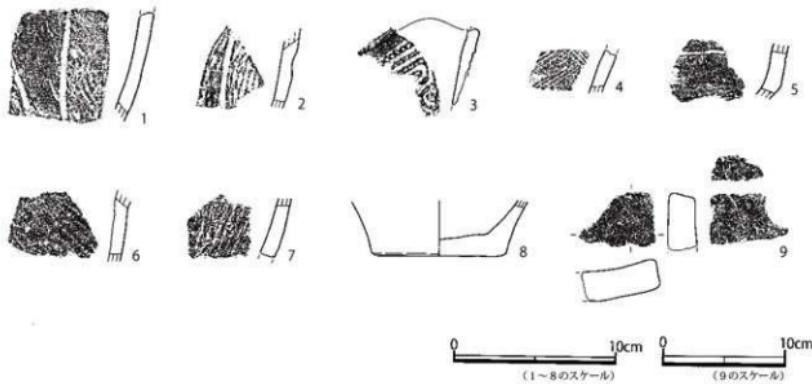
トレンチ7 43m × 3m。SD01の全容を把握するため、設定した。地表下30～40cmでSD01が検出された。SD01は幅1.3m、長さ39mにわたるものであることが判明した。断面構造や深さを把握するため、サブトレンチを設定し、掘削したところ深さ70cm程度とやや浅く、覆土からは遺物は殆ど出土しないが、逆台形の掘方を持つ細い溝であることが明らかとなった。
(渥美)

(2) 出土遺物

第43図-1～8は縄文土器である。時期は後期前半「堀之内式」に位置付けられる。9は平瓦である。凹面に布目圧痕、凸面にヘラ削りの痕跡がみられる。側面の角度から桶巻き作りによるものと考えられる。
(色川)

(3) 確認された埋蔵文化財の取扱い

遺構が確認され、30cm以上の保護層が確保できないことから、記録保存を目的とした本発掘調査が相当であるとした。なお、本発掘調査は平成20年10月29日～11月21日の期間に毛野考古学研究所が実施し、記録保存を終えている（宮田・渥美 2009）。
(渥美)



第43図 雁沢遺跡（第1地点）出土遺物

2-18 河和田城跡（第6地点）

所在地 水戸市河和田町 552

開発面積 435.01 m²

調査期間 平成20年5月7日

調査原因 個人住宅建築

調査担当 関口慶久

調査概要 開発対象地内にトレンチを2箇所設定し(第45図),関東ローム層上面を目標に重機を用いて掘削した。

(1) トレンチの概要

トレンチ1 10m×1m。地表下85cmで関東ローム層上面が検出されたが、遺構・遺物は確認されなかった。

トレンチ2 2m×1m。地表下85cmで関東ローム層上面が検出されたが、遺構は確認されなかった。遺物は表土から印判手の磁器片が1点出土した。

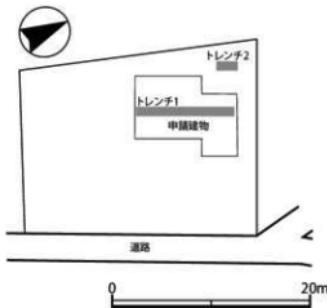
(2) 確認された埋蔵文化財の取扱い

遺構が確認されなかったことから、慎重工事が相当であるとした。

(関口)



第44図 河和田城跡（第6地点）の位置



第45図 河和田城跡（第6地点）のトレンチ配置

2-19 崩れ橋遺跡（第1地点）

所在地 水戸市内原町 4304-33（主要地方道石岡常北線）

開発面積 64 m²

調査期間 平成20年8月11日・9月17・24・25日

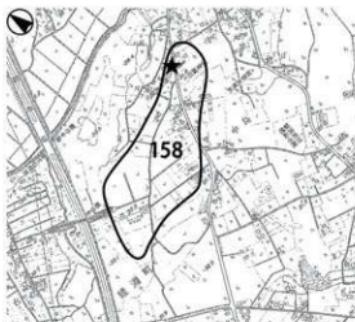
調査原因 県道拡幅工事

調査担当 関口慶久、後藤一成・山口憲一（県教育庁文化課）

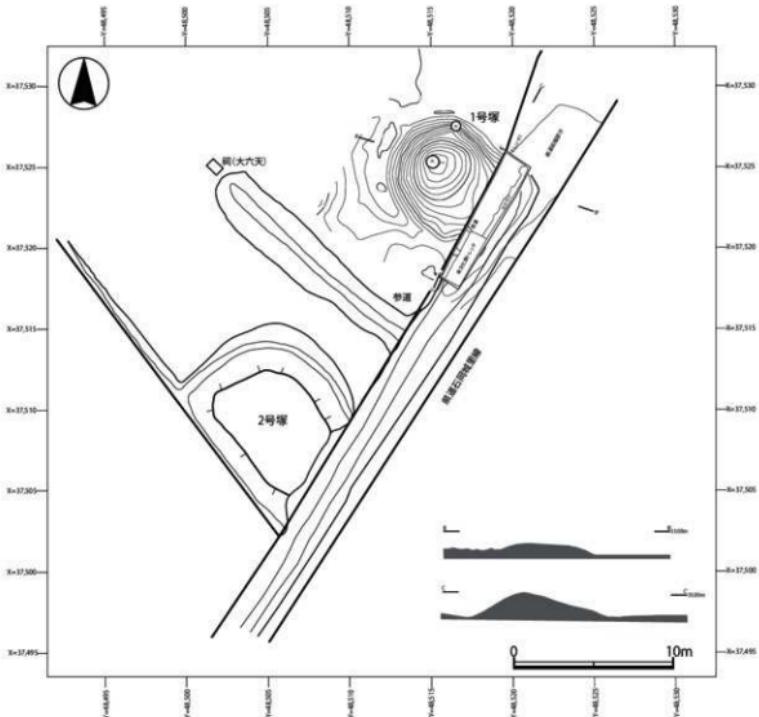
調査概要 今般の道路改良工事に伴う塚（近世）への影響は狭い範囲に限られることから、通常の発掘調査での対応は困難であると判断された。市教育委員会は水戸土木事務所と調整・協議を重ね、次の3点について合意した。

①開発工事前に今般の土木工事により影響を受ける1号塚の詳細な地形測量を水戸土木事務所の委託業務として実施する（2号塚については影響を受けないため略測に留める）。

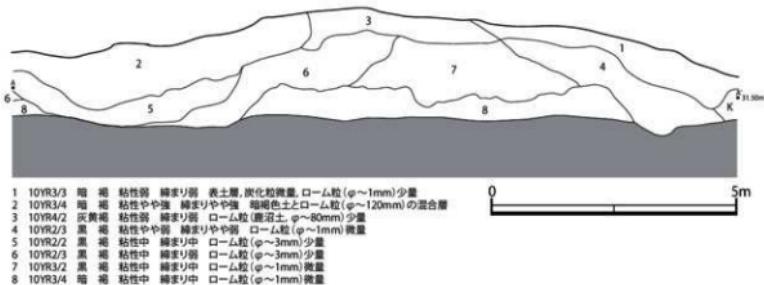
②工事によって影響が及ぶ盛土状の高まりが、古墳あるいは塚なのか明確でないことから、遺跡の有無および取扱



第46図 崩れ橋遺跡（第1地点）の位置



第47図 崩れ橋遺跡（第1地点）の測量図とトレンチ配置



第48図 崩れ橋遺跡（第1地点）のトレンチ西壁土層断面

いの可否を判断するために、工事着手前に確認調査を市教育委員会の協力を得て実施する。

- ③開発範囲内において、特殊な構造および遺物がみられないこと、開発範囲外が狭小であることなどから、通常の発掘作業は困難であるが、確認調査および現況の測量調査によって、開発に伴い削平される範囲の記録を残すことができる。

以上のことから、平成 20 年 8 月 11 日に水戸土木事務所から委託された茨城県建設技術公社によって、現況の地形測量が実施され（第 47 図）、県教育庁文化課および市教育委員会が確認のために立会い、同年 9 月 17・24・25 日に工事によって影響を受ける範囲の確認調査を実施した。開発対象地内にトレンチを 1 箇所設定し、関東ローム層上面を目標に重機を用いて掘削した（第 47 図）。

（1）トレンチの概要

トレンチ 1 8.6m × 1.4m。土層断面（第 48 図）の観察から、人為的な堆積状況が確認され、盛土状の高まりは塚であることが判明した。塚の周囲には周溝状の窪みが認められることから、塚としての形状を維持するために、これまで長い期間にわたって塚周囲の土を掘り削めて塚へ持ってきたと考えられる。

（2）出土遺物

第 49 図 -1・2 は磁器の碗である。3 は寛永通宝（新寛永）である。

（色川）

2-20 軍民坂遺跡（第 4 地点）

所 在 地 水戸市上国井町 3585-1

開発面積 668 m²

調査期間 平成 20 年 11 月 20 日

調査原因 個人住宅建築

調査担当 澤美賀吾

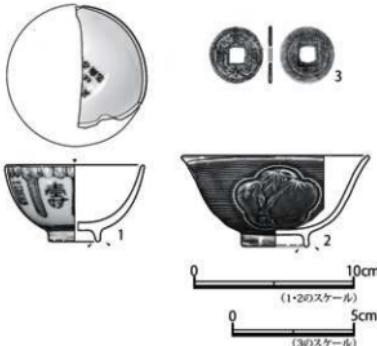
調査概要 開発対象地内にトレンチを 1 箇所設定し（第 51 図）、関東ローム層上面を目標に重機を用いて掘削した。

（1）トレンチの概要

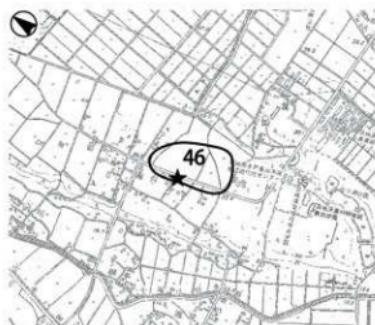
トレンチ 1 5m × 2m。地表下 85 ~ 95cm で関東ローム層上面が検出されるとともに、縄文時代中期の竪穴状遺構 2 基と土坑 3 基が確認された。なお、南側の竪穴状遺構内には、被熱した粘土貼りのビット状遺構が確認された。炉跡あるいは竈である可能性が高い。遺物は縄文土器を中心多く出土している。

（2）確認された埋蔵文化財の取扱い

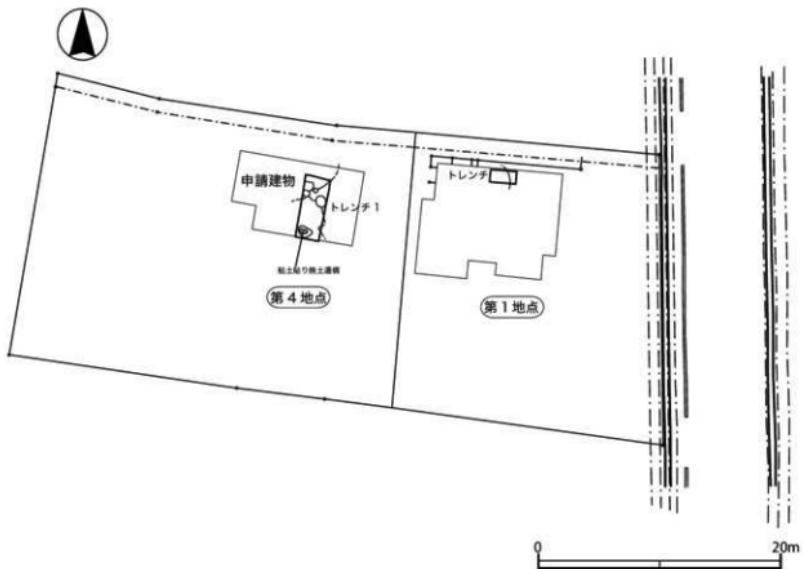
遺構が確認されたが、30cm 以上の保護層が確保できないことから、記録保存を目的とした本発掘調査が相当であるとした。本調査の概要については本書「3-4 軍民坂遺跡（第 4 地点）」を参照願いたい。（渥美）



第 49 図 崩れ橋遺跡（第 1 地点）出土遺物



第 50 図 軍民坂遺跡（第 4 地点）の位置



第51図 軍民坂遺跡（第4地点）のトレンチ配置

2-21 小仲根遺跡（第2地点）

所在地 水戸市元石川町 1892-1

開発面積 454 m²

調査期間 平成20年4月16日

調査原因 個人住宅建築

調査担当 関口慶久

調査概要 開発対象地内にトレンチを2箇所設定し（第53図）、関東ローム層上面を目標に重機を用いて掘削した。

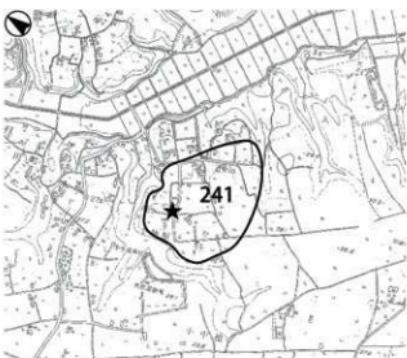
（1）トレンチの概要

トレンチ1 7m×2m。地表下100cmで関東ローム層上面が検出されたが、遺構は確認されなかった。遺物は表土層から土師器片が数点出土した。

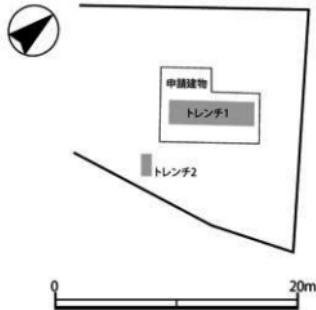
トレンチ2 2m×1m。地表下15cmで関東ローム層上面が検出されたが、遺構は確認されなかった。遺物は表土層から土師器片が数点出土した。

（2）確認された埋蔵文化財の取扱い

遺構が確認されなかったことから、慎重工事が相当であるとした。（関口）



第52図 小仲根遺跡（第2地点）の位置



第 53 図 小仲根遺跡（第 2 地点）のトレンチ配置

2-22 山王遺跡（第 1 地点）

所 在 地 水戸市赤尾閑町字山王 582-1

開発面積 191.15 m²

調査期間 平成 20 年 11 月 26 日

調査原因 個人住宅建築

調査担当 濑美賢吾

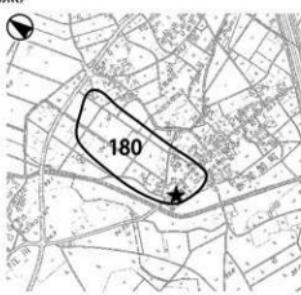
調査概要 開発対象地内にトレンチを 1 箇所設定し（第 55 図）、関東ローム層上面を目標に重機を用いて掘削した。

（1）トレンチの概要

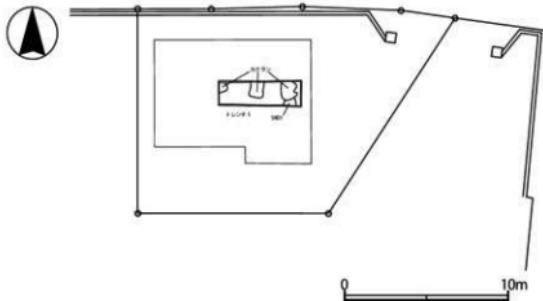
トレンチ 1 5m × 1.5m。地表下 50cm で関東ローム層上面が検出されるとともに、トレンチ南壁東側に沿って、円形の土坑プランが確認された。遺物は古墳時代前期の土師器等が少量出土した。

（2）確認された埋蔵文化財の取扱い

遺構・遺物が確認され、30cm 以上の保護層が確保できないことから、記録保存を目的とした本発掘調査が相当であるとした。（瀬美）



第 54 図 山王遺跡（第 1 地点）の位置



第 55 図 山王遺跡（第 1 地点）のトレンチ配置

2-23 下荒句遺跡（第4地点-2次）

所在地 水戸市双葉台4-238

開発面積 238.69 m²

調査期間 平成20年6月10日

調査原因 個人住宅建築

調査担当 関口慶久

調査概要 開発対象地内にトレンチを5箇所設定し（第57図）、関東ローム層上面を目標に重機を用いて掘削した。

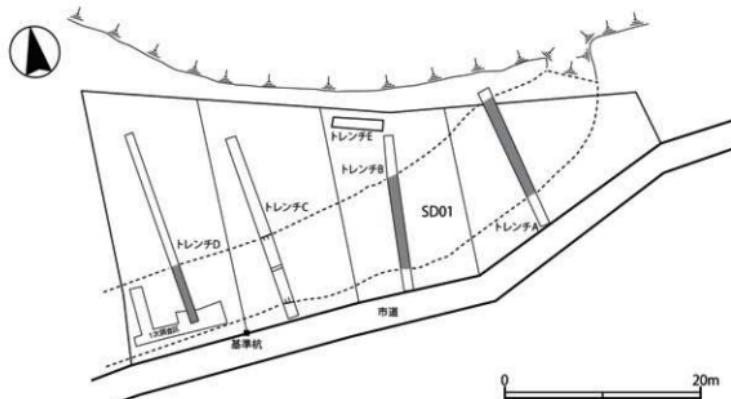
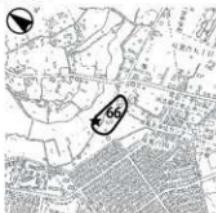
（1）トレンチの概要

トレンチA 15m × 1m。地表下60cmで関東ローム層上面が検出されるとともに、堀（SD01）が確認されたが、遺物は確認されなかった。

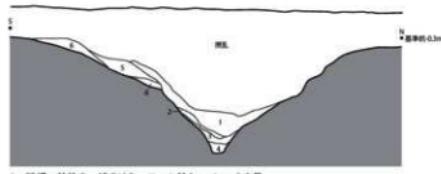
トレンチB 16m × 1m。地表下60cmで関東ローム層上面が検出されるとともに、堀（SD01）が確認されたが、遺物は繩文土器片が数点表土層から出土した。

トレンチC 19.6m × 1m。地表下60cmで関東ローム層上面が検出されるとともに、堀（SD01）が確認されたが、

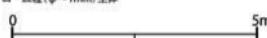
第56図 下荒句遺跡（第4地点-2次）の位置



第57図 下荒句遺跡（第4地点-2次）のトレンチ配置



- | | | | | |
|---|-----|-----|--------|------------------|
| 1 | 暗褐色 | 粘性中 | 締まり中 | ローム粒(φ~1mm) 中量 |
| 2 | 黒褐色 | 粘性強 | 締まりやや弱 | ローム粒(φ~3mm) 中量 |
| 3 | 暗褐色 | 粘性強 | 締まりやや弱 | ローム粒(φ~1mm) 多量 |
| 4 | 暗褐色 | 粘性強 | 締まりやや弱 | ローム粒(φ~2mm) 多量 |
| 5 | 黒褐色 | 粘性中 | 締まりやや弱 | ローム粒(φ~1mm) やや多量 |
| 6 | 黄褐色 | 粘性強 | 締まり中 | ローム粒(φ~1mm) 主体 |



第58図 下荒句遺跡（第4地点-2次）トレンチC 土層断面

遺物は確認されなかった。部分的に掘削したところ、幅7m、確認面からの深さ2.3mの規模であることが確認された。プランは南側の道路に概ね並行して走っており、トレンチAより西側へ5m付近から北側斜面地に向かって屈曲し、耕作地に接している。覆土の大半は現代の埋め土である。これは平成19年度に実施した第1次調査の際に確認された産業廃棄物を撤去し、埋め戻したものである。近世以前とみられる覆土は6層にわたって確認され、とくに2～4層は水気が多く、流水・帶水があった可能性がある（ただし、水性作用の痕跡は認められなかったため、恒常的なものではなかった可能性が高い）。

トレンチD 20.5m×1m。地表下60cmで関東ローム層上面が検出されるとともに、壠(SD01)が確認されたが、遺物は確認されなかった。

トレンチE 5m×1m。地表下50cmで関東ローム層上面が検出されたが、遺構・遺物は確認されなかった。

(2) 確認された埋蔵文化財の取扱い

遺構が確認されたものの、30cm以上の保護層が確保できることから、慎重工事が相当であるとした。（関口）

2-24 周知外（安楽寺遺跡近接）

所在地 水戸市元吉田町2056

開発面積 264.46 m²

調査期間 平成21年2月2日

調査原因 個人住宅建築

調査担当 関口慶久

調査概要 開発対象地内にトレンチを1箇所設定し（第60図）、関東ローム層上面を目標に重機を用いて掘削した。

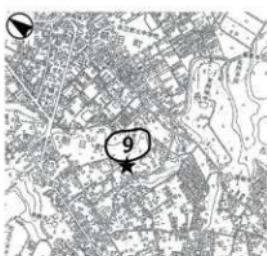
(1) トレンチの概要

トレンチ1 6m×2m。地表下30cmで関東ローム層上面が検出されたが、遺構は確認されなかった。遺物は表土層から縄文土器片が数点出土した。

(2) 確認された埋蔵文化財の取扱い

遺構が確認されなかったことから、慎重工事が相当であるとした。

（関口）



第59図 周知外（安楽寺遺跡近接）の位置



第60図 周知外（安楽寺遺跡近接）のトレンチ配置

2-25 新田遺跡（第1地点-2次）

所在地 水戸市全限町 1366-1

開発面積 2,300 m²

調査期間 平成 20 年 7 月 28 日～8 月 1 日

調査原因 吐水槽建設

調査担当 濑美賀吾

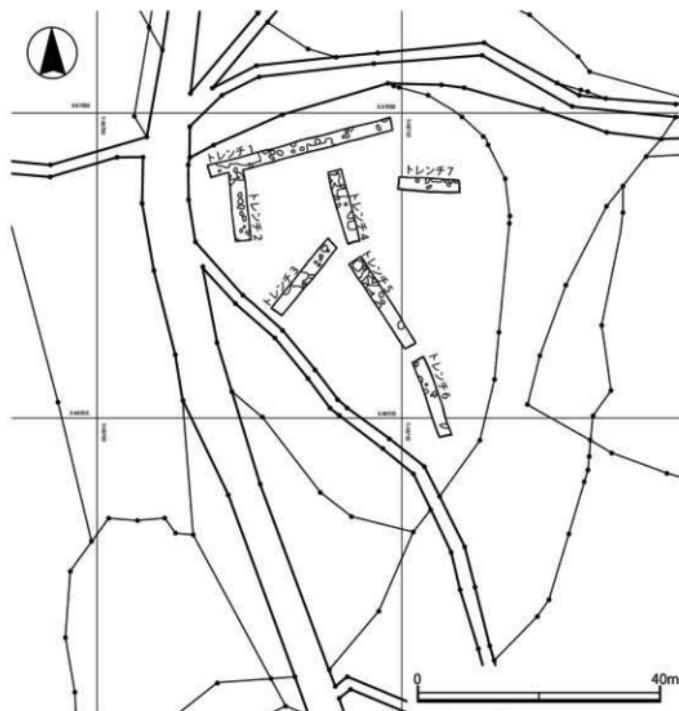
調査概要 平成 19 年度に 7 箇所のトレンチを設定して試掘調査を行ったが（1 次），開発対象地内は山林で伐採が行われていなかったため，人力による掘削にとどまり調査面積は限定されていた（川口・色川編 2010）。年度が変わって伐採が行われたため，調査面積を広げることが可能となった今年度は，開発対象地内にトレンチを 7 箇所設定し，関東ローム層上面を目標に重機を用いて掘削した（第 62 図）。

（1）トレンチの概要

トレンチ 1 31m × 2m。地表下 40 ～ 70cm で関東ローム層上面が検出された。中央部で集石遺構が確認され



第 61 図 新田遺跡（第1地点-2次）の位置



第 62 図 新田遺跡（第1地点-2次）のトレンチ配置

るとともに土坑が多数確認された。とくに東部において確認した土坑プラン内およびその周囲には炭化材や焼土粒子が飛散しており、これらには縄文時代早期の炉穴が内包されている可能性が高い。遺物は縄文土器のほかに礫が多数出土した。礫は大小様々であるが、おおむね拳大よりやや大きい程度のものが多い。中には被熱して表面が真っ赤になっているものもあった。

トレンチ2 11.4m×2m。トレンチ1西部でほぼ直交するように設定した。地表下40～50cmで関東ローム層上面が検出された。トレンチ1との交点付近では、表土および遺構確認面から一定量の縄文土器が出土した。多くは早期の貝殻条痕文系土器とみられるが、中には中期阿玉台式と思われるものもある。遺物が多量に出土した場所では、土坑状の遺構が大小確認され、中には相互に切り合っているものもあった。注目すべきは、当該トレンチの南部で須恵器2点が出土し、その周囲に直径30cmほどの土坑が点在している状況である。須恵器は平底甌の底部で、あるいは蔽骨器であった可能性も考えられる。

トレンチ3 14.7m×2m。地表下40～70cmで関東ローム層上面が検出された。当該トレンチの南端2mほどは、ローム層上面が検出されず、地山の黄褐色土層が広がっていた。この付近では出土遺物もほとんどなく、礫の出土量も少なく、遺構も確認されなかつた。これより南側は傾斜角40°前後の急斜面で、現況でも人間が普通には立つことが出来ない。生活の痕跡を求めるることは極めて困難である。また、須恵器窯等の生産遺跡の所在する可能性も捨てきれないが、遺物が採集された履歴のないこと、切り通しの断面観察により、現況地盤より2mほどところで岩盤が露出していることを考慮すれば、その可能性も低いと考えられる。したがって、当該トレンチ南端付近が包蔵地の端と考えてよい。当該トレンチの中央部から北端にかけては多数の土坑が検出された。土器・礫が多量に出土したほか、確認された遺構プランの周辺には炭化物・焼土粒子が飛散していることから、そのいずれかは炉穴と考えられる。

トレンチ4 12.2m×2m。地表下40～50cmで関東ローム層上面が検出された。遺構は土坑が多数確認され、縄文土器や礫（焼礫を含む）が多く出土した。確認プランから遺構相互の切り合いが存在する可能性がある。

トレンチ5 16.8m×2m。地表下40～50cmで関東ローム層上面が検出された。南方へ地形が下がっていくに従って、深度はより深くなる。遺構は土坑が多数確認され、縄文土器や礫（焼礫を含む）が多く出土した。

トレンチ6 13.5m×2m。トレンチ5を南方へさらに拡張して設定したトレンチである。本来ならば、トレンチ5と同一であるべきところであるが、樹木の切り株を回避したことから、便宜的に別トレンチとした。地表下50cmで関東ローム層上面が検出された。ただし、南方へ地形が下がって行くに従って、深度はより深くなる。関東ローム層を被覆する表土第2層も他のトレンチとは様相が異なり、他のトレンチで暗褐色土であったものが、当該トレンチでは明褐色土が堆積している。遺構は土坑が多数確認され、縄文土器や礫（焼礫を含む）が多く出土した。特に最も北側で確認された土坑には周囲に礫が並んでいる様子が確認面からうかがえ、石組状になっている可能性がある。確認された土坑のうち、いくつかは相互に切り合っている可能性が考えられ、トレンチ南端では、炭化物・焼土粒子が多量に飛散している状況が確認されることから、確認された土坑には炉穴が含まれている可能性が高い。

トレンチ7 10.1m×2m。トレンチ4の東方の緩斜面に直交して東西方向に設定した。地表下50cmで関東ローム層上面が検出された。縄文土器や礫（焼礫を含む）が出土したが、他のトレンチに比べれば少ない。傾斜地を下るに従って、遺構の分布も希薄となるようである。当該トレンチも他のトレンチと同様、土坑が多量に確認され、その周囲には炭化物・焼土粒子が多量に飛散していることから、確認された土坑には炉穴が含まれている可能性が高い。出土した縄文土器の中には沈線文系土器とみられる破片も含まれており、これまで確認されていた時期よりも古いものが確認される可能性がある。

(2) 確認された埋蔵文化財の取り扱い

遺構・遺物が確認されたため、事業者と保存について協議を重ねたが、吐水槽建設の代替地の確保は困難であり、吐水槽建設に伴い生じる削平土を用いて水戸市道を建設することから、工事計画の変更は困難であるとの結論に達した。そのことから、記録保存を目的とした本発掘調査の実施が相当であるとした。その後、平成21年5月1日～7月31日の期間に財団法人茨城県教育財団埋蔵文化財調査部による本発掘調査が行われ、竪穴建物跡3棟、炉跡7基、階穴6基、土坑43基、道路跡1条、ピット群1箇所、集石7基、石器集中地点調査区3箇所が確認された。竪穴建物跡は縄文時代後期のものであることが確認された。遺物は縄文時代早期・後期の土器のほかに石

鐵や石匙、磨製石斧、奈良・平安時代の土師器・須恵器も出土している。なお、第1次調査・第2次調査で出土した遺物については、本発掘調査を担当した財団法人茨城県教育財団埋蔵文化財調査部へ移管済みである。

(渥美)

2-26 仙光内遺跡（第2地点）

所在地 水戸市飯島町字閑場 527-4

開発面積 500 m²

調査期間 平成20年9月12日

調査原因 個人住宅建築

調査担当 渥美賢吾

調査概要 開発対象地内にトレンチを2箇所設定し（第64図）、関東ローム層上面を目標に重機を用いて掘削した。

（1）トレンチの概要

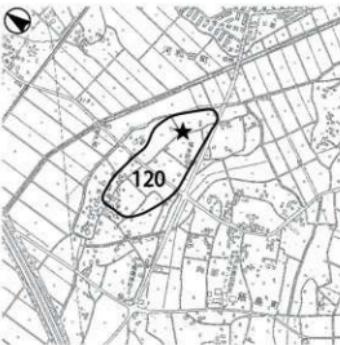
トレンチ1 4m×1.5m。地表下50cmで関東ローム層上面が検出されるとともに、トレンチ西壁沿いに竪穴建物跡（SI01）が確認された。本遺構の覆土には焼土と炭化材が含まれている。また、トレンチ中央部や東部でも円形・溝状の落ち込みが確認された。これらはサブトレンチを設定し、部分的に掘削したところ、遺構ではなく現代の搅乱や植栽痕であると判断された。遺物は土師器片が少量出土した。

トレンチ2 4m×1m。地表下60cmで関東ローム層上面が検出されるとともに、土坑2基を確認した（SK01・SK02）。トレンチ北半部では、円形状の落ち込みが確認されたが、サブトレンチを設定し、部分的に掘削したところ、遺構ではなく、現代の搅乱や植栽痕と判断された。遺物は土師器片が少量出土した。

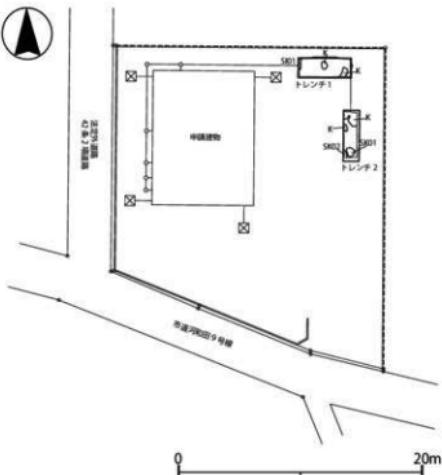
（2）確認された埋蔵文化財の取扱い

遺構が確認されたものの、浄化槽の埋設位置を移動できることになったため、工事立会が相当であるとした。

（渥美）



第63図 仙光内遺跡（第2地点）の位置



第64図 仙光内遺跡（第2地点）のトレンチ配置

2-27 台渡里遺跡（第43次）

所在地 水戸市渡里町 3009-1

開発面積 642.86 m²

調査期間 平成20年7月10日

調査原因 個人住宅建築

調査担当 濱美賢吾

調査概要 開発対象地内にトレンチを2箇所設定し（第64図）、関東ローム層上面を目標に重機を行い、掘削した。

（1）トレンチの概要

トレンチ1 14m × 2m。ただし、浄化槽埋設位置の変更の可能性を探るため、適宜拡張を行い、最終的には幅4m弱、長さ14mにわたって掘削した。地表下60cmで関東ローム層上面が検出されるとともに、トレンチ西壁沿いに溝跡（SD01）が確認された。確認された幅は2mあり、官衙に連関する区画溝である可能性が高い。また、土坑1基（SK01）も確認されている。遺物は表土や遺構確認面から須恵器や縄文土器が多数出土した。

トレンチ2 6m × 3m。地表下70cmで関東ローム層上面が検出されるとともに、溝跡3条が確認された（SD02～SD04）。これらのうち、北西から南東へ貫くSD02は、その位置と方向から考えて、第8次調査や第9次調査で確認された柵列SD03に連絡するものとみられる（第67図）。とすればその年代は7世紀後半ということになる。

SD02確認面からは、3121型式軒丸瓦の瓦当面がほぼ完形の状態で出土している（原色図版1）。この型式は、主として台渡里廐寺跡長者山地区（那賀郡衛正倉院推定地）の瓦倉に葺かれていたものである。また、3121型式とともに長者山地区的瓦倉の屋根に葺かれたとみられる凸面に糸切痕を残す平瓦や凸面にヘラ削り調整の平瓦も出土しており、なぜ当該地域で出土するのかについては、今後の課題である。

SD01についてもその位置と方向から考えて、第8次調査で確認された溝SD01に連絡するものとみられる（第67図）。とすればその年代は7世紀後半ということになる。SD02と交錯するように確認された溝跡SD03およびSD04は切り合い関係は不明であるが、トレンチ2西側のトレンチ1では同遺構の延長部は確認されていないことから、トレンチ1とトレンチ2の間で屈曲するか、中絶してしまうのか、あるいは溝ではないかのいずれかであるが、これらの問題については、遺構に対する掘り込みを行っていないため、判然としない。

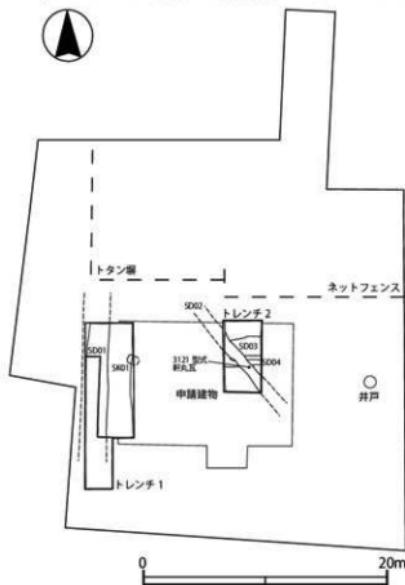
（濱美）

（2）出土遺物

出土遺物は第68・69図に示した。1～4は縄文土器である。1は中期「大木8a～8b式」、2・3



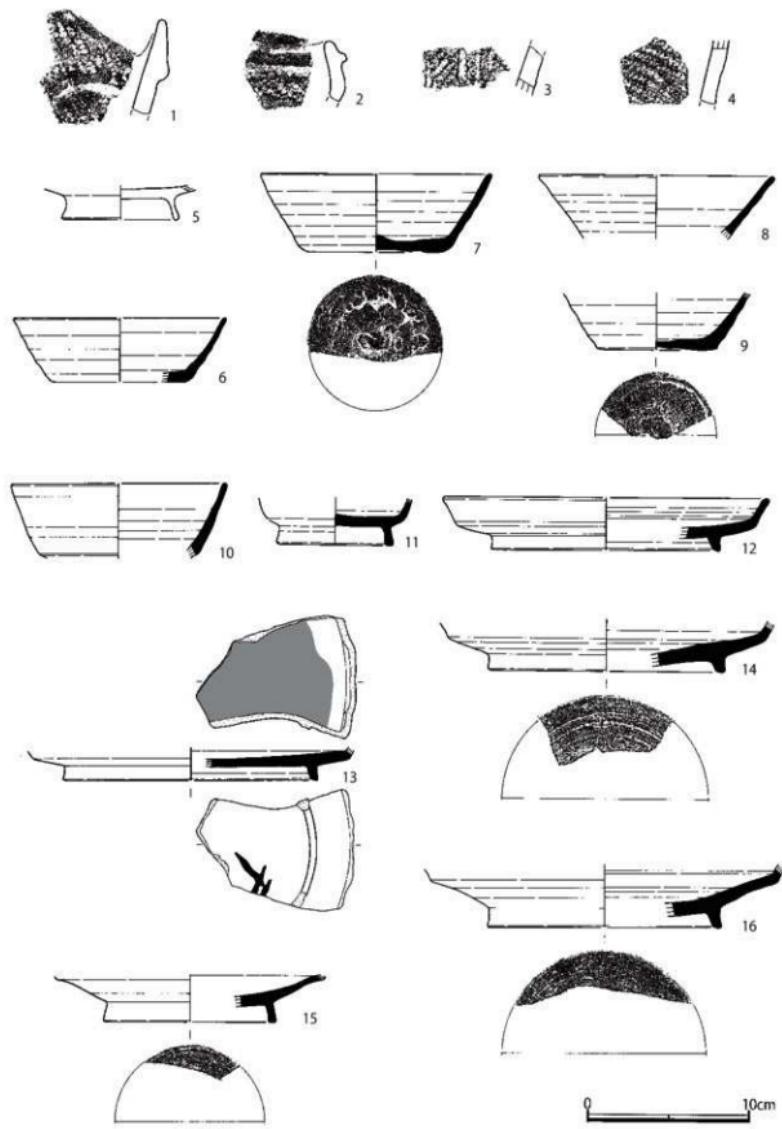
第65図 台渡里遺跡（第43・47・50次）の位置



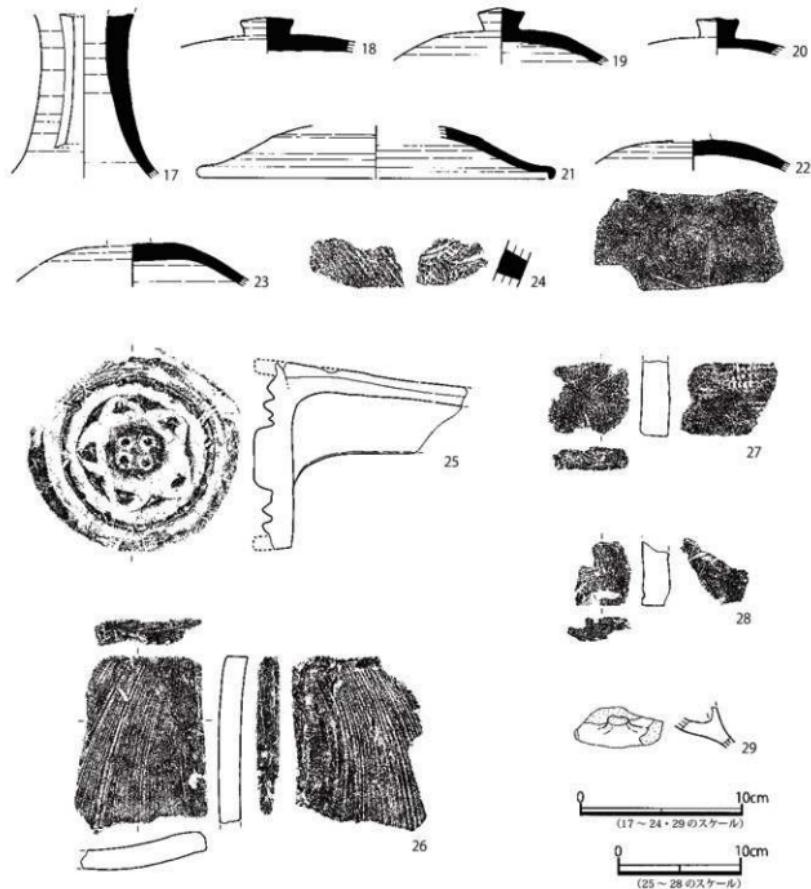
第66図 台渡里遺跡（第43次）のトレンチ配置



第 67 図 台渡里遺跡（第 43 次）の調査位置と周辺の調査成果



第68図 台渡里遺跡（第43次）出土遺物（1）（網部分は擦痕）



第69図 台渡里遺跡（第43次）出土遺物（2）

は中期後半「加曾利E式」に位置付けられる。5は土師器の有台坏である。内面に研磨黒色処理が施されている。時期は9世紀中葉～後葉に位置付けられる。6～24は須恵器である。6・7・9は無台坏、10・11は有台坏、12～16は有台盤、17は高盤、18～23は蓋、24は甌である。13は体部内面に擦痕が見られ、転用硯の可能性がある。18は8世紀前葉、6・7・10・12～14・17は8世紀中葉～後葉、19～23は8世紀後葉～9世紀前葉、8・11・15・16は9世紀前葉、9が9世紀後葉に位置付けられる。

25は3121型式軒丸瓦である。瓦当文様はほぼ完存しており、高い中房に4つの蓮子を持つ。弁井は楔状を呈するものが5つ、間弁は扁状を呈するものが5つ配置される。内区と外区を区画する圓線上には一部破損により欠落しているものの、11の珠文が配置されており、外区外縁は素縁である。



写真1 SD02 出土 3121型式軒丸瓦瓦当面

中房の形状は多賀城系の重弁八弁蓮華文軒丸瓦(3117型式)と共に通しており、蓮弁上にもより小さい連弁とみられるものが重ねられていることから、3117型式から変化したものとみられる。瓦当面には3箇所の范傷が観察される(写真1)。8世紀前葉の年代が与えられる。26~28は平瓦である。26は凸面に糸切り痕を有する。28は側面の角度から桶巻き作りによる製品とみられる。側面の反対側は直線的に割られていることから、割裂斗瓦の可能性がある。27は凸面に梯子状格子叩きが施されている。

(川口)

(3) 確認された埋蔵文化財の取り扱い

遺構が確認されたものの、設計変更により、浄化槽の埋設位置を移動できることになったこと、申請建物については30cm以上の保護層を確保できることになったため、工事立会が相当であるとした。

(渥美)

2-28 台渡里遺跡(第47次)

所在地 水戸市渡里町字宿屋敷 2987-4, 2987-14

開発面積 214.06 m²

調査期間 平成20年10月9日

調査原因 共同住宅建築

調査担当 渥美賀吾

調査概要 開発対象地内にトレーンチを2箇所設定し(第70図)、関東ローム層上面を目標に重機を用いて掘削した。

(1) トレーンチの概要

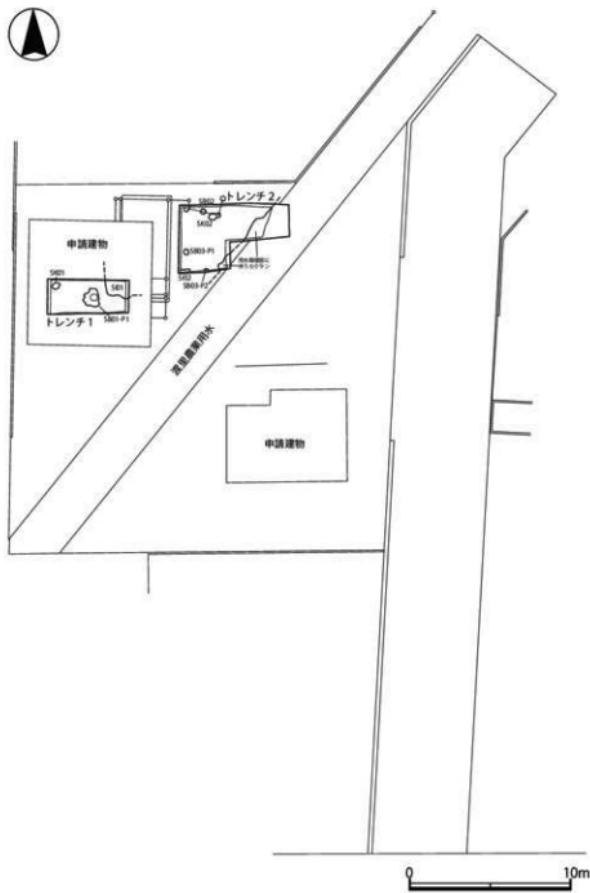
トレーンチ1 5m×2m。地表下120cmで関東ローム層上面が検出されるとともに、土坑1基(SK01)、掘立柱建物跡を構成する柱穴1基(SB01-P1)、竪穴建物跡1棟(SI01)が確認された。SB01-P1とSI01はその形態から奈良・平安時代のものと帰属するものと考えられる。なお、SI01の南側が外側に膨らんだプランを呈しているが、これは出入り口ピットに関わるものとみられる。遺物は土師器片が少量出土した。

トレーンチ2 7m×2mで設定したが、遺構が確認されたため、3.2m×1.5mの拡張を行った。地表下110cmで関東ローム層上面が検出されるとともに、土坑1基(SK02)、掘立柱建物跡1棟(SB02)、掘立柱建物跡を構成する柱穴2基(SB03-P1・P2)が確認された。SB03は柱穴の規模・形状から中世後期に帰属するものと考えられ、類似遺構は台渡里遺跡や長者山遺跡におけるこれまでの調査で確認されている。東側においては渡里農業用水に伴う搅乱が僅かに確認された。遺物は瓦・土師器片が少量出土した。

(2) 確認された埋蔵文化財の取り扱い

遺構・遺物が確認されたものの、設計変更により浄化槽の埋設位置を変更できることになったこと、申請建物については30cm以上の保護層を確保できることになったことから、工事立会が相当であるとした。

(渥美)



第70図 台渡里遺跡（第47次）のトレンチ配置

2-29 台渡里遺跡（第50次）

所在地 水戸市渡里町 3001-13

開発面積 195.03 m²

調査期間 平成20年12月3日

調査原因 規劃確認

調査担当 川口武彦

調査概要 開発対象地内にトレンチを2箇所設定し、関東ローム層上面を目標に重機を用いて掘削した（第71図）。

（1）トレンチの概要

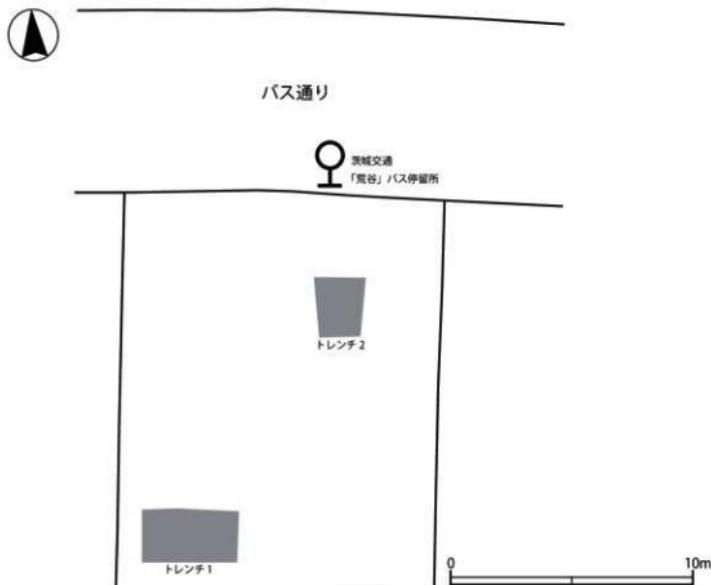
トレンチ1 3.7m×2m。地表下80～90cmで関東ローム層上面が検出されるとともに、土坑状のプランが3基確認された。それらのうち1基は覆土の様相から現代のイモ穴とみられる。残りの2基については、覆土の様相から植栽痕と判断した。従って、遺構と判断されるものは確認されなかった。遺物は中世陶器の破片が出土した。

トレンチ2 4m×2m。地表下90～100cmで関東ローム層上面が部分的に検出されたが、現代の攪乱が及んでおり、遺構は確認されなかった。遺物は瓦片が少量出土した。

（2）確認された埋蔵文化財の取り扱い

遺構が確認されなかったことから、慎重事が相当であるとした。

（川口）



第71図 台渡里遺跡（第50次）のトレンチ配置

2-30 台渡里廃寺跡（第49次）

所在地 水戸市渡里町 3058-3

開発面積 309.2 m²

調査期間 平成 20 年 10 月 31 日

調査原因 個人住宅建築

調査担当 濡美賢吾

調査概要 開発対象地内にトレンチを 2 箇所設定し、関東ローム層上面を目標に重機を用いて掘削した（第 73 図）。

（1）トレンチの概要

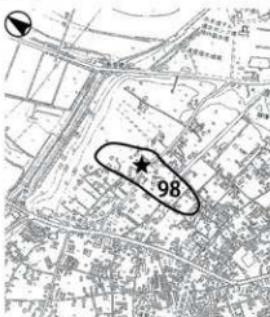
トレンチ 1 2.4m × 2.6m。地表下 65cm で関東ローム層上面が部分的に検出されたが、遺構は確認されなかった。遺物は土師器片が少量出土した。

トレンチ 2 2m × 1m。地表下 70cm で関東ローム層上面が部分的に検出されたが、現代の搅乱が及んでおり、遺構は確認されなかった。遺物は土師器片が少量出土した。

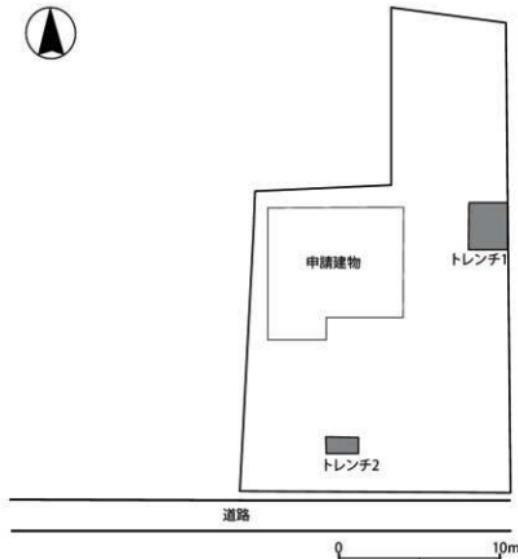
（2）確認された埋蔵文化財の取り扱い

遺構が確認されなかったことから、慎重事が相当であるとした。

（濡美）



第 72 図 台渡里廃寺跡（第49次）の位置



第 73 図 台渡里廃寺跡（第49次）のトレンチ配置

2-31 長者山遺跡（第3地点）

所在地 水戸市渡里町 3151-4, 3151-6

開発面積 536.47 m²

調査期間 平成20年8月21日～26日

調査原因 範囲確認

調査担当 川口武彦

調査概要 開発対象地内にトレンチを3箇所設定し、関東ローム層上面を目標に重機を用いて掘削した（第75図）。

（1）トレンチの概要

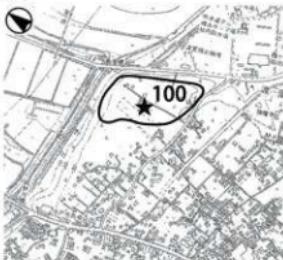
トレンチ1 8m×3m。地表下70～80cmで関東ローム層上面が検出されたが、擾乱が著しく、遺構は確認されなかった。遺物は近・現代の陶磁器片、土師器片、須恵器片が少量出土した。

トレンチ2 12m×3m。地表下70～80cmで関東ローム層上

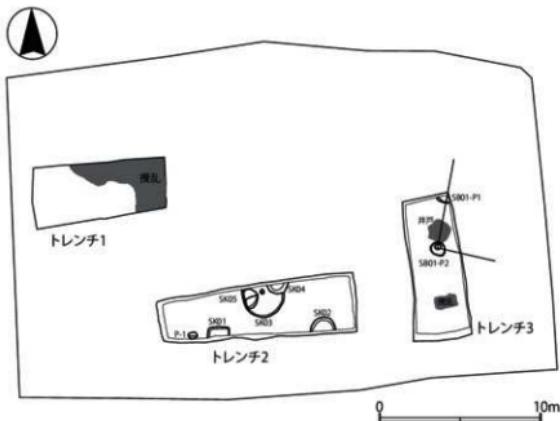
面が検出されるとともに、縄文時代中期の土坑3基（SK02・SK03・SK05）、古墳時代以降の土坑1基（SK01）、時期不明のピット1基（P1）、中世の井戸跡1基（SK04）が確認された。遺物はSK02・SK03・SK05から縄文時代中期加曾利E式の土器片が多数出土している。SK03からは底面の一部に疊が散かれたような状況で出土しており、SK02やSK05とは異なる様相を呈している。被熱の痕跡や焼土・炭化物などが確認されていないため、堅穴建物の内部に設置される石閉炉等に伴う石ではないとみられるが、構築途中に何らかの要因で取りやめた堅穴建物跡の可能性もある。

中世の井戸跡SK04は2mの深さまで掘削したが、崩落の危険性もあるため、それ以上の確認調査は行わなかった。最も深く掘削した面からピンボールを刺した結果、さらに1m以上も入ってしまったことから、深さは3m以上あると考えられる。内部に堆積していた覆土の中からはかわらけとみられる土器が数点出土していることから、中世の長者山城跡に伴う移動と考えられる。

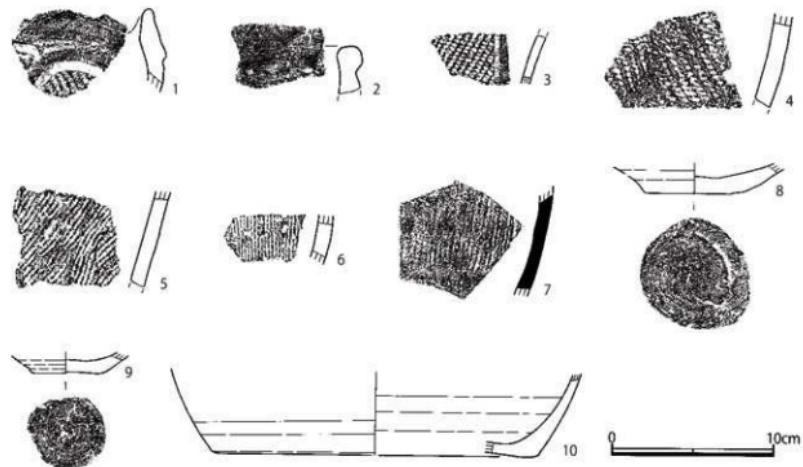
トレンチ3 8.5m×3.5m。地表下70～80cmで関東ローム層上面が検出されるとともに、掘立柱建物跡を構成する柱穴2基（SB01-P1・P2）、近・現代の井戸跡1基が確認された。SB01-P1については、断ち割り調査を行った



第74図 長者山遺跡（第3地点）の位置



第75図 長者山遺跡（第3地点）のトレンチ配置



第76図 長者山遺跡（第3地点）出土遺物

ところ、掘方は直径約1.0m、深さ70cmの円形プランで、柱痕跡は直径が20cmほどであった。SB01-P2とは柱間が3m(10尺)もしくは3.3m(11尺)である。壁際にのみ柱を持つ側柱構造なのか、壁際のみならず内部にも柱を持つ総柱構造なのかは現状では判然としないが、奈良・平安時代の遺構であることは確実である。（川口）

(2) 出土遺物

第76図・1～6は縄文土器である。時期は中期後半「加曾利E式」に位置付けられる。7は須恵器の甕である。8・9はかわらけで、時期は中・近世である。（色川）

(3) 確認された埋蔵文化財の取り扱い

遺構・遺物が確認されたため、改めて開発を行う場合には、遺構確認面より30cm以上の保護層を確保できれば慎重工事もしくは工事立会で対応できるとした。（川口）

2-32 寺内遺跡（第2地点）

所在地 水戸市大足町字寺前 1189-3, -4, -5, 1190-1, -2

開発面積 2,188 m²

調査期間 平成20年10月29日～30日（第1次）

平成21年1月13日～14日（第2次）

調査原因 墓地造成

調査担当 関口慶久・金子千秋

調査概要 開発対象地内にトレンチを5箇所設定し、関東ローム層上面を目標に重機を用いて掘削した（第78図）。

（1）第1次調査の概要

トレンチ1 63m×2mで設定したが、遺構の広がりが確認されたため、適宜拡張した。地表下45cmで関東ローム層上面が検出されるとともに、堀跡が1条確認された。堀跡の幅は約4m、長さは40m以上を測り、深さは約1.4mであった。人為的に丁寧に土を均しながら埋め戻した状況が土層観察より認められた。遺物は中世の土器、先土器時代の石器等が出土した。

トレンチ2 10m×1m。地表下45cmで関東ローム層上面が検出されたが、遺構は確認されなかった。遺物は近・現代の陶器片、土師器片、須恵器片が少量出土した。
(関口)

（2）第2次調査の概要

トレンチ3 32m×1.6m。地表下40cmで関東ローム層上面が検出された。北側の大半は、擾乱が著しかったが、トレンチ中央よりやや南側に設定したサブトレンチからはトレンチ1で確認された堀跡の覆土が検出された。遺物は確認されなかった。

トレンチ4 31m×1.6m。地表下40cmで関東ローム層上面が検出されるとともに、堀跡が2条、ピット1基が確認された。遺物は古墳時代～奈良・平安時代の土師器・土師器片、中世の土器片が出土した。

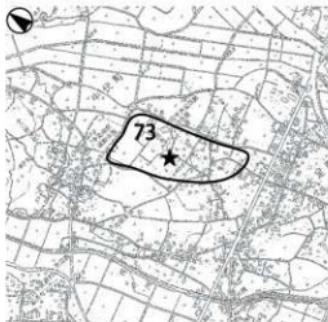
トレンチ5 31m×1.6m。地表下40cmで関東ローム層上面が検出されるとともに、堀跡が2条、性格不明の土坑6基、ピット20基が確認された。遺物は他のトレンチに比べて少ないものの、古墳時代～奈良・平安時代の土師器・須恵器片、中世の土器片が出土した。
(関口・金子)

（3）出土遺物

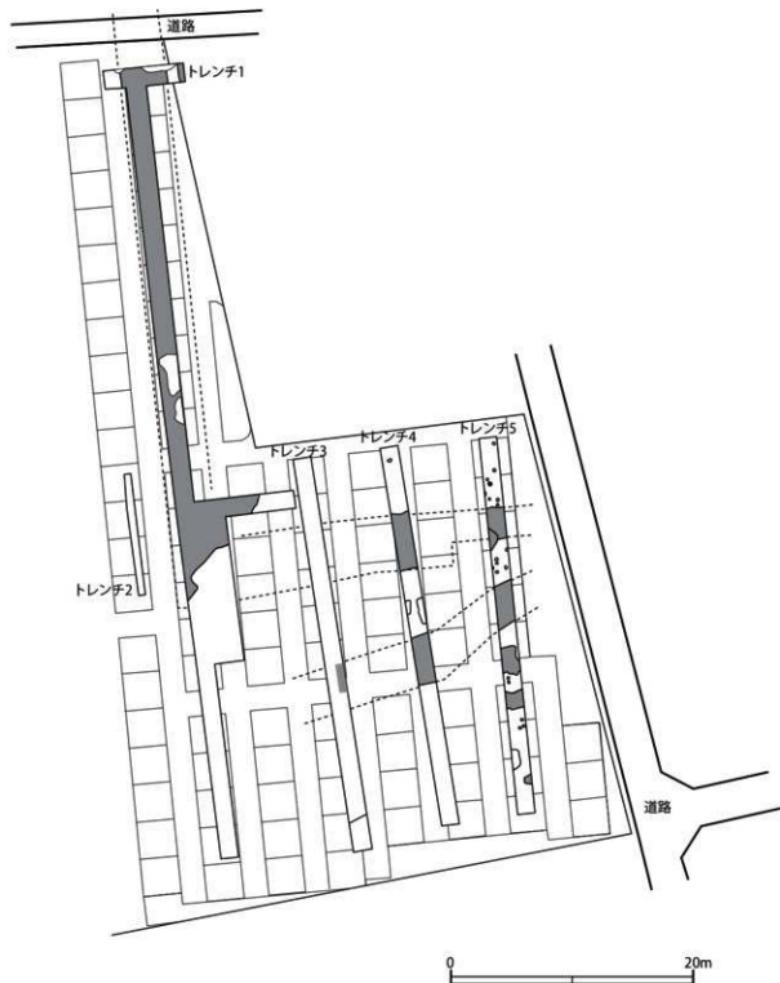
第79図-1～3は弥生土器である。1は2本同時施文具による波状文、LをZ巻きした原体（輪不明）による縄文が施文されている。時期は中期後葉～後期前葉に位置付けられる。2はLをZ巻きした原体（輪不明）とRをS巻きした原体（輪不明）で羽状縄文が構成されている。3はLをS巻きした原体（輪不明）による縄文が施文されている。2・3は後期後半に位置付けられる。4は土師器の壺で、複合口縁を呈する。時期は古墳時代前期に位置付けられる。5は土師器の無台壺である。時期は9世紀に位置付けられる。
(色川)

（4）確認された埋蔵文化財の取り扱い

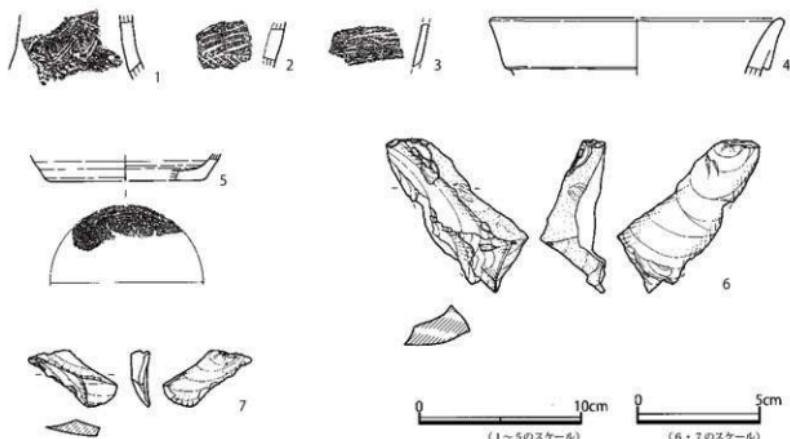
遺構・遺物が確認され、30cm以上の保護層を確保することができないことから、記録保存を目的とした本発掘調査が相当であるとした。
(関口)



第77図 寺内遺跡（第2地点）の位置



第78図 寺内遺跡（第2地点）のトレンチ配置



第79図 寺内遺跡（第2地点）出土遺物

2-33 東前原遺跡（第1地点）

所 在 地 水戸市東前町2丁目57・60

開発面積 1,427.76 m²

調査期間 平成20年11月11日

調査原因 共同住宅建築

調査担当 関口慶久

調査概要 開発対象地内にトレンチを3箇所設定し、関東ローム層上面を目標に重機を用いて掘削した（第81図）。

（1）トレンチの概要

トレンチ1 35m×1.5m～1m。地表下20cmで関東ローム層上面が検出されたが、遺構・遺物は確認されなかった。

トレンチ2 9m×1m。地表下25cmで関東ローム層上面が検出されたが、遺構・遺物は確認されなかった。

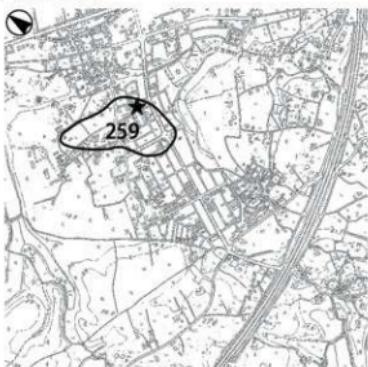
トレンチ3 10m×1m。地表下20cmで関東ローム層上面が検出され、ピット状の人为的遺構が基礎確認された。

セクション面および遺構基底面から柱痕跡は確認されなかった。覆土は現代の盛土に禁じていることから、近代以降の所産である可能性もある。遺物は表土より時期不明の土器の細片が出土したにとどまる。

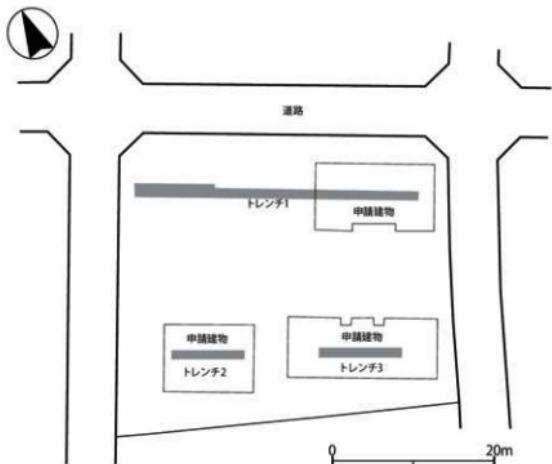
（2）確認された埋蔵文化財の取り扱い

遺構が確認されなかったことから、慎重工事が相当であるとした。

（関口）



第80図 東前原遺跡（第1地点）の位置



第 81 図 東前原遺跡（第 1 地点）のトレンチ配置

2-34 塔ノ上遺跡（第 2 地点）

所 在 地 水戸市小林町字小林 1200-1

開発面積 495.78 m²

調査期間 平成 21 年 1 月 29 日

調査原因 個人住宅建築

調査担当 関口慶久・金子千秋

調査概要 開発対象地内にトレンチを 2 箇所設定し、関東ローム層上面を目標に重機を用いて掘削した（第 83 図）。

（1）トレンチの概要

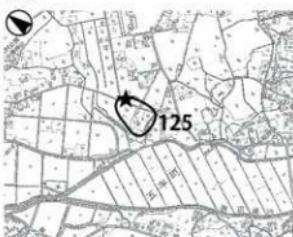
トレンチ 1 5m × 1.5m。地表下 40cm で関東ローム層上面が検出されたが、遺構は確認されなかった。遺物は表土から土師器片 2 点が出土した。

トレンチ 2 3m × 3m。地表下 30cm で関東ローム層上面が検出されたが、遺構・遺物は確認されなかった。

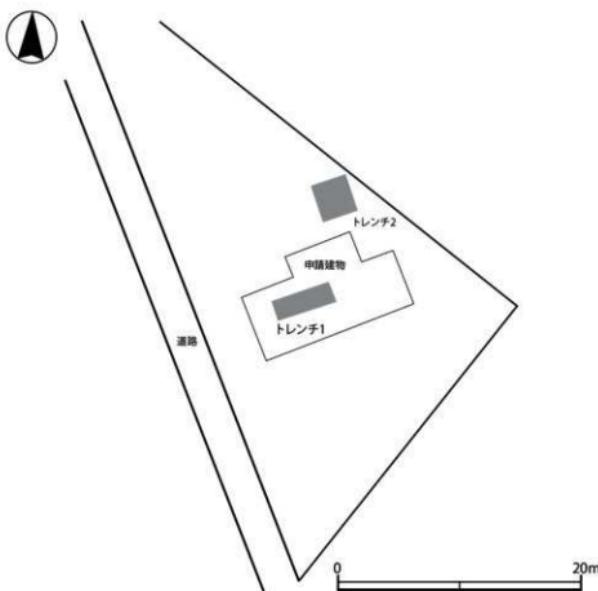
（2）確認された埋蔵文化財の取り扱い

遺構が確認されなかったことから、慎重工事が相当であるとした。

（関口）



第 82 図 塔ノ上遺跡（第 2 地点）の位置



第83図 塔ノ上遺跡（第2地点）のトレンチ配置

2-35 中河内遺跡（第3地点）

所 在 地 水戸市中河内町字中坪 194-1, -3, -4, -5, -6

開発面積 939.42 m²

調査期間 平成21年2月13日

調査原因 個人住宅建築

調査担当 涙美賢吾

調査概要 開発対象地内にトレンチを1箇所設定し、関東ローム層上面を目標に重機を用いて掘削した（第85図）。

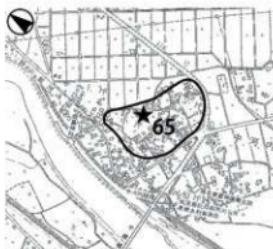
（1）トレンチの概要

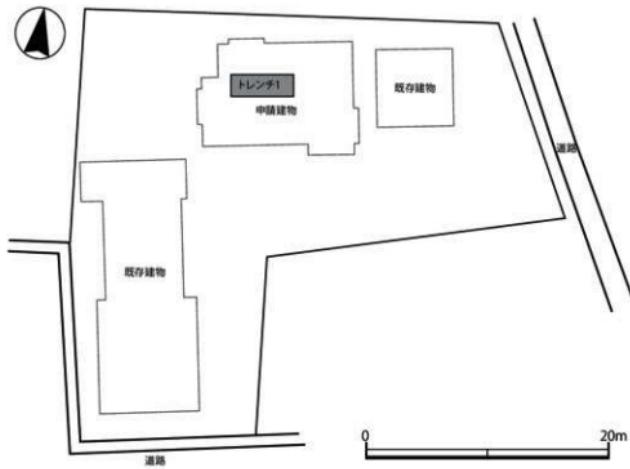
トレンチ1 5m×1.5m。地表下90cmで粘性の強い褐色土層が検出された。当該地点は那珂川低地であることから、いわゆる関東ローム層の堆積がみられない。遺構確認面の上層は粘性の強い暗褐色土層の堆積がみられ、水田や陸田に適した土質である。 第84図 中河内遺跡（第3地点）の位置トレンチ内では北側へ向かってやや傾斜しており、暗褐色土層からは、8世紀後半代～10世紀前半代にかけての土師器・須恵器片が一定量出土したが、遺構と認定できるものはなかった。また、トレンチ南半では、暗褐色土層が円形に落ち込んだプランが視認されたため、サブトレンチを設けて掘削したが、遺物の出土は見られず、明確な掘方も確認出来なかった。トレンチ全体で掘削深度が95cmを超えると著しい湧水がみられ、調査の続行は不可能であった。

（2）確認された埋蔵文化財の取り扱い

遺構が確認されなかったことから、慎重事が相当であるとした。

（涙美）





第 85 図 中河内遺跡（第 3 地点）のトレンチ配置

2-36 東大野遺跡（第 1 地点）

所 在 地 水戸市東大野 137-2

開発面積 361.45 m²

調査期間 平成 20 年 8 月 30 日

調査原因 個人住宅建築

調査担当 川口武彦

調査概要 開発対象地内にトレンチを 2 箇所設定し、関東ローム層上面を目標に重機を用いて掘削した（第 87 図）。

（1）トレンチの概要

トレンチ 1 4m × 2m。地表下 50cm で関東ローム層上面が検出されたが、遺構・遺物は確認されなかった。

トレンチ 2 5m × 2m。遺構が確認されたため、調査区の拡張を行い、最終的には 29.5 m² の大きさとなった。

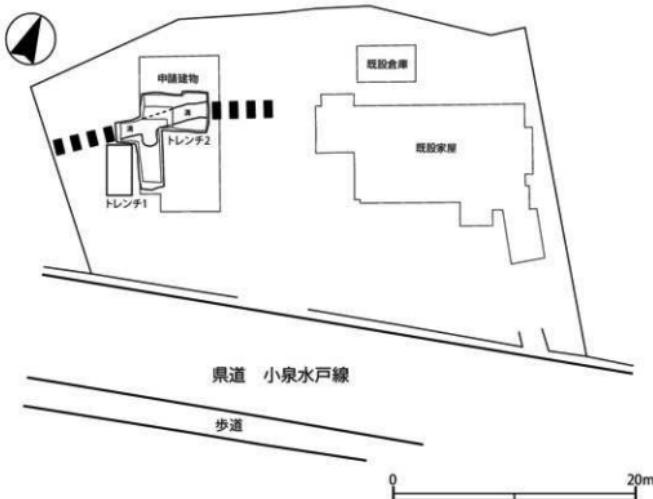
地表下 30cm で関東ローム層上面が検出されるとともに、幅約 1 ~ 1.1m の溝跡が確認され、奈良・平安時代の土師器片や近世の土師質土器などが遺構確認面で確認された。溝の性格を把握するため、サブトレンチを設定し、部分的に掘削したところ、断面は U 字状を呈し、深さ 50cm まで掘削すると湧水する状況が確認された。

（2）確認された埋蔵文化財の取り扱い

遺構が確認され、30cm 以上の保護層を確保できないことから、記録保存を目的とした本発掘調査が相当であるとした。本発掘調査の概要については、本書「3-5 東大野遺跡（第 1 地点）」を参照願いたい。（川口）



第 86 図 東大野遺跡（第 1 地点）の位置



第 87 図 東大野遺跡（第 1 地点）のトレンチ配置

2-37 舞台遺跡（第 5 地点）

所 在 地 水戸市三湯町字舞台 466

開発面積 358.58 m²

調査期間 平成 20 年 9 月 24 日

調査原因 個人住宅建築

調査担当 澤美賛吾

調査概要 開発対象地内にトレンチを 2 箇所設定し、関東ローム層上面を目標に重機を用いて掘削した（第 89 図）。

（1）トレンチの概要

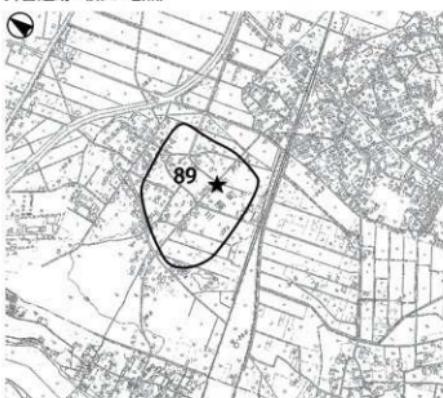
トレンチ 1 3m × 1.5m。地表下 90cm まで掘削したところ湧水が認められた。現在の耕作土である暗褐色土の下に黒色土が厚く堆積しており、湧水ポイントとほぼ同一の深度で粘土層を確認した。いわゆる関東ローム層の堆積は認められなかった。黒色土中からは須恵器表片が 1 点出土した。

トレンチ 2 3m × 1.5m。地表下 90cm まで掘削したところ湧水が認められた。現在の耕作土である暗褐色土の下に黒色土が厚く堆積しており、地表下 100cm で粘土層を確認した。いわゆる関東ローム層の堆積は認められなかった。遺物は黒色土層中から近代陶磁器片が 1 点出土した。

（渥美）

（2）出土遺物

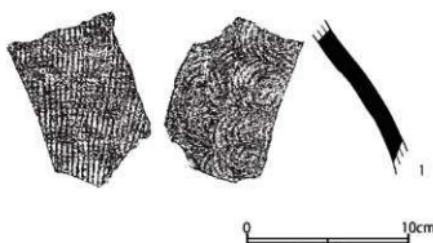
第 90 図 -1 は須恵器の表である。外面は格子目文叩き、内面には同心円文の当て具痕が残されている。（色川）



第 88 図 舞台遺跡（第 5 地点）の位置



第89図 舞台遺跡（第5地点）のトレンチ配置



第90図 舞台遺跡（第5地点）出土遺物

(3) 確認された埋蔵文化財の取り扱い

遺構が確認されなかったことから、慎重工事が相当であるとした。

（渥美）

2-38 堀遺跡（第8地点）

所 在 地 水戸市堀町字馬場東 295

開発面積 534 m²

調査期間 平成 21年 3月 23日

調査原因 個人住宅建築

調査担当 渥美賀吾

調査概要 開発対象地内にトレンチを3箇所設定し、関東ローム層上面を目標に重機を用いて掘削した（第92図）。

(1) トレンチの概要

トレンチ1 3m × 1.5m。地表下70cmで関東ローム層上面が検出されたが、遺構は確認されなかった。遺物は耕作土中より土師器・須恵器片が少量出土した。

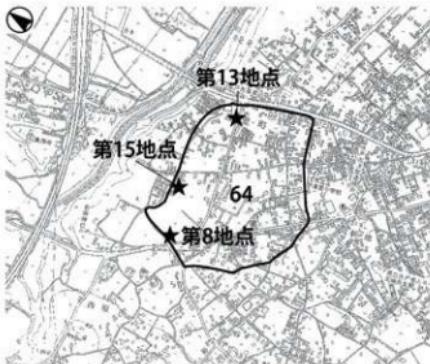
トレンチ2 9m × 2m。地表下70cmで関東ローム層上面が検出されたが、遺構は確認されなかった。遺物は耕作土中より土師器・須恵器片が少量出土した。

トレンチ3 2m × 1.2m。地表下80cmで関東ローム層上面が検出されたが、遺構は確認されなかった。遺物は耕作土中より土師器・須恵器片が少量出土した。

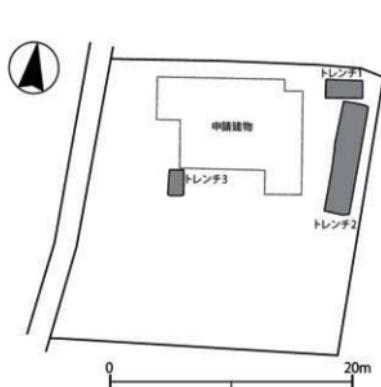
(2) 確認された埋蔵文化財の取り扱い

遺構が確認されなかったことから、慎重工事が相当であるとした。

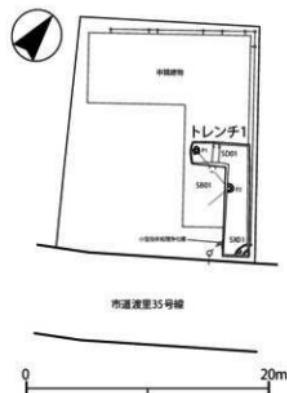
（渥美）



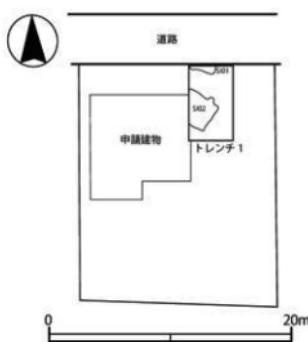
第91図 堀遺跡（第8・13・15地点）の位置



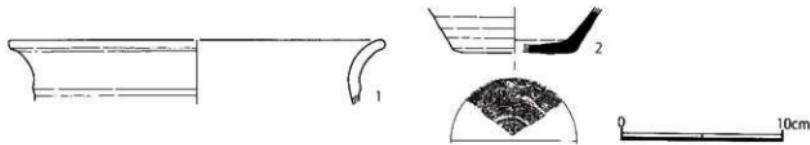
第92図 堀遺跡（第8地点）のトレンチ配置



第93図 堀遺跡（第13地点）のトレンチ配置



第94図 堀遺跡（第15地点）のトレンチ配置



第95図 堀遺跡（第15地点）出土遺物

2-39 堀遺跡（第13地点）

所在地 水戸市渡里町字野木 3324-1 の一部

開発面積 330.61 m²

調査期間 平成20年4月9日

調査原因 個人住宅建築

調査担当 濱美賀吾

調査概要 開発対象地内にトレンチ1箇所設定し、関東ローム層上面を目標に重機を用いて掘削した（第93図）。

（1）トレンチの概要

トレンチ1 約2m幅でL字状にトレンチを設定した。地表下100cmで関東ローム層上面が検出されるとともに、北側において掘立柱建物跡を構成する柱穴2基（SB01-P1・P2）、幅50cmほどの溝跡1条（SD01）が、南端で性格不明遺構（SX01）が検出された。SB01については直径40cmほどの柱痕跡を持つが、8世紀代の掘立柱建物に比べると規模がやや小さいことから9世紀以降のものとみられる。SD01はトレンチ北壁に沿ってサブトレンチを設定し掘削したところ、20cmほどで底面に達し、覆土は単層であった。SX01は掘削してみたところ、柱のアタリ痕なども確認されなかった。道路境界線に近接することと、小型円形ピット状の落ち込みの周囲に、明確に掘方をもたない溝状の落ち込みが伴うことから、かつての木製電信柱等の痕跡とみられる。

（2）確認された埋蔵文化財の取り扱い

遺構が確認されたが、30cm以上の保護層を確保できること、合併浄化槽埋設位置については埋設位置を変更できることから、工事立会が相当であるとした。（濱美）

2-40 堀遺跡（第15地点）

所在地 水戸市堀町 327-1

開発面積 315 m²

調査期間 平成20年7月11日

調査原因 個人住宅建築

調査担当 濱美賀吾

調査概要 開発対象地内にトレンチを1箇所設定し、関東ローム層上面を目標に重機を用いて掘削した（第94図）。

（1）トレンチの概要

トレンチ1 6m×3.5m。地表下60cm弱で関東ローム層上面が検出されるとともに、豊穴建物跡2棟（SI01・SI02）が検出された。SI01は確認面より出土した土師器片とプランの規模から8世紀代のものと判断される。SI02は確認面より出土した土師器片とプランの規模から9世紀前半代のものと判断される。

（2）出土遺物

第95図-1 土師器の甕である。時期は8～9世紀に位置付けられる。2は須恵器の無台坏である。時期は9世紀に位置付けられる。

（3）確認された埋蔵文化財の取り扱い

遺構が確認されたが、30cm以上の保護層を確保できること、合併浄化槽埋設位置については埋設位置を変更できることから、工事立会が相当であるとした。（濱美）

2-41 水戸城跡（第16次）

所在地 水戸市三の丸

1丁目6

開発面積 240 m²

調査期間 平成20年4

月4日

調査原因 学校校舎改築

調査担当 関口慶久

調査概要 開発対象地内にトレンチを4箇所設定し、関東ローム層上面を目標に重機を用いて掘削した（第97図）。

（1）トレンチの概要

トレンチ1 3m × 1.5m。地表下170cmで関東ローム層上面が検出されたが、遺構は確認されなかった。遺物は近世～近代にかかる遺物が搅乱中より出土した。

トレンチ2 3m × 1.5m。地表下150cmで関東ローム層上面が検出されたが、遺構は確認されなかった。遺物は近世～近代にかかる遺物が搅乱中より出土した。

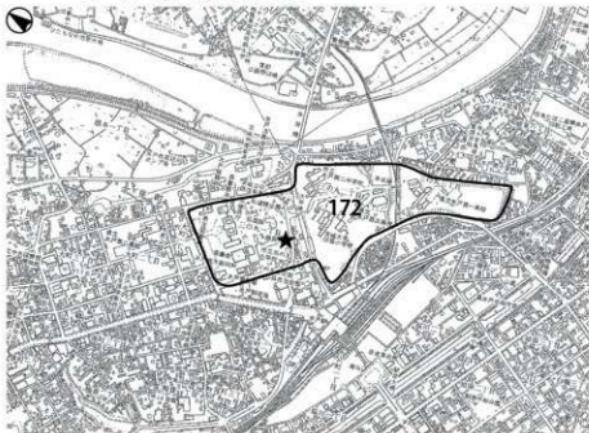
トレンチ3 3m × 1.5m。地表下170cmで関東ローム層上面が検出されたが、遺構は確認されなかった。遺物は近世～近代にかかる遺物が搅乱中より出土した。なお、トレンチ中央部に円形プランが認められたが、半裁調査の結果、現代の井戸跡であることが確認された。

トレンチ4 7m × 1.5m。地表下170cmで関東ローム層上面が検出されたが、遺構は確認されなかった。遺物は近世～近代にかかる遺物が搅乱中より出土した。

（2）確認された埋蔵文化財の取り扱い

遺構が確認されなかったことから、慎重工事が相当であるとした。

（渥美）



第96図 水戸城跡（第16次）の位置



第97図 水戸城跡（第16次）のトレンチ配置

2-42 向原遺跡（第6地点）

所在地 水戸市有賀町字於申原 483-2, 483-5

開発面積 169.87 m²

調査期間 平成20年8月26日（第1次）

平成20年10月31日（第2次）

調査原因 個人住宅建築

調査担当 濵美賛吾

調査概要 開発対象地内にトレンチを3箇所設定し、関東ローム層上面を目標に重機を用いて掘削した（第99図）。

（1）トレンチの概要

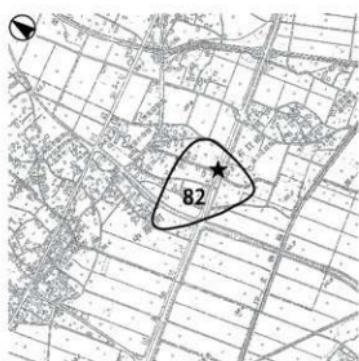
トレンチ1 2.5m × 1.5m。地表下90cmで関東ローム層上面が検出されたが、遺構・遺物は確認されなかった。

トレンチ2 2.5m × 1.25m。地表下100cmで関東ローム層上面が検出されるとともに、溝跡が1条確認された（SD01）。SD01の覆土からは灰釉陶器壺類の胴部片のほか、古代の土器とみられる細片が出土した。

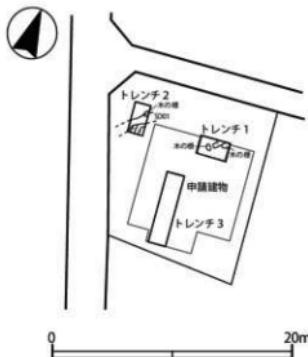
トレンチ3 6m × 1.5m。地表下90cmで関東ローム層上面が検出されたが、遺構・遺物は確認されなかった。

（2）確認された埋蔵文化財の取り扱い

遺構が確認されたが、合併浄化槽埋設位置については配置変更を行うことになったことから、工事立会が相当であるとした。
（濵美）



第98図 向原遺跡（第6地点）の位置



第99図 向原遺跡（第6地点）のトレンチ配置

2-43 向山遺跡（第2地点）

所在地 水戸市大串町字原 121-7

開発面積 330 m²

調査期間 平成 20 年 8 月 20 日

調査原因 個人住宅建築

調査担当 涙美賢吾

調査概要 開発対象地内にトレンチを 2 箇所設定し、関東ローム層上面を目標に重機を用いて掘削した（第 101 図）。

（1）トレンチの概要

トレンチ 1 4m × 2m。地表下 60 ~ 70cm で関東ローム層上面が検出されたが、遺構は確認されなかった。遺物は縄文土器が少量出土した。

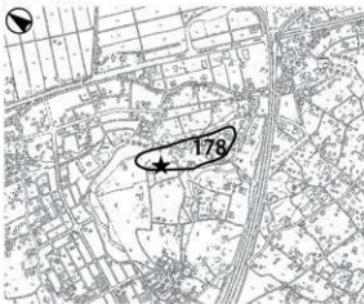
トレンチ 2 4m × 1.5m。地表下 60 ~ 70cm で関東ローム層上面が検出されるとともに、竪穴建物跡 2 栋が確認された（S101・S102）。両遺構の確認面からは縄文土器が出士しており、帰属時期を示す可能性がある。

（2）出土遺物

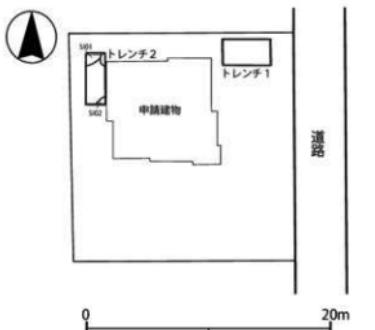
第 102 図 1 ~ 3 は縄文土器で、胎土に纖維を含む。1 は条痕が施されている。3 は半截竹管状工具による刺突文が施されている。1 は早期後半、2・3 は前期前半羽状縄文系土器群に位置付けられる。（色川）

（3）確認された埋蔵文化財の取り扱い

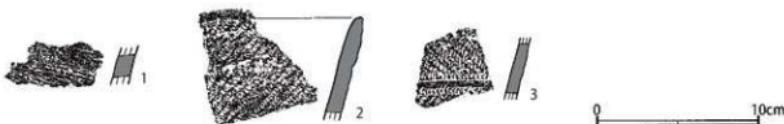
遺構が確認されたが、30cm 以上の保護層を確保できることから、工事立会が相当であるとした。（涙美）



第 100 図 向山遺跡（第2地点）の位置



第 101 図 向山遺跡（第2地点）のトレンチ配置



第 102 図 向山遺跡（第2地点）出土遺物

2-44 薬王院東遺跡（第2地点）

所在地 水戸市元吉田町字東組 573-2, -10, -11, -12

開発面積 1,420 m²

調査期間 平成21年1月28日

調査原因 宅地造成工事

調査担当 関口慶久・金子千秋

調査概要 開発対象地内にトレーナーを2箇所設定し、関東ローム層上面を目標に重機を用いて掘削した（第104図）。

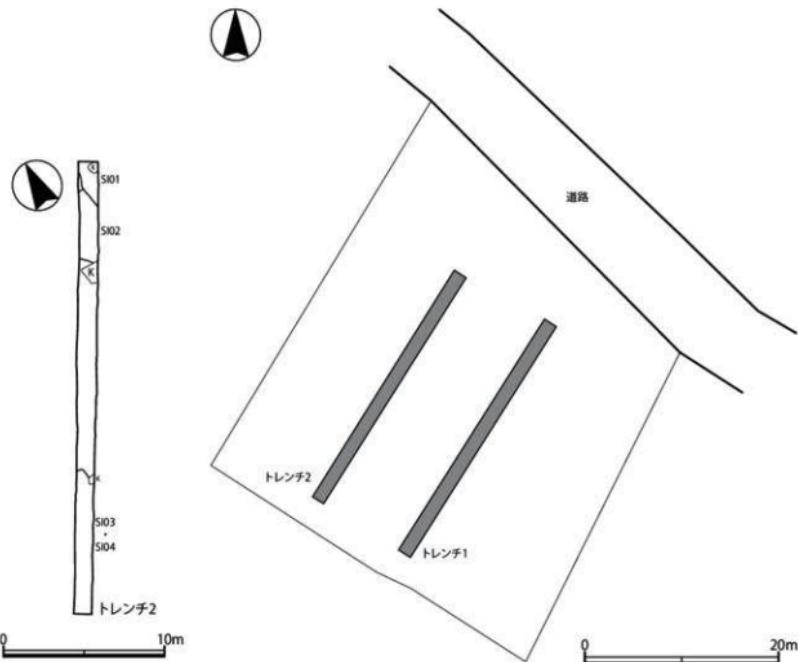
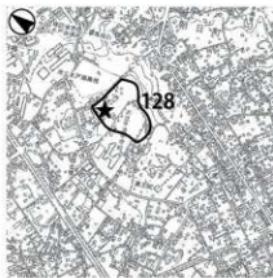
（1）トレーナーの概要

トレーナー1 28m × 1.5m。地表下65cmで関東ローム層上面が検出されたが、遺構・遺物は確認されなかった

トレーナー2 27m × 1.5m。地表下65cmで関東ローム層上面が検出されるとともに、竪穴建物跡4棟が確認された（SI0 第103図 薬王院東遺跡（第2地点）の位置～SI04）。出土遺物からSI01・02は弥生時代後期、SI03・04は8世紀後葉～9世紀前葉に位置付けられる。

（2）確認された埋蔵文化財の取り扱い

遺構が確認されたが、30cm以上の保護層を確保できることから、工事立会が相当であるとした。（関口・金子）



第104図 薬王院東遺跡（第2地点）のトレーナー配置

2-45 谷田古墳群（第9地点）

所在地 水戸市谷田町 805-3, -10

開発面積 479 m²

調査期間 平成 20 年 7 月 3 日

調査原因 個人住宅建築

調査担当 濱美賀吾

調査概要 開発対象地内にトレンチを 2 箇所設定し、関東ローム層上面を目標に重機を用いて掘削した（第 106 図）。

（1）トレンチの概要

トレンチ 1 8m × 1.3m。地表下 85 ~ 136cm で関東ローム層上面が検出されたが、遺構・遺物は確認されなかった。

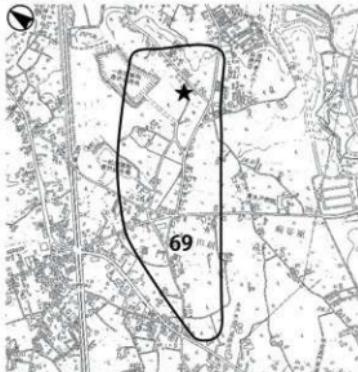
トレンチ 2 3m × 2m のものを 2 つ設定した。地表下 85 ~ 136cm で関東ローム層上面が検出されるとともに、東側のトレンチ南端でピット 2 基が確認された。ピットは長径 90cm、短径 54cm 程度のもので、確認面より土師器片が少量出土したが、時期を特定できるような情報は得られなかった。西側のトレンチでも南端でピット 1 基が確認さ

れた。ピットは長径 90cm、短径 54cm 程度のもので、確認面より土師器片が少量出土したが、時期を特定できるような情報は得られなかった。図面を整理した結果、直線的に並ぶことが判明し、掘立柱建物を構成する柱穴であることがわかった。

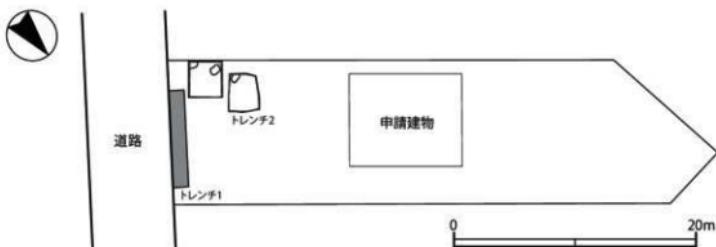
（2）確認された埋蔵文化財の取り扱い

遺構が確認されたが、30cm 以上の保護層を確保できることから、工事立会が相当であるとした。

（濱美）



第 105 図 谷田古墳群（第 9 地点）の位置



第 106 図 谷田古墳群（第 9 地点）のトレンチ配置

2-46 米沢町遺跡（第11地点）

所在地 水戸市千波町字中道南 1502-14

開発面積 184.81 m²

調査期間 平成20年9月9日

調査原因 個人住宅建築

調査担当 関口慶久・金子千秋

調査概要 開発対象地内にトレンチを2箇所設定し、関東ローム層上面を目標に重機を用いて掘削した（第108図）。

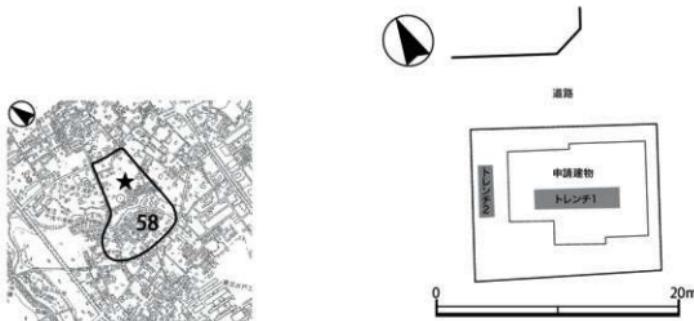
（1）トレンチの概要

トレンチ1 7m×1.6m。地表下95cmで関東ローム層上面が検出されたが、遺構・遺物は確認されなかった。

トレンチ2 4.2m×1.1m。地表下100cmで関東ローム層上面が検出されたが、遺構は確認されなかった。遺物は表土層から土師器片が3点出土した。

（2）確認された埋蔵文化財の取り扱い

遺構が確認されたが、30cm以上の保護層を確保できることから、工事立会が相当であるとした。（関口・金子）



第107図 米沢町遺跡（第11地点）の位置

第108図 米沢町遺跡（第11地点）のトレンチ配置

2-47 渡里町遺跡（第9地点）

所在地 水戸市渡里町 2568-1

開発面積 985.96 m²

調査期間 平成21年1月15日

調査原因 共同住宅建築

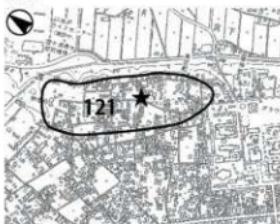
調査担当 濑美賢吾

調査概要 開発対象地内にトレンチを3箇所設定し、関東ローム層上面を目標に重機を用いて掘削した（第110図）。

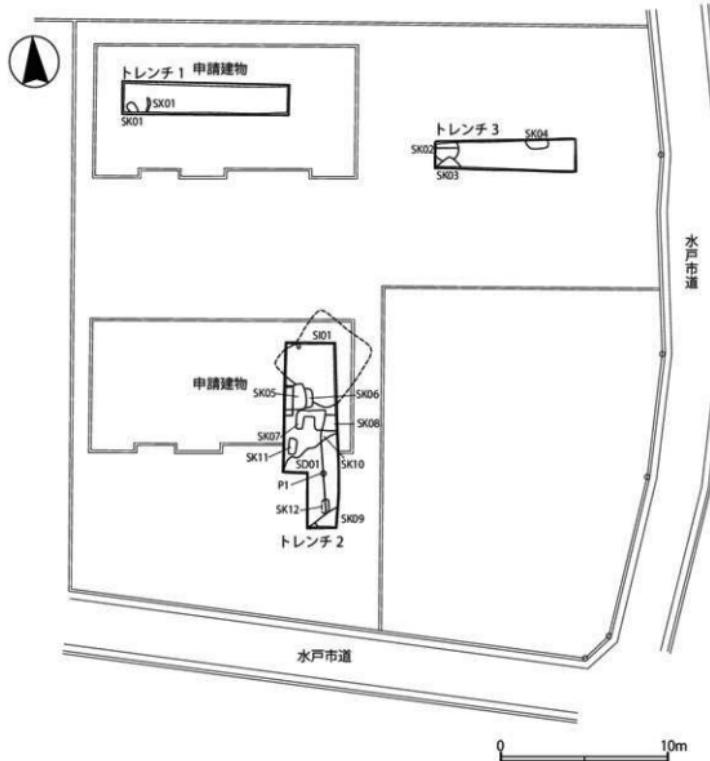
（1）トレンチの概要

トレンチ1 10m × 2m。地表下77cmで関東ローム層上面が検出されるとともに、トレンチ西側で土坑（SK01）、粘土貼り焼土造構（SX01）が確認された。遺物は縄文土器が多数出土した。

トレンチ2 10m × 1.5mで設定したが、西側に長さ8m、幅1.5m、南側に長さ1.5m、幅1.5mで拡張を行つ



第109図 渡里町遺跡（第9地点）の位置



第110図 渡里町遺跡（第9地点）のトレンチ配置

た。地表下 78.5 ~ 93cm で関東ローム層上面が検出されるとともに、トレーンチ北側において平安時代の堅穴建物跡 (SI01), トレーンチ南側には時期不明の溝跡 (SD01) が確認された。その両者間には複数の時期不明の土坑群が確認された (SK05 ~ SK08, SK10・11)。これらの土坑群の周囲では、焼土や縄文土器片を含む褐色土が広がっていることから、これらの土坑群に切られて縄文時代の土坑群が広がっていると考えられる。同様の覆土をもった土坑は、溝跡 SD01 の南側でも確認されている (SK09)。

トレーンチ 3 9m × 2m。地表下 67 ~ 76cm で関東ローム層上面が検出されるとともに、トレーンチ西側で土坑 (SK02・SK03) が確認された。SK02 は覆土の状況と確認面に突き刺さった土器片から縄文時代中期に帰属するものとみられる。

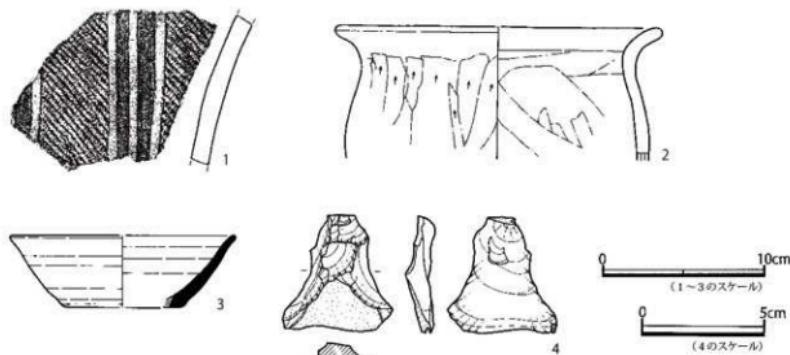
(2) 出土遺物

第 111 図-1 は縄文土器である。中期後半「加曾利 E2 式」に相当する。2 は土師器の甕である。時期は 8 世紀に位置付けられる。3 は須恵器の無台坏である。時期は 9 世紀後葉に位置付けられる (色川)

4 はホルンフェルス製の剥片である。背面には自然面を一部残し、主要剥離面の方向と同一・直交する方向の剥離面が認められる。打面は自然面打面。 (川口)

(3) 確認された埋蔵文化財の取り扱い

遺構が確認されたが、30cm 以上の保護層を確保できることから、工事立会が相当であるとした。 (渥美)



第 111 図 渡里町遺跡（第 9 地点）出土遺物

第3章 個人住宅建築に伴う本発掘調査

第2章で報告した試掘調査のうち、個人住宅建築に伴い本発掘調査の対象となったのは大串遺跡（第9地点）と大鋸町遺跡（第10地点）、軍民坂遺跡（第4地点）、山王遺跡（第1地点）、東大野遺跡（第1地点）の5件であった。これに加えて、19年度に試掘調査を行った、軍民坂遺跡（第3地点）、台渡里遺跡（第41次）もある。台渡里遺跡（第41次）については、検出された遺構・遺物が質・量ともに充実しており、1冊の報告書として刊行すべき内容であることから、本報告については次年度以降に刊行する予定である。山王遺跡（第1地点）と軍民坂遺跡（第4地点）も同様に遺構・遺物が質・量ともに充実しており、本報告の紙幅を超える内容であるため、本報告では概要を記し、遺構・遺物の詳細については、次年度の報告に譲るものとする。

本発掘調査は、地下に掘削の及ぶ申請建物部分及び合併浄化槽埋設箇所のうち遺構が確認された箇所を対象とし、重機（バックホウ）により、関東ローム層上面まで表土を掘削し、遺構の精査を行い、確認された遺構を調査の対象とした。遺物は遺構確認面一括遺物、遺構出土遺物に区分し、取り上げを行った。

3-1 大串遺跡（第9地点）

所在地 水戸市大串町字原坪 598-2

調査面積 103.34 m²

調査期間 平成20年7月31日～8月12日

検出遺構 竪穴建物跡1、土坑4

出土遺物 繩文土器、土師器、須恵器、鉄製品（鎌・刀子）

調査担当 川口武彦

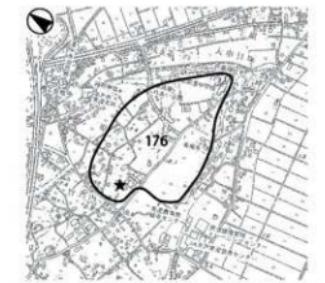
調査概要 試掘調査の際に申請建物部分に設定したトレレンチ1で確認された竪穴建物跡と土坑、浄化槽埋設予定部分に設定したトレレンチ2から確認された土坑を対象とした（第113図）。

（1）第1号竪穴建物跡（S101）

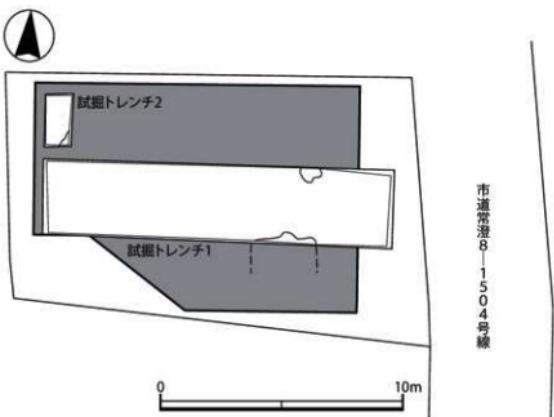
調査区の南東部で検出された（第114図）。確認できた建物跡の規模は東西3.5m、南北3.1mの範囲で、遺構確認面から床面までの深さは34～36cmである（第115図）。

南側については未詳であるが、東西および北側は周溝が全周している。覆土はロームブロックやローム粒を含んでおり、人為堆積による埋没とみられる。11層に分層された（第115図）。焼土粒や炭化粒を含んでいる層もあることから、火災による焼失あるいは人為的放火による廃絶を経ている可能性がある。床面は平坦で全体的に硬化しており、南側に見られる出入り口ピット周辺のみ硬化が見られない。

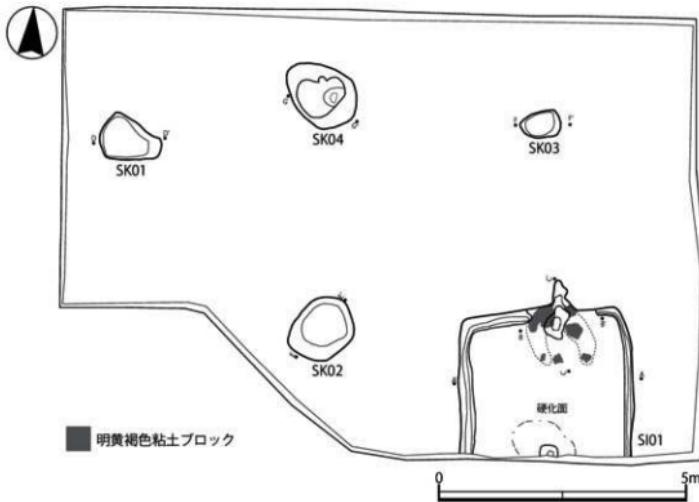
北側には竈が構築されているが、遺存状況は良くない。



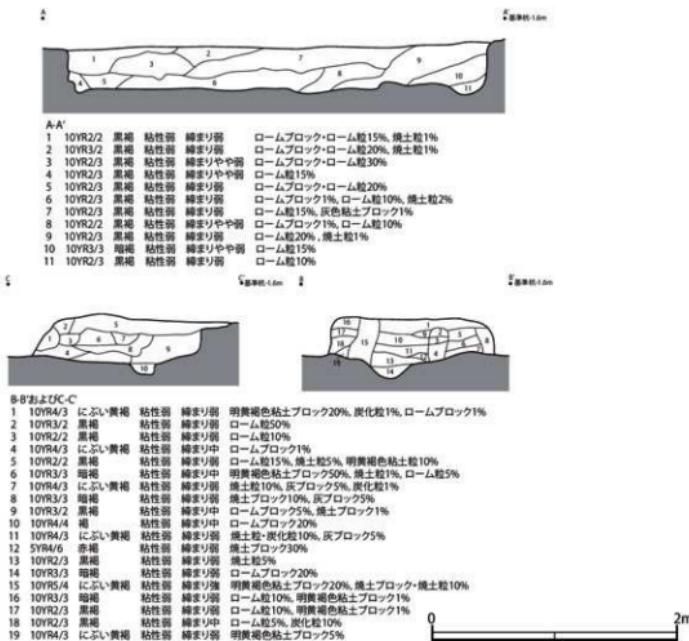
第112図 大串遺跡（第9地点）の位置



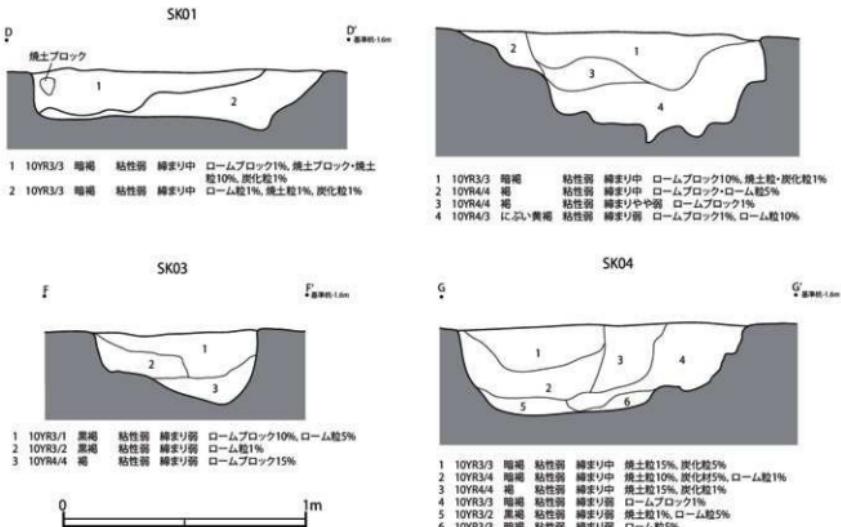
第113図 大串遺跡（第9地点）の本調査範囲



第 114 図 大串遺跡（第 9 地点）の本調査区構造配置



第 115 図 大串遺跡（第 9 地点）SI01 土層断面



第 116 図 大串遺跡（第 9 地点）土坑土層断面

廃絶に伴い、破壊された可能性がある。明黃褐色粘土ブロックが部分的に残存しており、その分布から範囲を推定せざるを得なかった。竪は 19 層に分層された（第 115 図下段）。出土した土器から 8 世紀前葉頃のものとみられる。

(2) 第 1 号土坑 (SK01)

検出されたのは調査区の西側で東西 1.2m、南北 1m、深さ 40 ~ 50cm である。覆土は 2 層に区分され、焼土ブロックや焼土粒・炭化粒を含む（第 116 図上段左）。自然堆積による埋没である。時期は不明である。

(3) 第 2 号土坑 (SK02)

検出されたのは調査区の南側で東西 1.35m、南北 1.3m、深さ 30 ~ 80cm である。覆土は 4 層に区分され、焼土粒・炭化粒を含む（第 116 図上段右）。自然堆積による埋没である。時期は不明である。

(4) 第 3 号土坑 (SK03)

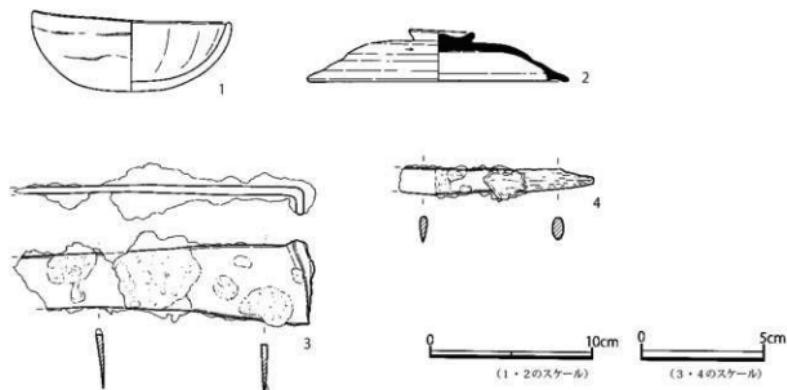
検出されたのは調査区の東側で東西 0.5m、南北 0.85m、深さ 30 ~ 60cm である。覆土は 3 層に区分されるが、他の土坑とは異なり、焼土ブロックや焼土粒・炭化粒を含まない（第 116 図下段左）。自然堆積による埋没である。時期は不明である。

(5) 第 4 号土坑 (SK04)

検出されたのは調査区の北側で東西 1.5m、南北 1.3m、深さ 24 ~ 34cm である。覆土は 6 層に区分され、焼土ブロックや焼土粒・炭化粒を含む（第 116 図下段右）。自然堆積による埋没である。時期は不明である。（川口）

(6) 出土遺物

主体を占めるのは SI01 の時期である奈良時代の遺物であるが、繩文時代の遺物も少量ながら出土している。第 117 図 -1 ~ 4 は SI01 から出土した遺物である。1 は土師器の壺である。外面に輪積み痕が残る。2 は須恵器の蓋である。胎土に雲母を含んでいることから、かすみがうら市一丁田窯跡の製品とみられる。いずれも 8 世紀前葉の年代が与えられる。3・4 は鉄製品である。3 は鎌、4 は刀子である。（色川）



第117図 大串遺跡（第9地点）本調査出土遺物



写真2 SI01 調査状況（北から）



写真3 SK01 土層断面（南から）

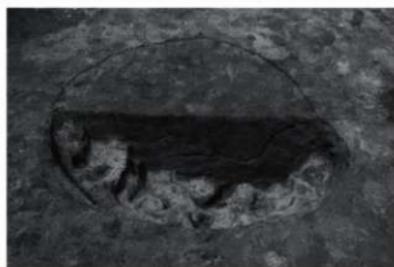


写真4 SK02 調査状況（南東から）



写真5 完掘状況（南東から）

3-2 大鋸町遺跡（第10地点）

所在地 水戸市元吉田町 2280-9, 2280-10

調査面積 135.37 m²

調査期間 平成20年11月4日～11月19日

検出遺構 竪穴建物跡3, 溝跡2, 土坑5

出土遺物 繩文土器, 弥生土器, 土師器, 須恵器

調査担当 澤美賛吾

調査概要 試掘調査の際に申請建物部分に設定したトレント
Iで確認された竪穴建物跡と土坑を対象とした（第119図）。

(1) 第1号竪穴建物跡 (SI01)

調査区の西部で検出された。確認出来た建物跡の規模は東西

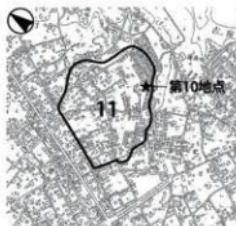
3.2m, 南北2.3mで, 円角方形を呈するものとみられる。遺構確認面から床面までの深度は24cmである。覆土は6層に分層された（第121図上段左）。床面は平坦で全体的に硬化している。隅に近い位置には柱穴とみられるピット2基が検出されている（P1・P2）。掘方から出土した土師器には内面黒色処理が施されていたことから平安時代のものとみられる。

(2) 第2号竪穴建物跡 (SI02)

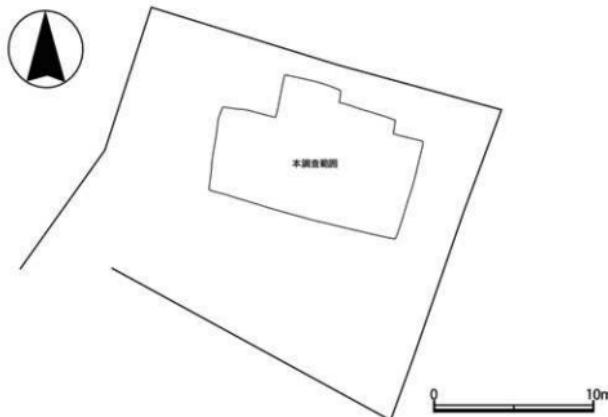
調査区の南部中央で検出された。確認できた建物跡の規模は東西4.8m, 南北3.3mで, 円形もしくは梢円形のプランを呈すると推定される。遺構確認面から床面までの深度は24～32cmである。覆土は7層に分層された（第121図上段右）。掘方は南に向かって窪んでおり, 西側では柱穴の可能性があるピット2基が検出されている（P1・P2）。出土している土器には縄文時代中・後期の土器と弥生時代後期二軒屋式と十王台式のものがあるが, いずれの時期になるのかは不明である。

(3) 第3号竪穴建物跡 (SI03)

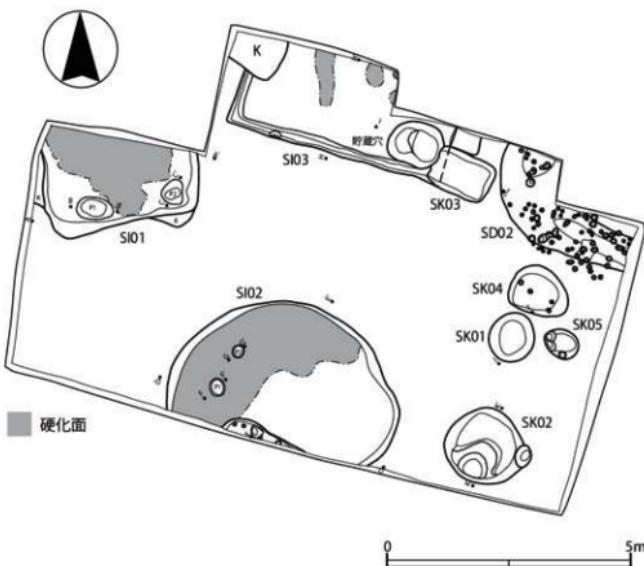
調査区の北部中央で検出された。確認できた建物跡の規模は東西4.6m, 南北2mで, 方形のプランを呈すると推定される。遺構確認面から床面までの深さは10～20cmである。覆土は3層に分層された（第121図下段左）。南側では第1号溝と東側では第3号土坑と重複している。南東隅では床面上より貯蔵穴とみられる土坑が検出さ



第118図 大鋸町遺跡（第10地点）の位置



第119図 大鋸町遺跡（第10地点）本調査範囲



第120図 大鋸町遺跡（第10地点）の本調査区遺構配置

れており、内部から土師器が出土している。出土している土器は6世紀前半のものであることから、古墳時代後期のものとみられる。

(4) 第1号溝（SD01）

検出されたのは調査区の北西隅で、第3号竪穴建物跡と重複していたが、プランが浅く、規模は不明瞭であった。第3号竪穴建物跡から出土している土師器と同じ時期のものが出土しているが、本来は第3号竪穴建物跡に帰属するものであった可能性が高い。時期は不明である。

(5) 第2号溝（SD02）

検出されたのは調査区の北東側で、東西3.1m、南北1.8mである。時期は不明であるが、規模・構造から近世以降のものとみられる。

(6) 第1号土坑（SK01）

検出されたのは調査区の北東側で、東西0.95m、南北1m、深さ4～16cmである。覆土は2層に区分され、(第121図上段中央)、ロームを含む。時期は不明である。

(7) 第2号土坑（SK02）

検出されたのは調査区の南東隅で、東西1.85m、南北1.6m、深さ8～24cmである。覆土は2層に区分され、(第121図下段中央)、ロームを含む。時期は不明である。

(8) 第3号土坑（SK03）

検出されたのは調査区の北側で、東西1.3m、南北0.9m、深さ16～24cmである。SI01を切っている。時期は不明である。

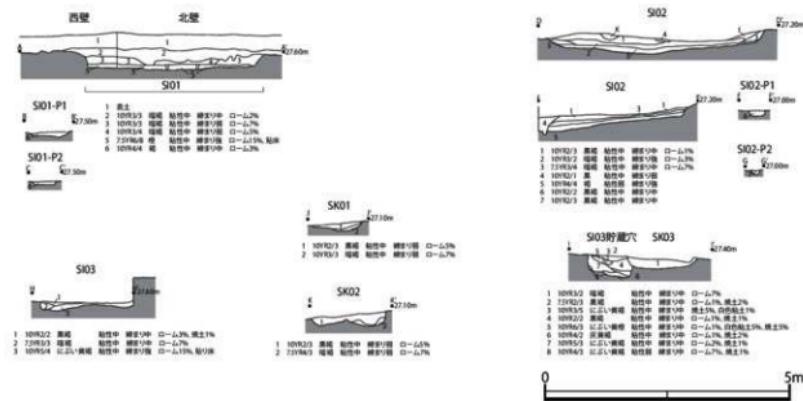
(9) 第4号土坑（SK04）

検出されたのは調査区の北東側で、東西1.25m、南北1.1mである。時期は不明である。

(10) 第5号土坑（SK05）

検出されたのは調査区の東側で、東西0.7m、南北0.6mである。時期は不明である。 (渥美)

(11) 出土遺物



第121図 大鋸町遺跡（第10地点）遺構土層断面



写真6 SI01 土層断面（南東から）



写真7 SI03・SD01 遺物検出状況（西から）

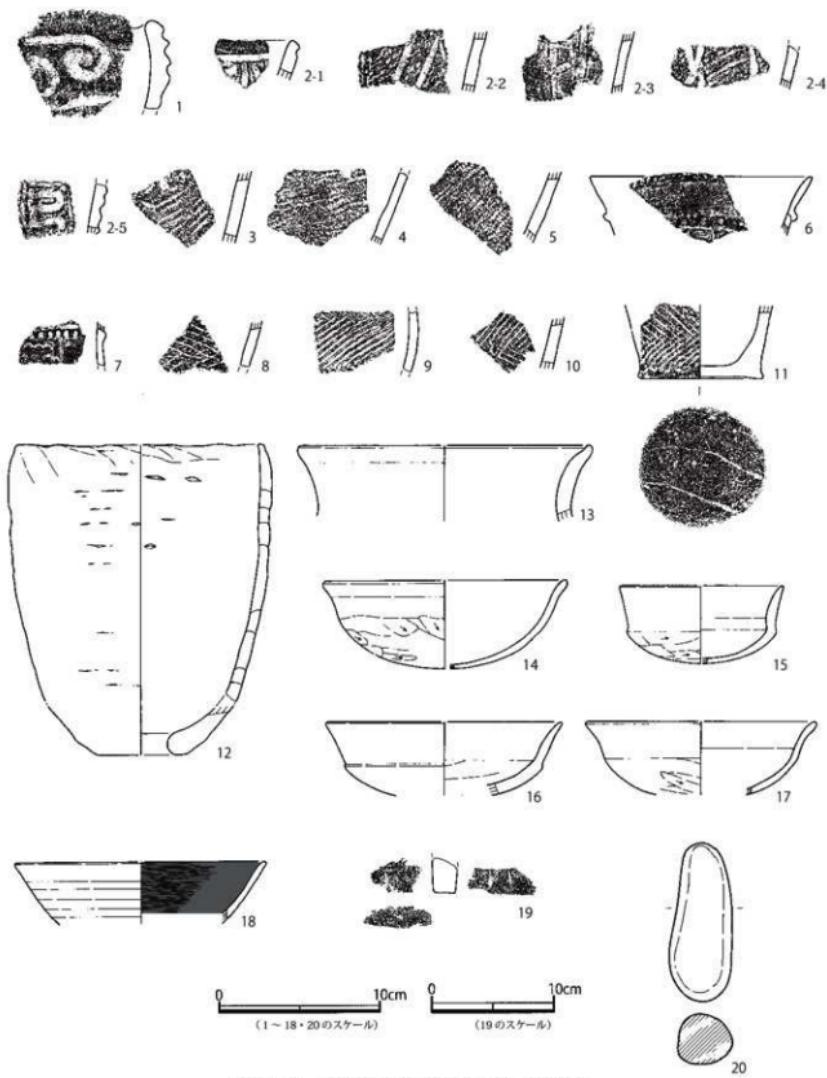


写真 8 SiO₂ 土層断面（北西から）



写真9 完掘状況（南東から）

第122図-1～5は繩文土器である。1は中期後半「加曾利E2式」、2は後期前半「堀之内2式」に位置付けられる。6～11は弥生土器である。6は口縁部が無文、口唇部に繩文原体による刻みが施されている。頸部の隆帯は1条で、指頭による押圧が施されている。胴上部は柳櫛状工具（3本？）による縱位区画文・波状文が施文されている。7は隆帯が1条以上で、棒状工具による押圧が施されている。胴上部は柳櫛状工具（3本）による縱位区画文・波状文が施文されている。8は付加条第2種R×RとL×L、9～11は付加条第1種L|R+2RとR|RL+2Lで



第122図 大鎧町遺跡（第10地点）出土遺物

羽状縄文が構成されている。11は底面が木葉痕を呈する。6～8は後期後半「十王台式」、9～11は所謂「二軒屋式」に位置付けられる。12～18は土師器である。12は瓶、13は甌、14～18は環である。12～17は、出土状況から一括の可能性が高く、時期は6世紀前葉に位置付けられる。18は内面に研磨黒色処理が施されている。時期は9世紀に位置付けられる。19は凸面にヘラ削り調整が施された平瓦片である。20は磨石で、石材は砂岩である。

(色川)

3-3 軍民坂遺跡（第3地点）

所在地 水戸市上国井町 3667-1, 3667-5

調査面積 57.04 m²

調査期間 平成20年6月25日～7月3日

検出遺構 土坑3, 植栽痕25

出土遺物 繩文土器, 弥生土器, 土師器, 須恵器

調査担当 川口武彦

調査概要 平成19年度に実施した試掘調査の際に遺構・遺物が確認されたが、その後事業者から申請建物については配置変更の申し入れがあった（第124図）。これを受けて6月25日に変更のあった箇所について、重機により全面表土掘削を行ったところ、西側に遺構が確認された。東側については、既存建物があった関係で搅乱が著しく、遺構は確認されなかった。申請建物は柱状改良工事を加えるため、保存ができないとの観点からすぐに本発掘調査へ移行した（第125図）。確認された遺構は土坑とピットであったが、調査の過程でピットとしたものは現代の植栽痕であり、確実な遺構は土坑3基のみであった。

（1）第1号土坑（SK01）

調査区の北東部で検出された。東西1.5m, 南北1.4mで、不整円形を呈する。遺構確認面から底面までの深さは12～48cmである。覆土は4層に分層された（第126図上段）。覆土の様相から縄文時代のものとみられる。

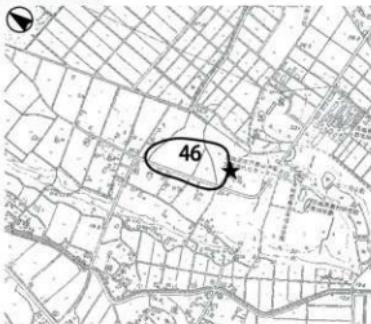
（2）第2号土坑（SK02）

調査区の南東部で検出された。東西0.8m, 南北0.75mで、不整円形を呈する。遺構確認面から底面までの深さは20～36cmである。覆土は単層である（第126図中段）。覆土の様相から縄文時代のものとみられる。

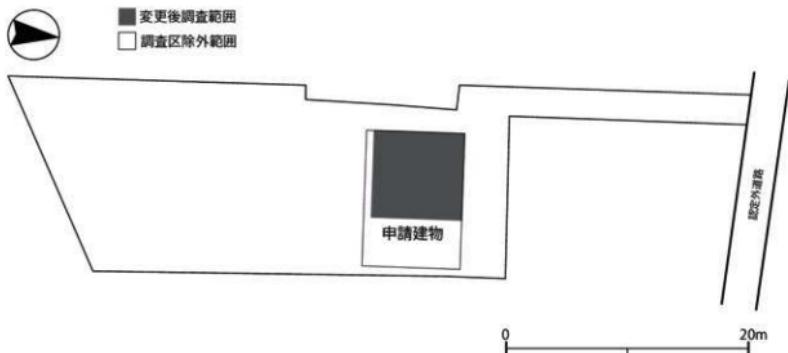
（3）第3号土坑（SK03）

調査区の中央部やや南よりの位置で検出された。東西0.8m, 南北0.75mで、不整円形を呈する。遺構確認面から底面までの深さは66～76cmである。覆土は2層に分層された（第126図下段）。覆土の様相から縄文時代のものとみられる。

（川口）



第123図 軍民坂遺跡（第3地点）の位置



第124図 軍民坂遺跡（第3地点）の本調査範囲



第 125 図 軍民坂遺跡（第 3 地点）の本調査区遺構配置 第 126 図 軍民坂遺跡（第 3 地点）土坑土層断面

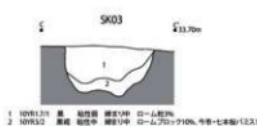
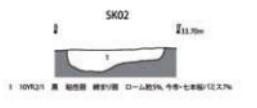
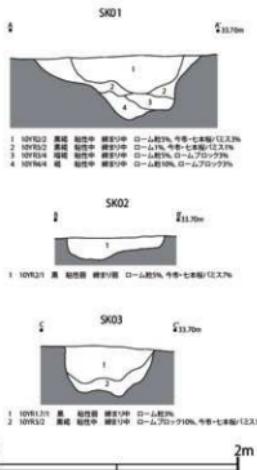


写真 10 SK01 土層断面（北西から）



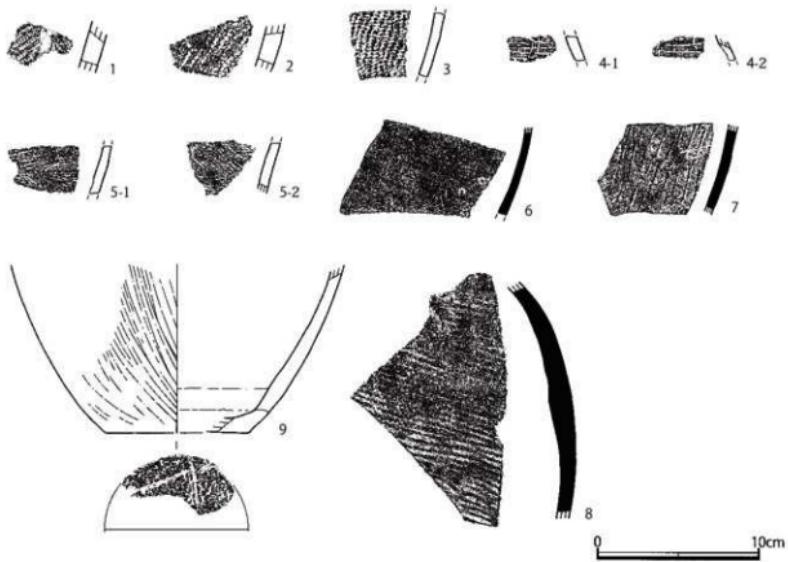
写真 11 SK01 完掘状況（北東から）



写真 12 完掘状況（南東から）



写真 13 完掘状況（東から）



第127図 軍民坂遺跡（第3地点）出土遺物

(4) 出土遺物

第127図1～3は縄文土器である。1は中期後半「加曾利E2式」、2は中期、3は後期に位置付けられる。4・5は弥生土器である。4は2本同時施文具により縦・横位に文様が施されている。5はRをS巻き（軸不明）した原体による縄文が施文されている。時期は中期後葉に位置付けられる。6～8は須恵器の表である。外面に平行線文叩きの痕跡が残されている。9は土師器の表で、所謂「常總型鹿」の範疇に入るものとみられる。時期は8世紀に位置付けられる。

（色川D）

3-4 軍民坂遺跡（第4地点）

所在地 水戸市上国井町 3585-1

調査面積 66 m²

調査期間 平成21年1月22日～3月19日

検出遺構 積穴建物跡1、掘立柱建物跡1以上、土坑・ピット45

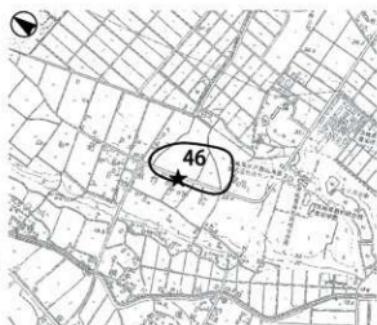
出土遺物 縄文土器、土器片鱗、石器、礫、土師器、須恵器

調査担当 渥美賛吾

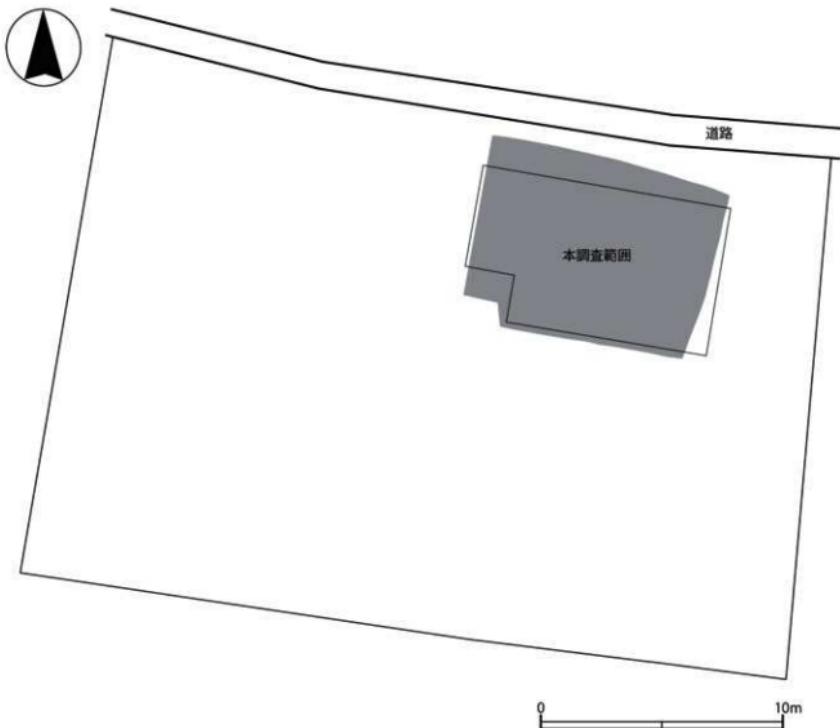
調査概要 試掘調査で確認されていた、縄文時代中期の積穴状遺構2基と土坑3基を対象とするとともに、申請建物により影響を受ける範囲を調査範囲とした（第129図）。

(1) 古代の遺構

調査区の南部で積穴建物跡1棟（SI001）と調査区全体に



第128図 軍民坂遺跡（第4地点）の位置



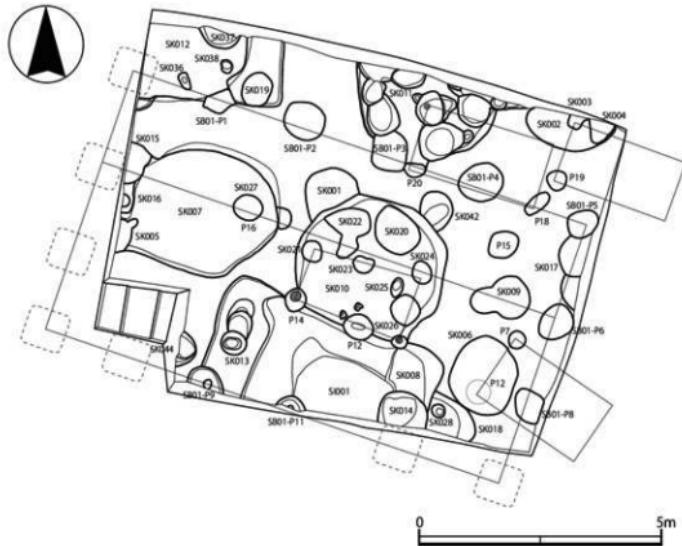
第129図 軍民坂遺跡（第4地点）の本調査範囲

かかる形で掘立柱建物跡1棟(SB001)が確認された(第130図)。竪穴建物跡は大半が調査区外に延びているが、北側に竈が構築されていた。掘立柱建物跡は複数棟あるものとみられるが、部分的に確認されているものが多く、正確な棟数については、今後、検討する必要がある。掘立柱建物跡のうち、SB001は側柱構造のものとみられ、桁行5間、梁行3間と推定される。桁行の柱間は1.8m(6尺)、梁行2.1m(7尺)。SI001が廃絶した後にSB001が構築されており、SB001の柱穴から9世紀中葉頃の須恵器無台坏が出土していることを考慮すると、SI001は平安時代前葉頃に位置付けられるとみられる。

(2) 縄文時代の遺構

縄文時代の遺構はこれまで隣接する第1地点で中期の土坑群が、近傍の第2地点でも複式かが確認されているが、当地点では、中期前半の土坑群とこれらを切る中期中葉の深い小土坑群が確認された(第130図)。これらの土坑のひとつからは、胴部に大木8b式の影響を受けた文様が、口縁部～頸部に加曾利E式の文様が描かれた深鉢形土器も出土しており(原色図版1上段)、東北地方南部に隣接する水戸の地域色を示す遺物と言える。また、打製石斧、磨製石斧、石皿、磨石／敲石類、凹石、石鐵、剥片、石核などの石器もまとめて出土した。当該期の竪穴建物跡は確認されなかったが、近傍に存在している可能性が高い。

以上が遺構・遺物の概略であるが、詳細については整理作業が完了した時点で改めて報告したい。(渥美)



第130図 軍民坂遺跡（第4地点）の本調査区遺構配置



写真14 SB001-P2 遺物出土状況（南から）



写真15 SB001-P4 完掘状況（南から）



写真16 SI001 調査状況（北東から）



写真17 SK007 土層断面（南から）



写真 18 SK007 覆土遺物出土状況（南西から）



写真 19 SK007 底面遺物出土状況（南から）



写真 20 SK012 遺物出土状況（東から）



写真 21 SK011 遺物出土状況（南から）



写真 22 SK011 完掘状況（南東から）



写真 23 調査風景（南西から）



写真 24 調査区完掘状況（西から）



写真 25 調査区完掘状況（南から）

3-5 東大野遺跡（第1地点）

所在地 水戸市東大野 137-2

調査面積 45.6 m²

調査期間 平成20年9月4日～9月8日

検出遺構 溝跡1, 土坑1

出土遺物 土師器, 須恵器, 土師質土器, 磁器, 煙管

調査担当 川口武彦

調査概要 試掘調査の際にトレンチ2で確認されていました、溝跡を調査対象とした（第132図）。

(1) 第1号溝跡 (SD01)

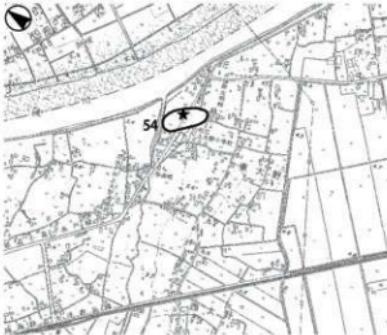
東西7.4m, 南北1.25mの範囲を確認できた。上面幅は1.0～1.25m, 底面幅は0.5～0.6m, 深さ50～60cmである。30cmほど覆土を掘削すると著しい湧水が認められ、底面まで掘削することは困難であったが、断面は逆台形を呈するものと考えられる。覆土は単層で自然堆積によるものと判断した。

(2) 第1号土坑 (SK01)

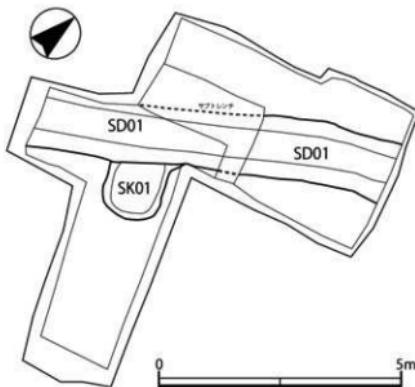
直径1.2～1.5mの円形で、深さ20cmほどの皿状のプランを呈する。SD01に切られていることから、SD01よりは古いことが確認された。
(川口)

(3) 出土遺物

第133図-1は須恵器の甕である。2は磁器の碗である。推定生産地は瀬戸・美濃、推定年代は1810年以降とみられる。3はかわらけで、時期は近世である。
(色川)



第131図 東大野遺跡（第1地点）の位置



第132図 東大野遺跡（第1地点）本調査区遺構配置



写真 26 SD01・SK01 検出状況（南西から）



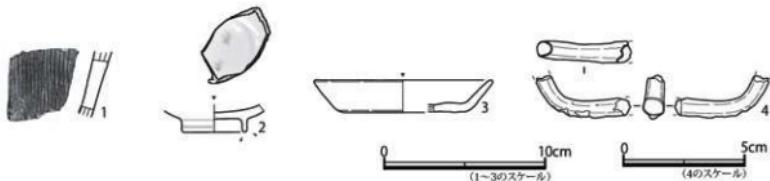
写真 27 SD01・SK01 土層断面（南西から）



写真 28 完掘状況（南西から）



写真 29 完掘状況（西から）



第133図 東大野遺跡（第1地点）出土遺物

第4章 開発に伴う工事立会調査

工事立会調査は、周知の埋蔵文化財包蔵地内における試掘・確認調査の結果を受けて、工事立会が相当であるとした案件について実施するが、範囲外であっても、地形等から遺跡の存在が予測される場合、開発面積が広大である場合には、事業者に協力を求めて実施した。立会調査は、事業者による工事の実施を妨げないよう配慮しながら、埋蔵文化財専門職員を掘削工事に立ち会わせ、遺物や遺構が確認された場合には検出状況の写真や簡易的な図面等による記録を作成し、遺物を回収した。

今年度は大塚新地遺跡（第6地点）および町付遺跡（第1地点）、水戸城跡（第20次）において計3件の工事立会調査を実施した。いずれも遺構は確認されず、遺物が出土したにとどまる。大塚新地遺跡（第6地点）および町付遺跡（第1地点）の遺物は図化できるものがないため、ここでは水戸城跡（第20次）の遺物を報告する。

4-1 水戸城跡（第20次）

所 在 地 水戸市三の丸1-6-29（旧弘道館）

調査期間 平成20年12月8日

調査担当 澤美賛吾

調査概要 一般の土木工事は、旧弘道館のある井戸屋形および孔子廟門の修理に伴う工事であり、井戸屋形および孔子廟門の周囲を開削する際に立ち会った。その結果、近世～近代にかかる時期の瓦が多数出土したが、いずれも表土層からの出土であり、遺構に伴うものではなかった。

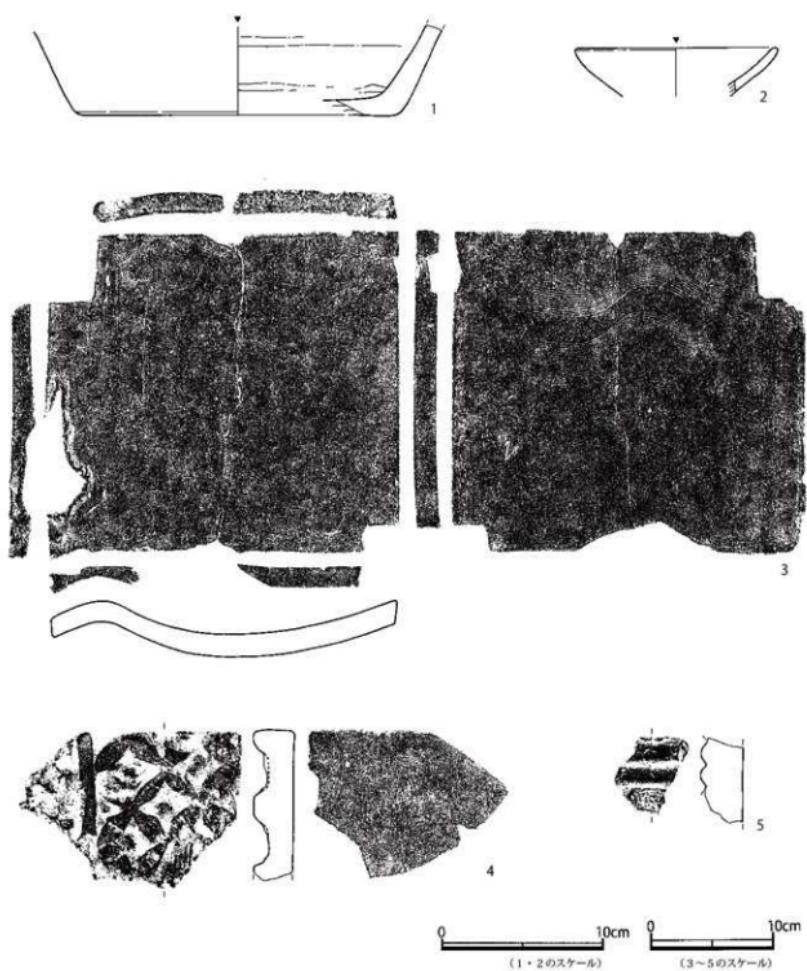
（澤美）

出土遺物 第135図-1は廃瓦、2はかわらけである。3～5は近世瓦である。3は棟瓦の完形品である。表面左側縁には漆喰の付着が認められる。4は棟飾瓦、5は不明瓦であるが七宝文が貼り付けられている。これらの瓦は弘道館の屋根景観を復元していく上で貴重な資料である。

（色川）



第134図 水戸城跡（第20次）の位置



第135図 水戸城跡（第20次）出土遺物

第5章 開発に伴う踏査と採集遺物

各種開発に伴い、現地踏査を実施した際に遺物が採集された地点がいくつかある。ここでは図化の可能であった周知外（河和田町 636 番地）および駒形端古墳群で採集された遺物について報告する。

5-1 周知外（河和田町 636 番地）

所在地 水戸市河和田町 636 番地

踏査日 平成 20 年 8 月 7 日

採集者 澤美賢吾

採集経緯 エヌ・ティ・ティ・ドコモ

茨城支店から携帯電話通信基地局建設に

伴う「埋蔵文化財所在の有無およびそ

の取扱いについて」の照会が提出された。

開発対象地は、周知の埋蔵文化財包蔵地

「河和田城跡」に近接しているため（第

136 図）、現地踏査を行った。その際に

開発対象地内で遺物が表面採集された。

（澤美）

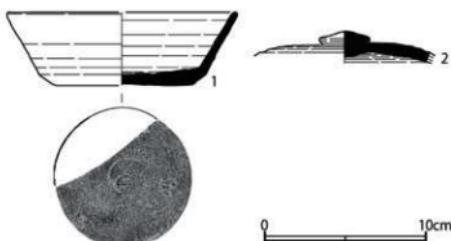
採集遺物 第 137 図は採集された 2 点の須恵器である。1 は須恵器の無台坏である。底面には回転ヘラ切りの痕跡が残されており、二次底部面を持つ。胎土の特徴から水戸市木葉下窯跡群産の製品とみられる。技術的・形態的特徴から 8 世紀の年代が与えられる。

2 は須恵器の蓋である。摘み部は宝珠形を呈し、胎土および色調の特徴から湖西産の製品とみられる。技術的・形態的特徴から 8 世紀中葉の年代が与えられる。

（色川）



第 136 図 周知外（河和田町 636 番地）の位置



第 137 図 周知外（河和田町 636 番地）採集遺物

5-2 駒形端古墳群

所在地 水戸市藤井町地内

踏査日 平成21年1月9日

採集者 渥美賀吾・金子千秋

採集経緯 平成20年4月1日付茨住供発(宅事)第1号にて茨城県住宅供給公社理事長 福田克彦から茨城県教育委員会教育長へ十万原新住宅市街地開発事業地区(水戸ニュータウン)における埋蔵文化財の所在の有無およびその取扱いについて照会があった。これを受けて平成20年5月8日に茨城県教育庁文化課による試掘調査を実施した。その結果、竪穴建物跡1棟、古墳2基(いずれも円墳)、土坑4基、溝跡3条が確認されたため、その旨平成20年5月20日付文第261号にて回答され、水戸市教育委員会教育長あてに平成20年5月20日付文第262号において回答内容について通知があった。その後電話にて県文化課担当者より、試掘調査で確認された円墳2基のほかに、開発予定地の外側で遺跡地図に記載のない古墳が2基確認された旨の情報提供があった。これを受けて水戸市教育委員会事務局文化振興課(当時)にて現地の踏査確認を行った。

(渥美)

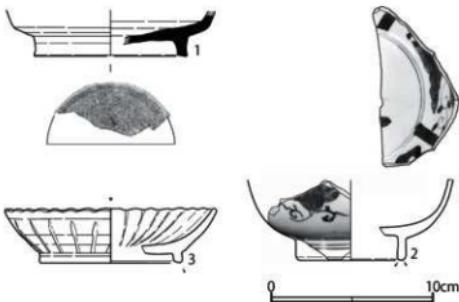
踏査結果 従来遺跡地図に登載のあったものは、円墳1基(1号墳)と前方後円墳1基である。このうち前方後円墳として登載されていたものは、試掘調査で確認された円墳のうちの1基である(2号墳)。近接して発見された円墳は埋没古墳で新規発見によるものである(3号墳)。このほかに、水戸ニュータウン造成に伴って新たに取り付けられた道路を挟んで、西田川に面する台地突端部に2基の円墳を踏査により確認した(第138図)。突端部より少し奥に入った平坦面には直径3m、高さ0.5mほどの円墳があり(4号墳)、突端部には、径10m、高さ0.5mほどの円墳があった(5号墳)。この5号墳に近接して石碑があり、周辺には石棺石材と思しき破片が散乱する。石碑には、「追祀故人何某氏古墳」とあり、明治28年に石棺が発見され、内部から人骨と古刀(鉄製直刀カ)1振、矢根(鉄繩カ)数本が発見されたとある。

(渥美)

採集遺物 第139図-1~3は、2号墳周辺で採集された遺物である。1は須恵器の有台坏である。時期は9世紀前葉に位置付けられる。2は磁器の鉢である。推定生産地は肥前とみられる。3は陶器の皿で、菊皿である。(色川)



第138図 駒形端古墳群の位置



第139図 駒形端古墳群踏査採集遺物

第4表 土器・陶磁器・瓦観察表

図版 番号	遺跡名	出土位置	種別・器形 細別	法量(cm)			観察所見	残存率	胎土	焼成	色調 (外面・内面)	備考
				口径	底径	器高						
7	トレンチ1 (第8地点)	トレンチ1・ 掘溝谷内	縄文土器	—	—	—	縦帶。角押文(1 例)	—	余多。砂粒 (白)	良好	にぶい黒 (10YR4/4) ~ にぶい黄褐色 (10YR5/3)	縄文時代中期 後半「阿蘇台 I b式」
2	トレンチ1 (第8地点)	トレンチ1・ 掘溝谷内	縄文土器	—	—	—	波状口縁。縄文R L	—	余多。砂粒(白 多・透多)	良好	赤褐色 (SYR4/6)	縄文時代中期 後半「加賀利 E1式」
3	トレンチ1 (第8地点)	トレンチ2・ SNXII	縄文土器	—	—	—	鋸起縁文。縄文R L	—	全	良好	にぶい黄褐色 (10YR6/4)、明 褐色(7.5YR5/4)	縄文時代中期 後半「加賀利 E2式」
4	トレンチ1 (第8地点)	トレンチ2・ SXDII	縄文土器	—	—	—	波縁文。縄文R L	—	砂粒(透)	良好	黒褐(2.5Y3/ 1)、にぶい黒 (7.5YR6/4)	縄文時代中期 後半「加賀利 E2式」
5	トレンチ1 (第8地点)	トレンチ1・ 掘溝谷内	縄文土器	—	—	—	波縁文。縄文R L	—	砂粒(白多・ 透多)	良好	にぶい黄褐色 (10YR4/4)、灰 褐色(10YR5/4)	縄文時代中期 後半「加賀利 E3 ~ E4式」
6	トレンチ1 (第8地点)	トレンチ1・ 掘溝谷内	縄文土器	—	—	—	波縁文。縄文R L. 内面削離	—	砂粒(黒多・ 透多)	良好	にぶい黄褐色 (10YR6/3)	縄文時代中期 後半「加賀利 E3 ~ E4式」
7	トレンチ1 (第9地点)	トレンチ1・ 掘溝谷内	縄文土器	—	—	—	条縞文	—	砂粒(白・黒・ 透)	良好	にぶい黄褐色 (10YR6/3)、灰 褐色(2.5YR6/2)	縄文時代中期
8	トレンチ1 (第9地点)	トレンチ2	縄文土器	—	—	—	鋸帶	—	余多。砂粒 (白)	良好	にぶい黄褐色 (10YR4/4)、灰 褐色(10YR5/6)	縄文時代中期 後半「阿蘇台 I b式」
9	トレンチ1 (第9地点)	トレンチ2	縄文土器	—	—	—	縄文L R	—	砂粒(白多・ 透多)	良好	にぶい黒 (10YR5/3)	縄文時代中期
11	合ノ田道路 (第1地点)	SII01 上層	須恵器・無台环	13.6	8.2	4.0	ロクロ水引き成形	口径 98% 底径 100%	骨針。砂粒 (白・透)	硬質織	灰(10Y6/1)	8世紀後葉 木下窯産
18	茨城高等学校 道路 (第1地点・ 2次)	トレンチ1・ 表土	磁器・碗 端反対	(10.2)	(4.1)	5.2	輪轉成形。付付 無。内面口 縁二重継縫。 外付無。内面 縫縫二重継縫。 山文。高台 脇・重頭継縫。	1/2 以下				在地産、19 世紀以降
2	茨城高等学校 道路 (第1地点・ 2次)	トレンチ1・ 表土	磁器・碗 国民食器	(15.0)	10.2	5.4	輪轉成形。白化 表面に付付無。 外付無。内面 縫縫二重継縫。 山文。高台 脇・重頭継縫。	1/2 以下				茨城・美濃、 1941年(昭 1945年(戰 時制御期)
3	茨城高等学校 道路 (第1地点・ 2次)	トレンチ1・ 表土	磁器・伝呂具	—	3.8	[5.2]	輪轉成形。付付 無。内面口 縁二重継縫。 山文。高台 脇・重頭継縫。	1/2 以下				肥前
4	茨城高等学校 道路 (第1地点・ 2次)	トレンチ1・ 表土	陶器・瓶 白泥陶文瓶	9.7	3.6	5.3	輪轉成形。割り离 れ。内面口 縁二重継縫。 外付無。内面 縫縫二重継縫。 人耳入り。	1/2 以上				茨城・美濃
25	大串道路 (第9地点)	表土	陶器	—	(5.6)	[2.7]	輪轉成形。系底切	1/2 以下				近畿
30	1	大串新地道路 (第6地点)	SII01	弥生土器	—	—	縄文名5巻き (桶形)	—	砂粒(白・黒)	良好	にぶい黄褐色 (10YR7/4)	弥生時代後期
2	大串新地道路 (第6地点)	SII01	土師器・罐	(12.6)	—	[3.8]	外付口縁無ヨコナ ダ。体部ヘラ引目。 内面ハムガミ	口径 7%	砂粒(黒)	良好	明褐色(7.5YR5/6)	8世紀前葉
3	大串新地道路 (第6地点)	SII01	土師器・罐	(12.0)	—	[5.1]	内外面ヨコナダ	口径 砂粒(白多)	良好	にぶい黒 (7.5YR6/4) ~ 明褐色(7.5YR5/6)	8世紀前葉	
4	大串新地道路 (第6地点)	SII01	土師器・罐	(19.4)	—	[2.9]	内外面ヨコナダ	口径 10%	砂粒(黒・透 多)	良好	にぶい黒 (10 YR4/2) ~ にぶい黄褐色 (10YR5/3)	8世紀前葉
35	1	大串町道路 (第9地点)	トレンチ2・ SII02	弥生土器	—	—	縄文X X	—	余多。骨針	良好	にぶい黄褐色 (10YR6/4) ~ 灰褐色(10YR4/2)	弥生時代後期 後半「壬子瓦」 期
39	1	釜神町道路 (第4地点)	トレンチ2	縄文土器	—	—	縦帶。(押印あり)。 縄文L	—	砂粒(白・黒)	良好	にぶい黒 (10YR4/4)	縄文時代中期 後半「加賀利 B式」
2	釜神町道路 (第4地点)	トレンチ1・ 4層	縄文土器	—	—	—	縄文L R	—	砂粒(白多・ 透多)	良好	灰黃褐色 (10YR4/2) ~ 灰褐色(10YR4/4)	縄文時代中期 中葉「加賀利 B式」
3	釜神町道路 (第4地点)	トレンチ1・ 4層	縄文土器	—	—	—	縄文X?	—	砂粒(白・黒・ 透)	良好	にぶい黄褐色 (10YR6/4) ~ 灰褐色(10YR4/2)	縄文時代中期 後半「加賀利 B式」
4	釜神町道路 (第4地点)	トレンチ2	縄文土器	—	—	—	波状口縁。沈縄文	—	砂粒(白多・ 透多)	良好	黒(5Y2/1) ~ 黑 (10YR4/3)	縄文時代晚期
5	釜神町道路 (第4地点)	トレンチ1・ 4層	縄文土器	—	—	—	縄文L R。外面に 炭化物付着	—	砂粒(白・透 多)	良好	黒(10YR2/1) ~ 黒(10YR4/3)	縄文時代中期
6	釜神町道路 (第4地点)	1号構	平瓦	全長 (10.5)	厚さ 2.5	重量 273g	凹面切口直腹。凸 出浮彫開窓	—	砂粒(白多)	良好	淡オリーブ (5Y5/2)	

番 号	遺跡名	出土位置	種別・器形 細別	法量(cm)			観察所見	残存 率	胎土	焼成	色調 (外面・内面)	備考
				口径	底径	器高						
40	8 釜神町道路 (第4地点)	1号遺構	磁器・碗 丸底 D	(8.4)	(3.6)	4.7	輪縁成形・梁付・ 内面凸出・外側斜面 丸底 D	1/2 以下				肥前、1740 年代～1860 年代
9	釜神町道路 (第4地点)	1号遺構	磁器・碗 環底 D	(8.2)	(3.5)	4.5	輪縁成形・梁付・ 内面凸出・外側斜面 環底 D	1/2 以下				肥前・美濃、 1830年代～ 1850年代
10	釜神町道路 (第4地点)	1号遺構	磁器・碗 前唇反唇 B	(9.4)	(4.0)	4.8	輪縁成形・梁付・ 内面凸出・外側斜面 前唇反唇 B	1/2 以下				肥前、1830 年代～1870 年代
11	釜神町道路 (第4地点)	1号遺構	磁器・植物 小S形	(6.2)	(3.2)	2.8	輪縁成形・梁付・ 内面凸出・外側斜面 植物 S形	1/2 以下				肥前
12	釜神町道路 (第4地点)	1号遺構	磁器・瓶 印判捺付小瓶	(10.0)	(5.6)	1.9	輪縁成形・梁付・ 内面凸出・外側斜面 印判捺付小瓶	1/2 以下				在地産、19 世纪以降
13	釜神町道路 (第4地点)	1号遺構	變形型・押文小瓶	(13.8)	(6.9)	6.9	輪縁成形・梁付・ 内面凸出・外側斜面 變形型・押文小瓶	1/2 以下				在地産、19 世纪以降
14	釜神町道路 (第4地点)	1号遺構	磁器・盤 乾の目凹高台皿	—		[3.2]	輪縁成形・梁付・ 内面凸出・外側斜面 乾の目凹高台皿	1/2 以下				肥前
15	釜神町道路 (第4地点)	1号遺構	供納陶器・碗 筒形碗	(9.6)	(4.5)	6.9	輪縁成形・削出高 台・筒形碗	1/2 以下				七面切陶所 産、1838年 ～
16	釜神町道路 (第4地点)	1号遺構	供納陶器・碗 灰釉輪扁反唇	(8.6)	(2.8)	4.5	輪縁成形・削出高 台・灰釉輪扁 反唇	1/2 以下				七面切陶所 産、1838年 ～
17	釜神町道路 (第4地点)	1号遺構	供納陶器・小杯 彎張形小杯	(6.2)	3.2	2.8	輪縁成形・削出高 台・灰釉輪扁 反唇	1/2 以下				七面切陶所 産、1838年 ～
18	釜神町道路 (第4地点)	1号遺構	供納陶器・仏造 具	(5.8)	—	[2.5]	輪縁成形・灰釉	1/2 以下				七面切陶所 産、1838年 ～
19	釜神町道路 (第4地点)	1号遺構	供納陶器・急須	最大径 7.2	受部径 5.1	3.2	輪縁成形・瓶み詰 付・急須(丸口)(1) 急須・外側斜面 花文、口人あり、 足裏面、溜書きあり (花卉文)	ほぼ 完形				七面切陶所 産、1838年 ～
20	釜神町道路 (第4地点)	1号遺構	陶器・土瓶蓋 青土瓶蓋	最大径 8.2	受部徑 5.7	3.0	輪縁成形・瓶み詰 付・土瓶蓋	ほぼ 未完形				七面切陶所 産、1838年 ～
21	釜神町道路 (第4地点)	1号遺構	陶器・土瓶蓋 青土瓶蓋	最大径 8.6	受部徑 6.3	3.5	輪縁成形・瓶み詰 付(菊瓣)・緑釉 青土瓶蓋	ほぼ 未完形				七面切陶所 産、1838年 ～
22	釜神町道路 (第4地点)	1号遺構	供納陶器・灰火 受付灰火	10.2	4.3	2.0	輪縁成形・赤切底 (左)・灰火・外側斜 面・受付灰火	完形				七面切陶所 産、1838年 ～
23	釜神町道路 (第4地点)	1号遺構	陶器・灯明皿	(7.2)	(3.0)	1.5	輪縁成形・赤切底 (右)・灰火・外側斜 面・受付灰火	1/2 以下				七面切陶所 産、1838年 ～
24	釜神町道路 (第4地点)	1号遺構	土器・罐 小かわらけ	5.4	4.5	0.7	輪縁成形・切刃 (左)・灰火・見込み 外側斜面・中央凸 出式	完形				在地産、近世 ～近代
43	1 雅沢遺跡 (第1地點)	トレンチ1	繩文土器	—	—	—	沈殿文、繩文 L.R	— 砂粒(白・透 多)	普通	黄褐(10YR5/6) と黄褐色(10YR 4/4)	繩文時代後期 前半・中期之內 式	
2	雅沢遺跡 (第1地點)	SD02	繩文土器	—	—	—	沈殿文、繩文 R.L	— 砂粒(白・黑)	良好	に白・黄褐 (10YR7/4)、黑 褐(10YR3/1)	繩文時代後期 前半・中期之內 式	
3	雅沢遺跡 (第1地點)	SD01 塵張部	繩文土器	—	—	—	波状口縁、折腹 繩文(刻みあり)、沈 殿文	— 砂粒(白・透 多)	良好	に白・黄褐 (10YR7/4)、黑 褐(10YR3/1)	繩文時代後期 前半・中期之內 式	
4	雅沢遺跡 (第1地點)	トレンチ1	繩文土器	—	—	—	沈殿文	— 砂粒(白・透 多)	良好	明褐色(10YR 7/6)、黄 褐(10YR5/6)	繩文時代後期 前半・中期之內 式	
5	雅沢遺跡 (第1地點)	トレンチ1	繩文土器	—	—	—	沈殿文、繩文 L.R	— 砂粒(白・透 多)	良好	に白・黄 褐(7.5YR5/4) と黄褐色 (10YR6/4)	繩文時代後期 前半・中期之內 式	
6	雅沢遺跡 (第1地點)	SD01	繩文土器	—	—	—	圓文 L.R、内面刺 繩	— 余多、砂粒(白 多)	普通	明褐色 (7.5YR5/6) と黄褐色 (10YR6/4)	繩文時代後期 前半・中期之內 式	

図版 番号	遺跡名	出土位置	種別・器形 細別	法量(cm)			観察所見	残存率	胎土	焼成 (外側・内面)	色調 (外側・内面)	備考	
				口径	底径	器高							
43	7 横浜道路 (第1地点)	トレンチ1	縄文土器	—	—	—	縄文L R	—	砂粒(白多・透多)	良好	黄褐(2.5Y5/3)	縄文時代後期 「壠之内式」	
	8 横浜道路 (第1地点)	トレンチ1	縄文土器	—	(8.1)	[3.4]	外面ナデ	底径19%	砂粒(白・黒・透)	良好	にぶい黄褐 (10YR7/4)・浅 黄(2.5Y7/4)	縄文時代後期 「壠之内式」	
	9 横浜道路 (第1地点)	SD01	平瓦	全長 (5.7)	厚さ 2.4	重量 95g	凹面凸面引張り	—	骨粒・砂粒(黑 多・透多)	良好	にぶい黄褐 (10YR7/4)		
49	1 崩れ道路 (第1地点)	表土	磁器・碗 丸皿腹内b	(8.6)	(3.2)	4.7	輪轉成型・コム型 外輪轉成型・内輪轉成型 縄文(「福」「喜」) 馬面輪轉成型・萬葉 文字・口付込内輪轉成 形・口付(「具・林」 類)	1/2 以下					生産地不明、 後代後期
	2 崩れ道路 (第1地点)	表土	磁器・碗	11.6	4.1	5.6	輪轉成型・輪轉 成型・萬葉・口付 縄文(「喜・竹」 類)	1/2 以上					生産地不明、 後代後期
68	1 台廻里道路 (第43次)	トレンチ2	縄文土器	—	—	—	縄文L R	—	余多・砂粒 (白)	良好	にぶい黄褐 (10YR5/3)	縄文時代中期 「大木八～ 8b式」	
	2 台廻里道路 (第43次)	トレンチ2	縄文土器	—	—	—	波状口縁・隣起縁 縄文L R	—	砂粒(黒多・ 透多)	良好	にぶい黄褐 (10YR5/3)	縄文時代中期 「加賀利 式」	
	3 台廻里道路 (第43次)	トレンチ2	縄文土器	—	—	—	沈縄文・縄文R L	—	砂粒(白・透)	普通	にぶい黄褐 (10YR6/4)	縄文時代中期 後期「加賀利 式」	
	4 台廻里道路 (第43次)	トレンチ2	縄文土器	—	—	—	縄文L R・外面に 陶化物付着	—	粗・砂粒(透)	良好	黒褐(2.5Y3/2)	縄文時代中期	
	5 台廻里道路 (第43次)	トレンチ1 (南)	土師器・有台环	(7.2)	[2.1]	—	内曲黒色處理、△ ラミガニ	底径10%	余多・砂粒 (白)	普通	にぶい黒 (7.5YR7/4)・黒 (10YR2/1)	8世紀中葉～ 後期	
	6 台廻里道路 (第43次)	トレンチ1・ SD01 縮造面	須恵器・無台环	(13.0)	(8.0)	3.9	ロクロ水滴き成形	口径18% 底径25% 21%	砂粒(白)	破質 堅緻	黄褐(2.5Y4/1)	8世紀中葉～ 後期	
	7 台廻里道路 (第43次)	トレンチ2	須恵器・無台环	(14.2)	(8.2)	4.8	ロクロ水滴き成形	口径21% 底径52%	砂粒(白・透)	破質 堅緻	黄褐(2.5Y6/1)・ 黒褐(2.5Y6/2)	8世紀中葉～ 後期	
	8 台廻里道路 (第43次)	トレンチ1・ SD01 縮造面	須恵器・坪	(14.4)	—	[3.9]	ロクロ水滴き成形	口径13%	砂粒(白)	破質 堅緻	灰(7.5Y5/1)・ (7.5Y4/1)	9世紀前葉	
9	9 台廻里道路 (第43次)	トレンチ2	須恵器・無台环	—	(7.4)	[3.5]	ロクロ水滴き成形	底径39%	待籽・砂粒 (白)	破質 堅緻	灰(10YR6/4)・ 黄褐(10YR5/3)	9世紀後葉	
	10 台廻里道路 (第43次)	トレンチ1・ SD01 縮造面	須恵器・有台环	(13.2)	—	[4.6]	ロクロ水滴き成形	口径12% 底径20%	待籽・砂粒(白 多)	破質 堅緻	灰(5Y6/1)	8世紀中葉～ 後葉	
	11 台廻里道路 (第43次)	トレンチ1 (南)	須恵器・有台环	—	7.2	[2.9]	ロクロ水滴き成形	口径66% 底径66%	砂粒(白・黒・ 透)	破質 堅緻	灰(10YR1/1)・ 灰オーリーブ (5Y5/2)	8世紀前葉	
	12 台廻里道路 (第43次)	トレンチ1・ SD01 縮造面	須恵器・有台盤	(20.0)	(14.0)	3.2	ロクロ水滴き成形	口径14% 底径6%	砂粒(白)	破質 堅緻	灰(5Y6/1)	8世紀中葉～ 後葉	
	13 台廻里道路 (第43次)	トレンチ1・ SD01 縮造面	須恵器・有台盤	—	(15.6)	[2.0]	ロクロ水滴き成形 全体的に内側に 墨書きあり	底径11%	砂粒(白・透)	破質 堅緻	灰(10YR6/1)	8世紀中葉～ 後葉	
	14 台廻里道路 (第43次)	トレンチ2	須恵器・有台盤	—	(14.5)	[3.2]	ロクロ水滴き成形 外面に陶化物 付着	底径23%	砂粒(白・黒)	破質 堅緻	灰(5Y6/1)	8世紀中葉～ 後葉	
	15 台廻里道路 (第43次)	トレンチ2	須恵器・有台盤	—	(10.6)	[2.9]	ロクロ水滴き成形	底径17%	砂粒(白)	破質 堅緻	灰(10YR6/1)	9世紀前葉	
	16 台廻里道路 (第43次)	トレンチ1・ SD01 縮造面	須恵器・有台盤	—	(14.4)	[3.9]	ロクロ水滴き成形	底径35%	待籽・砂粒 (白)	破質 堅緻	灰(2.5Y6/1)	9世紀前葉	
	17 台廻里道路 (第43次)	トレンチ1 (南)	須恵器・圓盤	—	—	[10.0]	ロクロ水滴き成形 四方切欠きL	—	待籽・砂粒 (白・黒)	破質 堅緻	灰(5Y5/1)	8世紀中葉～ 後葉	
	18 台廻里道路 (第43次)	トレンチ1 (南)	須恵器・蓋	—	—	[2.2]	ロクロ水滴き成形	—	圓多・砂粒 (白・透)	破質 堅緻	灰(2.5Y5/1)・ 灰(2.5Y4/1)	8世紀前葉～ 後葉	
20	19 台廻里道路 (第43次)	トレンチ1 (南)	須恵器・蓋	—	—	[3.4]	ロクロ水滴き成形	—	待籽・砂粒 (白・透)	破質 堅緻	灰(2.5Y5/2)	8世紀後葉～ 9世紀前葉	
	20 台廻里道路 (第43次)	トレンチ1 (南)	須恵器・蓋	—	—	[2.2]	ロクロ水滴き成形	—	砂粒(白)	破質 堅緻	灰(2.5Y5/1)	8世紀後葉～ 9世紀前葉	
	21 台廻里道路 (第43次)	トレンチ1・ SD01 縮造面	須恵器・蓋	—	(22.0)	[3.2]	ロクロ水滴き成形	口径14%	砂粒(白・透)	破質 堅緻	灰(5Y5/1)	8世紀後葉～ 9世紀前葉	
	22 台廻里道路 (第43次)	トレンチ1・ SD01 縮造面	須恵器・蓋	—	—	[1.9]	ロクロ水滴き成形 内側に黒帯 あり	—	待籽・砂粒 (白)	破質 堅緻	灰(2.5Y6/1)・ 灰(2.5Y4/1)	8世紀前葉～ 後葉	
	23 台廻里道路 (第43次)	トレンチ1 (南)	須恵器・蓋	—	—	[2.7]	ロクロ水滴き成形	—	砂粒(白・透)	破質 堅緻	灰(2.5Y5/2)	8世紀後葉～ 9世紀前葉	
	24 台廻里道路 (第43次)	トレンチ1・ SD01 縮造面	須恵器・蓋	—	—	—	外面平行突起 付・内面波文波 紋	—	砂粒(白・透)	破質 堅緻	灰(2.5Y5/3)・ 灰(2.5Y6/3)	8世紀後葉～ 9世紀前葉	
	25 台廻里道路 (第43次)	トレンチ2・ SD02 上層	軋丸瓦	全長 (17.4)	厚さ 1.5 ~ 3.3	重量 1,354g	史文神官瓦・軋丸 瓦(3121式)、 当面に凹面(3 面)あり、筒部 凹面毎に直輪	—	砂粒(白多)	良好	灰(7.5YR7/6)	8世紀前葉、 多賀城系	

図版 番 号	遺跡名	出土位置	種別・器形 細別	法量 (cm)			観察所見	残存 率	胎土	焼成	色調 (外顔・内顔)	備考
				口径	底径	器高						
69	26 台東里遺跡 (第43次)	トレンチ1・ SD01 墓道面	平瓦	全長 (13.7)	厚さ 4.4mm	重量 4.4kg	凹面系切り縫。凸 面系切り縫。	—	砂粒 (白多・ 透多)	良好	黄褐色 (2.5YR/3)	
	27 台東里遺跡 (第43次)	トレンチ2	平瓦	全長 (13.7)	厚さ 2.2	重量 159g	凸面系切り縫。凸 面系切り縫。	—	砂粒 (白多・ 透多)	良好	灰ホリーブ (5Y6/2)	
	28 台東里遺跡 (第43次)	トレンチ1・ SD01 墓道	平瓦	全長 (5.2)	厚さ 2.1	重量 97g	凹面系切り縫。	—	砂粒 (白多)	良好	浅褐色 (5Y7/3)	
	29 台東里遺跡 (第43次)	トレンチ2・ SD01 墓道面	土器・内耳土器	—	—	—	外面に炭化物付着	—	骨粒、砂粒 (黑・透)	良好	黒褐色 (5YR3/1)・中 世にぶる褐色 (7.5YR6/4)	
76	1 長谷山遺跡 (第3地点)	SK02 土器	縄文土器	—	—	—	波状口縫跡、沈綱文、 圓文し R	—	金沙・砂粒 (透 多)	良好	赤黃褐色 (10YR4/2)	縄文時代中期 後半・加賀利 E式
	2 長谷山遺跡 (第3地点)	SK03 土器	縄文土器	—	—	—	—	—	砂粒 (白多・ 透多)	良好	黒 (7.5YR2/1)・ 縄文時代中期 後半にぶる褐色 (7.5YR5/4)	
	3 長谷山遺跡 (第3地点)	トレンチ1・ SK01 土器	縄文土器	—	—	—	沈綱文、圓文し R	—	金沙・砂粒 (白 多)	良好	にぶる黄褐色 (10YR5/3)・灰 褐色 (10YR7/2)	縄文時代中期 後半・加賀利 E式
	4 長谷山遺跡 (第3地点)	SK03 土器	縄文土器	—	—	—	圓文し R、外面に 炭化物付着	—	砂粒 (白多・ 黒多・透多)	良好	にぶる黄褐色 (10YR4/2)・ 黒褐色 (10YR7/4)	縄文時代中期 後半・加賀利 E式
	5 長谷山遺跡 (第3地点)	トレンチ1・ SK01 土器	縄文土器	—	—	—	圓文し R L	—	金沙・砂粒 (白 多)	良好	にぶる褐色 (7.5YR7/4)・ 黒褐色 (10YR5/3)	縄文時代中期 後半・加賀利 E式
	6 長谷山遺跡 (第3地点)	トレンチ1・ SK01 土器	縄文土器	—	—	—	圓文し R、外面に炭 化物付着	—	砂粒 (白・透)	良好	にぶる黄褐色 (10YR6/4)・ にぶる黄褐色 (10YR5/3)	縄文時代中期 後半・加賀利 E式
	7 長谷山遺跡 (第3地点)	トレンチ1	須恵器・甕	—	—	—	外面平行綫突起	—	砂粒 (黑)	破質	にぶる褐色 (7.5YR4/1)	木葉下窯跡群
	8 長谷山遺跡 (第3地点)	トレンチ1・ SK01 土器	土器・かわらけ	—	6.0	[1.9]	輪輪成形、系切底 (不明)	1/2 以下	骨粒、砂粒 (白・黒・透)	良好	明黄褐色 (10YR7/6)	中世・近世
	9 長谷山遺跡 (第3地点)	トレンチ1・ SK01 土器	土器・かわらけ	—	4.4	[1.3]	輪輪成形、系切底 (不明)	1/2 以下	砂粒 (白・透)	良好	にぶる黄褐色 (10YR7/3)	中世・近世
	10 長谷山遺跡 (第3地点)	トレンチ1	土器	—	(20.0)	[5.1]	輪輪成形	1/2 以下	砂粒 (黑)	良好	にぶる黄褐色 (10YR7/3)・明 黄褐色 (10YR7/6)	近世か (10YR7/3)
79	1 小寺内遺跡 (第2地点)	トレンチ1	弥生土器	—	—	[4.0]	2本同時陶片 (3.5mm)による 波状文、圓文しを Z巻き (輪輪不 ^明)	—	砂粒 (白・透)	良好	にぶる黄褐色 (10YR5/3)	弥生時代中期 後半・後期
	2 小寺内遺跡 (第2地点)	トレンチ2	弥生土器	—	—	—	圓文しを Z巻き (輪輪不 ^明)、 Z巻き (輪輪不 ^明)、 内底剥離	—	砂粒 (白・黒・ 透)	良好	にぶる黄褐色 (10YR7/4)・浅 黄褐色 (2.5YR7/4)	後半
	3 小寺内遺跡 (第2地点)	トレンチ1	弥生土器	—	—	—	圓文しを Z巻き (輪輪不 ^明)	—	砂粒 (黒多・ 透多)	良好	にぶる黄褐色 (10YR5/4)・褐 褐色 (10YR4/1)	後半
	4 小寺内遺跡 (第2地点)	トレンチ1	土師器・甕	(18.0)	—	[3.5]	複合口縫、外側 内底斜面ヘラツ	口径 2.5 多・透多)	骨粒 砂粒 (白・ 透多)	良好	にぶる黄褐色 (10YR6/4)・ 古墳時代前期	古墳時代前期
	5 小寺内遺跡 (第2地点)	トレンチ2	土師器・無台杯	—	(9.4)	[1.6]	ロクロ水流き成形	底径 26%	砂粒 (白・透)	良好	にぶる黄褐色 (10YR6/4)・ にぶる褐色 (7.5YR5/4)	9世紀
90	1 舞鶴遺跡 (第5地点)	トレンチ1	須恵器・甕	—	—	—	外側終子目切口 底、内底斜面改文	—	砂粒 (白)	破質	明黄褐色 (10YR7/3)・ 黄褐色 (2.5YR4/1)	8世紀
	91	SI01	土師器・甕	(23.0)	—	[3.9]	内外面ヨコナデ	底径 8%	砂粒 (白多・ 透多)	良好	にぶる共鉛 (10YR6/4)・黒 褐色 (10YR3/1)・ 黄褐色 (10YR4/1)	8世紀
95	1 桐原遺跡 (第15地点)	表鉢	須恵器・無台杯	—	(7.7)	[2.8]	ロクロ水流き成形	底径 28%	骨許多、砂粒 (白多)	破質	オリーブ (5Y5/2)	9世紀
	2 桐原遺跡 (第15地点)	表鉢	須恵器・無台杯	—	(7.7)	[2.8]	ロクロ水流き成形	—	骨許多、砂粒 (白多・透多)	良好	火候の問題 による黄褐色	9世紀
102	1 舞鶴遺跡 (第2地点)	トレンチ1	縄文土器	—	—	—	茶崩文	—	砂粒、砂粒 (白 多)	良好	火候の問題 による黄褐色	縄文時代早期
	2 舞鶴遺跡 (第2地点)	トレンチ2	縄文土器	—	—	—	圓文し R ?	—	砂粒、砂粒 (白 多・透多)	良好	火候の問題 による黄褐色	縄文時代初期 前半・須恵器文 土器部
	3 舞鶴遺跡 (第2地点)	トレンチ2	縄文土器	—	—	—	圓文・平底竹質 工具による崩突文	—	砂粒、砂粒 (白・ 黒)	良好	にぶる黄褐色 (10YR6/4)	縄文時代前期 前半・羽状圓 文土器部
111	1 舞鶴町遺跡 (第9地点)	トレンチ2・ 複瓦	縄文土器	—	—	—	沈綱文、圓文し R	—	砂粒 (白・黒)	良好	粗 (7.5YR7/6)	古墳時代中期 後半・後期
	2 舞鶴町遺跡 (第9地点)	トレンチ2・ SI01 墓道面	土師器・甕	(20.0)	—	[8.1]	外面口縫ヨコナデ 制限部位ヘラツ 用子内底斜面改文	口径 22%	砂粒 (白・透)	良好	にぶる黄褐色 (10YR6/4)	8世紀
	3 舞鶴町遺跡 (第9地点)	トレンチ2・ SI01 墓道面	須恵器・無台杯	(13.8)	(7.6)	4.4	ロクロ水流き成形	口径 16% 底径 10%	骨許多、砂粒 (白・透)	破質	元 (10YR6/1)	9世紀後期
117	1 大串遺跡 (第9地点)	SI01	土師器・甕	12.2	—	4.9	口縫部折れ、外底 輪輪状あり、内底へ 2.5万	口径 54%	砂粒 (白多・ 透多)	良好	明黄褐色 (10YR6/6)	8世紀前半
	2 大串遺跡 (第9地点)	SI01	須恵器・甕	(16.0)	—	3.2	ロクロ水流き成形	口径 25%	砂粒 (白多)	破質	明黄褐色 (10YR6/6)	8世紀前半

図版 番号	遺跡名	出土位置	種別・器形 細別	法量(cm)			観察所見	残存率	胎土	焼成	色調 (外側・内面)	備考
				口径	底径	器高						
122 1	大御町道路 (第10地点)	S102 植物被 下層	縄文土器	—	—	—	波状口縁、沈綱文	—	砂粒(白)	良好	ふくら にぶくら (10YR7/4)・根 (7SYR6/4)・根 E2式	縄文時代中期 後半・加賀野 E2式
2	大御町道路 (第10地点)	S102 南K覆 土	縄文土器	—	—	—	沈綱文、縄文L.R	—	砂粒(白多・ 透多)	良好	灰黄褐 (10YR4/2)・ にぶくら (10YR4/3)	縄文時代後期 前半「壺之内 2式」
3	大御町道路 (第10地点)	—	縄文土器	—	—	—	縄文R.L	—	砂粒(白・透)	普通	灰黄褐 (10YR5/4)・黑 褐(10VR3/2)	縄文時代
4	大御町道路 (第10地点)	表土	縄文土器	—	—	—	縄文L.R	—	砂粒(白多・ 透多)	良好	灰黄褐 (2.5YS/2)・にぶ くら(2.5YD/3)	縄文時代
5	大御町道路 (第10地点)	S101 南K覆 土	縄文土器	—	—	—	縄文L.R	—	砂粒(白多)	良好	灰褐(10YR4/1) にぶくら (10YR5/3)	縄文時代
6	大御町道路 (第10地点)	S101	勇生土器	(13.4)	—	[3.6]	D部端縁陶軸形に よる刻込み、口縁部 輪郭。陳付・指捺 によると、縦1条、 輪郭2条(工具の 跡?)により窓位 →波状	—	砂粒(黒・透)	良好	灰黄褐 (10YR5/2)・ にぶくら (10YR5/3)	勇生時代後期 「十三手式」
7	大御町道路 (第10地点)	S102 北ベル ト	勇生土器	—	—	—	腰摺(棒状工具に よる押捺)、縦1条、 輪郭(棒状工具(3 本)による窓位) →波状	—	砂粒(白)	良好	暗褐色 (10YR4/3)・ 黒褐(10YR4/4)	勇生時代後期 「十三手式」
8	大御町道路 (第10地点)	表土	勇生土器	—	—	—	縄文R.X×R.L	—	砂粒(白)	良好	にぶくら (10YR6/4)	勇生時代後期 「十三手式」
9	大御町道路 (第10地点)	表土	勇生土器	—	—	—	縄文L.R+2R L×R+2L	—	砂粒(白多・ 透多)	良好	灰黄褐 (10YR4/2)・ にぶくら (10YR5/3)	勇生時代後期 「二軒屋式」
10	大御町道路 (第10地点)	S103 内 SK06 南土	勇生土器	—	—	—	縄文L.R+2R L+2L	—	砂粒(白)	良好	にぶくら (10YR6/3)	勇生時代後期 「二軒屋式」
11	大御町道路 (第10地点)	S102 譲讓面	勇生土器	—	7.5	[4.5]	縄文L.R+2R L+2L, 底面 木炭痕	底径 100%	砂粒(白多・ 透)	良好	明褐色 (7.5YS/5.6)・ 灰黄褐 (10YR5/3)	勇生時代後期 「二軒屋式」
12	大御町道路 (第10地点)	S103 内 SK06 南土	土師器・塵	(15.0)	(5.6)	19.0	内面に輪積み底 あり	口径 39% 底径 43%	砂粒(白多・ 透)	良好	明褐色 (10YR7/6)・ にぶくら (10YR5/4)	6世紀前葉
13	大御町道路 (第10地点)	表土	土師器・塵	(18.0)	—	[4.7]	外面ヨコナギ、内 面窓位ヘラ彫り	口径 61%	砂粒(白・黑・ 透)	良好	暗褐色 (5YR6/1)・ (5YR6/2)・ 黒褐(2.5Y3/1)	6世紀前葉
14	大御町道路 (第10地点)	S101, SK01, SK03	土師器・环	(15.0)	—	5.5	外面ヨコナギコ 字、体部ヘラ彫り、 内面ナマテ?	口径 61%	砂粒(白多)	良好	暗褐色 (5YR6/8)	6世紀前葉
15	大御町道路 (第10地点)	S103 南土	土師器・环	(10.0)	—	4.8	外面ヨコナギコ 字、体部ヘラ彫り、 内面ヨコナギコ 字?	口径 17%	砂粒(白・透)	良好	暗褐色 (2.5YR6/9)・ 灰黄褐 (3YR2/1)	6世紀前葉
16	大御町道路 (第10地点)	S101	土師器・环	(14.5)	—	4.5	外面ヨコナギコ 字、体部ヘラ彫り、 内面ヨコナギコ 字?	口径 7%	砂粒(白多・ 透)	普通	明褐色 (5YR5/6)・灰 黄褐 (10YR4/2)	6世紀前葉
17	大御町道路 (第10地点)	S101	土師器・环	(14.0)	—	4.5	外面ヨコナギコ 字、体部ヘラ彫り、 内面ヨコナギコ 字?	口径 15%	砂粒(白)	良好	暗褐色 (7.5YR4/3)	6世紀前葉
18	大御町道路 (第10地点)	S101 頂面	土師器・环	(15.4)	—	[3.8]	内面黒色處理。横 窓位ヘラ彫り	口径 18%	砂粒(白・黑・ 透)	良好	明褐色 (10YR7/6)・黑 褐(10YR2/1)	9世紀
19	大御町道路 (第10地点)	—	平瓦	全長(2.8)	厚さ (2.0)	重量 35g	凸面へラ彫り	—	砂粒(白)	良好	黑褐(10YR3/2)	
127 1	市民坂道路 (第3地点)	SK01	縄文土器	—	—	—	縄文縁文	—	砂粒(白多・ 黒多)	良好	淡黄褐 (2.5Y7/4)・ にぶくら (2.5Y6/3)	縄文時代中期 後半・加賀野 E2式
2	市民坂道路 (第3地点)	確認面	縄文土器	—	—	—	縄文L.R	—	砂粒(黒・透)	良好	淡黄 (2.5Y7/4)	縄文時代中期
3	市民坂道路 (第3地点)	SK01	縄文土器	—	—	—	縄文R.L	—	砂粒(白・透)	良好	淡黄 (2.5Y5/3)・ にぶくら (2.5Y6/3)	縄文時代後期
4	市民坂道路 (第3地点)	基本順序2	勇生土器	—	—	—	2.5回同施文具 (4.5cm)により 窓位→横位	—	骨針	良好	にぶくら (2.5Y6/4)	勇生時代中期 後葉
5	市民坂道路 (第3地点)	—	勇生土器	—	—	—	縄文R.Sを5巻き (輪削)	—	砂粒(透多)	良好	黑褐(10YR3/2)	勇生時代中期 後葉
6	市民坂道路 (第3地点)	基本順序2	土師器・塵	—	—	—	外面部輪削文印き	—	砂粒(白・黑)	良質	オリーブ褐 (7.5YS/2)	
7	市民坂道路 (第3地点)	確認面	土師器・塵	—	—	—	外面部輪削文印き	—	砂粒(白・黑)	良質	黄褐 (2.5Y5/1)	
8	市民坂道路 (第3地点)	確認面	土師器・塵	—	—	—	外面部輪削文印き	—	砂粒(白・透)	やや 良質	灰 (N4/0)	木葉下窯業
9	市民坂道路 (第3地点)	—	土師器・塵	—	(8.8)	[10.3]	外面部輪削ミガ キ内、体部ヘラ彫り、 内面木炭痕	底径 28%	砂粒(多・ 透)	良好	淡黄 (2.5YS/5/4)・ にぶくら (10YR5/3)	新出産。8世 紀
133 1	東大野道路 (第1地点)	確認面	土師器・塵	—	—	—	外面部輪削文印き	—	砂粒(黑)	良質	灰 (5YR6/1)	

図版 番号	遺跡名	出土位置	種別・器形 細別	法量(cm)			観察所見	残存率	胎土	焼成	色調 (外面・内面)	備考	
				口径	底径	器高							
133	東大野遺跡 (第1地点)	SD01	磁器・碗 不明	—	(4.0)	[1.7]	輪轉成形／染付／ 骨灰不透明。内面見 る。外側に輪轉 年輪。高台 第一層に明瞭。高台 第二層に不明。	破片	1/2 以下	良好	白・米黄 (2.5Y6/4)	淀川・美濃 1810年代以前	
135	水戸城跡 (第20次)	トレンチ	土器・甕	—	(20.0)	[5.4]	輪轉成形、系切底 (不明)	成形 21%	胎多、砂粒(白 多)	普通	白・灰・黄 (10Y5/3)	近世以前	
		トレンチ	土器・かわらけ	(12.4)	—	[3.1]							
		月戸屋形 (第20次)	柱瓦	全長 26.7	厚さ 1.9	重量 2.150g			口径 24%	砂粒(黒・透)	普通	明治期 (5YR5/6)・木 灰(7.5Y6/4)	近世 江戸時代後期
		孔子廟抱入柱 トレンチ1	棒脚瓦	全長 (12.4)	厚さ 3.3	重量 625g							
		孔子廟門柱 トレンチ1	不明	全長 (6.8)	厚さ 3.4	重量 97.5g							
137	周知内外 (河和田町 636番地)	表探	須恵器・無台环	(14.2)	8.4	4.5	口クロ口焼き成形	口径 底径 63%	砂粒(白多) 胎質	良	白・灰 (2.5Y5/1)	8世紀中葉 木造下築	
		表探	須恵器・蓋	—	—	[2.0]	口クロ口焼き成形	—	砂粒(白)	良	白・灰 (2.5Y5/2)	8世紀前葉 木造下築	
139	胸形端古墳 2号墳周辺 表探	須恵器・有台环	—	(9.4)	[2.8]	ロクロ口焼き成形	骨灰...砂粒 27% (白)	胎質 骨灰	良好	白・灰 (2.5Y6/1)	9世紀前葉		
		2号墳周辺 表探	磁器・鉢	(6.7)	[4.9]	輪轉成形／染付／ 骨灰無施。内面見 る文(花押文)、見 込み部に輪轉 年輪。外側に花 文あり、外側輪 轉成形。高台第 二層に明瞭。							
		2号墳周辺 表探	陶器・瓶	—	(13.0)	3.3	輪轉成形／染付／ 骨灰無施。内面見 る文(花押文)、見 込み部に輪轉 年輪。						

*括弧内の数値は、復元された口径や底径、または残存高を示す。

(第4表 凡例)

*「胎」の記載には、次の記号を使用する。

「金」：金色を呈する風化した黒墨印画（さらに、「多」含有が多量、という記号の組み合わせで表記する）。

「銀」：銀色を呈する風化した白墨印画（さらに、「多」含有が多量、という記号の組み合わせで表記する）。

「骨粉」：白色骨粉状物質と表記される海綿骨粉（さらに、「多」含有が多量、という記号の組み合わせで表記する）。

「白」：白色不透明で長石あるいは石英と考えられる粒子（さらに、「多」含有が多量、という記号の組み合わせで表記する）。

「黒」：黒色で光沢を有し輝石あるいは角閃石と考えられる粒子（さらに、「多」含有が多量、という記号の組み合わせで表記する）。

「透」：透明で石英と考えられる粒子（さらに、「多」含有が多量、という記号の組み合わせで表記する）。

第5表 石器観察表

図版	番号	遺跡名	出土位置	器種	石材	長さ	幅	厚さ	重量	備考
						(mm)	(mm)	(mm)	(g)	
39	7	並神町道路（第4地点）	トレンチ1・4層	分離形打製石片	ホルンフェルス	94.5	71.0	14.5	96.89	
79	6	寺内道路（第2地点）	トレンチ1	破片剥片	珪質頁岩	63.0	58.5	26.0	28.25	
7	7	寺内道路（第2地点）	トレンチ2	剥片	ガラス質黑色安山岩	23.0	36.5	8.5	3.47	
111	4	渡里町道路（第9地点）	トレンチ2 開底	剥片	ホルンフェルス	48.0	45.0	12.0	14.33	
122	20	大瀬町道路（第10地点）	S03	磨石	砂岩	98.0	38.5	30.5	17.30	

第6表 金属器観察表

図版	番号	遺跡名	出土位置	器種	材質	長さ	幅	厚さ	重量	備考
						(mm)	(mm)	(mm)	(g)	
117	3	大串道路（第9地点）	S01	鍔	鉄	123.5	33.5	3.0	34.47	
4	4	大串道路（第9地点）	S01	刀子	鉄	80.0	15.0	4.0	6.99	木質残る。
133	4	東大野道路（第1地点）	S01	椎骨	直鍔	38.5	17.5	9.0	2.65	

第7表 銭貨観察表

図版	番号	遺跡名	出土位置	銭名・錢種	初鋳年 (鋳造年)	外径	穿径	最大厚	重量	備考
						(mm)	(mm)	(mm)	(g)	
7	10	介道跡（第9地点）	トレンチ2	寛永通寶（新開水）	寛文8（1668）年	2.2	0.7	0.1	2.1	銅一文銭
40	25	並神町道路（第4地点）	1号遺構	寛永通寶（新開水）	寛文8（1668）年	2.3	0.1	4.0	2.1	銅一文銭。縁青苔しい。
49	3	崩れ地道路（第1地点）	ローム上	寛永通寶（新開水）	寛文8（1668）年	2.2	0.7	0.1	1.8	銅一文銭

*計測値は、残存する状態での最大値である。

第6章 釜神町遺跡（第4地点）出土黒地蒔絵箱物の保存処理と分析

第2章の「2-16 釜神町遺跡（第4地点）」において報告したように、第1号遺構から黒地蒔絵箱物とみられる漆製品が出土した。本資料は市内初の発見であり、水戸藩の武家の生活を具体的に物語る出土品として意義の深いものであることから、恒久的に保存し、公開・活用を図っていくためにも保存強化処理が急務であった。市教育委員会事務局は、株式会社京都科学と保存処理業務委託契約を締結し、展示等に耐えられるよう、2点の資料の補強処理を行った。以下では、保存処理の方法と保存処理方針の参考とするために実施した塗膜構造分析の結果を報告する。

（関口）

6-1 保存処理の方法と経過

1. はじめに

釜神町遺跡出土の黒地蒔絵箱物は出土後、切取られて弊社施設内に搬入された。状態を確認すると、非常に脆弱だが表面の蒔絵文様が比較的よく残っており、所々に朱漆らしき残片と肌色の残片が散見された。乾燥または腐朽・劣化の促進を避けるため、温潤状態を維持したまま冷暗所にて保管した。

保存処理方針の参考とするために、株式会社パレオ・ラボに漆塗膜構造の調査・分析を依頼した。特に肌色に見える膜状物質が何なのか知りたい必要があると考えた。その結果、下記の4点の事実が判明した（6-2参照）。

- ①木胎の大部分はすでに消失しているが、針葉樹である。
- ②肌色に見え部分は下地（おそらく底粉）である。
- ③外面が蒔絵で内面が朱漆の製品である。
- ④金蒔絵の上には漆が重ねられていない。

2. 保存処理

まず表面に付着した泥土を、筆とエタノールを使用して慎重に除去した。上記④より金部分の流出が懸念されたので、それを防ぐ目的で表面にアクリル樹脂（パラロイドB-72；ロームアンドハーツ社）を塗布した。樹脂表面が乾いた後、HPCシートを用いて表面を養生した。HPCシートとは和紙にヒドロキシプロピルセルロース（HPC）を浸み込ませて乾燥させたもので、少量のエタノールで対象物の表面に貼り付けることができるよう調整したシートである。その後遺物を反転させ裏面の土を丁寧に除去し、朱漆面を表出させた。

そして資料内部に僅かに遺存している木質部に保存処置を施すべく、糖アルコール溶液を塗布含浸した。

また裏面の土を除去していく過程で、一方は裏側が朱漆面の部材で、もう一方は黒漆面の部材であることが確認できた。この黒漆面を持つ部材は、金銅製の金具が取り付けられていることが判明した。出土時の状況から見ると、金銅製金具付き黒漆金彩製品の上に外面蒔絵内面朱漆製品が重なっていることになる。

この二製品を分離すべく、以下の手順で作業を進めた。

- I . 二製品間の土部分にメスを慎重に入れる。
- II . できた隙間にシリコンシートを挟み込む。
- III . 隙間にエタノールを少量注ぐ。
- IV . 再度メスを入れる

上記IからIVを徐々に繰返して二製品を分離した。分離した後、土を除去して朱漆面と黒漆面を表出させた。土除去後の状態を観察すると、やはり木胎はほとんど遺存していないかったが、金銅製金具が取り付けられた場所のみ厚みが残っていた。これは銅成分が木質部分に浸透したこと、金具付近のみ形状が保持されたと考える。しかしながら漆膜しか遺存していない箇所は強度がなく、取扱いに苦慮するので塩素未使用漂白の極薄和紙をアクリル樹脂で裏打ちし補強した。その後表面のHPCシートを慎重に外した。

内外面ともに漆膜がよく残っているため、両面を観察できる方法を模索した。非常に脆弱なため、亀裂部や空隙部に塩素未使用漂白の極薄和紙をアクリル樹脂で裏打ち（表打ち）した。次に和紙を遺物の周囲に約3cm幅で折げア

クリル樹脂で接着し、擬土（裏面土+HPC）を約1.5cm幅で成形することで全体的な強化を試みた。

擬土を使用した理由として、

- ・製品の完形像が把握できていないこと
 - ・非常に脆弱なため周囲を固めないと取扱い時に危険度が増すこと
 - ・出土時の雰囲気に近い展示ができること
- が挙げられる。

周囲の擬土を成形後、余白部に残った和紙（幅約1.5cm）を塗装用の『口』の字型枠にHPCで固定させた。それを透明アクリル板で挟み、ポリカーボネイト製のビスで固定した（原色図版2中段）。緩衝材として、アクリル板と和紙との間にシリコンシート（0.5mm）を挿入した。アクリル板に固定された状態で展示・保管できるので、実物に直接触れずに両面の観察が可能となり、取扱い時の危険性が軽減される。これを二部材分作製し、個々の部材で表裏を観察・展示できるようにした。

（株式会社京都科学製造部製造二課 平井孝憲）

6-2 塗膜分析

1.はじめに

釜神町遺跡（第4地点）第1号遺構から、江戸時代と推定される金の蒔絵を施した黒地蒔絵箱物が出土した。ここでは、この黒地蒔絵箱物について光学顕微鏡観察による塗膜観察、X線分析および赤外分光分析を行い、塗膜の構造および材料を検討した結果を報告する。なお、塗膜の顕微鏡観察と赤外分光分析は藤根が担当し、X線分析は竹原が担当し、藤根がまとめた。

2.試料と方法

分析試料は、箱状漆器の各々直交する部材2点（ここでは、試料No.1を部材A、試料No.2を部材Bと呼ぶ。）である（第8表、原色図版4の1a、2a）。なお、その他の塗膜片について顕微鏡観察を行った（原色図版3）。

第8表 漆器内面付着黒色物と塗膜分析結果

試料No.	器種	部材	地点	遺構	時代	下地層	塗膜層
1	黒地蒔絵	A	第4地点	第1号遺構	江戸	b1+b2：粘土、b3：炭粉	c1：水溶赤色、c2：漆、c3：金粉
2	箱物	B				b1+b2：粘土、炭粉	c1：漆、c2：金粉

分析は、光学顕微鏡による塗膜観察、X線分析および赤外分光分析を行った。薄片は、エポキシ樹脂で包埋した後、精密研磨フィルム2000～8000番を用いて研磨し、断面プレパラートを作製した。プレパラートは、光学実体顕微鏡による観察の後、走査型電子顕微鏡（日本電子株式会社製JSM-5900LV、以後SEM）による反射電子像の観察および付属するエネルギー分散型X線分析装置（同JED-2200）による定性・簡易定量分析を行った。

また、漆成分を調べるために、赤外分光分析を行った。試料は、塗膜の表面部分において手術用メスなどを用いて0.2mm角程度を薄く削り取った。採取した試料は、押しつぶして厚さ1mm程度に裁断した臭化カリウム（KBr）結晶板に挟んで、油圧プレス器を用いて約7トンで加圧整形した。測定は、フーリエ変換型顕微赤外分光光度計（日本分光（株）製FT/IR-410、IRT-30-16）を用いて透過法により赤外吸収スペクトルを測定した。

3.結果および考察

箱状漆器は、出土状況から箱の各々直交する部材と推定されている。以下に、塗膜薄片の光学顕微鏡観察およびSEM反射電子像観察およびX線分析の結果について述べる。なお、各部材の代表的な塗膜のX線分析結果は第9表に示す。

部材A（試料No.1）は、厚さ約200μmであり、肉眼的に4層に区分された。塗膜薄片の光学顕微鏡観察では、下地層（b1～b3層）と漆膜層および金粉層からなる。下地層は、黒色の薄層を境にして、石英などの粒子を含む

シルト質粘土層の厚さ $20 \mu\text{m}$ 以下の b1 層、シルト質粘土層の厚さ約 $100 \mu\text{m}$ の b2 層、微細な炭粒子からなる $5 \mu\text{m}$ 以下の炭層の b3 層である。塗膜層は、前述の下地層の下位層として水銀 (Hg) を含む赤色の厚さ約 $20 \mu\text{m}$ の c1 層、透明淡褐色の厚さ約 $70 \mu\text{m}$ の漆膜層の c2 層、不連続の金粉層からなる c3 層である（原色図版 4-1b）。なお、金粉は原色図版 4 では含まれていなかったため、X 線分析は表面の金部分について行った。金粉層は、漆膜の表面に接しており、漆膜により被覆されてはいない。木胎は、腐朽したため残存しない。

一方、部材 B(試料 No.2) は、厚さ約 $380 \mu\text{m}$ であり、肉眼的に 3 層に区分された。塗膜薄片の光学顕微鏡観察では、下地層 (b1 ~ b3 層) と漆膜層および金粉層からなる。

第 9 表 塗膜の各層のエネルギー分散型 X 線分析結果

試料 No.	部材名	点分析	層	C	Al_2O_3	SiO_2	SO_3	Cl	K_2O	CaO	TiO_2	MnO	FeO	Au	HgO	合計
I	A	①	c2	96.02	0.29	2.85	0.15	—	—	—	—	—	0.70	—	—	100.01
		②	b2・石英	—	—	100	—	—	—	—	—	—	—	—	—	100.00
		③	b2	—	10.11	81.43	1.33	—	2.62	—	—	—	4.52	—	—	100.01
		④	c1	48.58	2.85	7.56	12.16	—	—	—	—	—	1.83	—	27.02	100.00
		⑤	c3	—	—	—	—	—	—	—	—	—	100	—	—	100.00
Z	B	①	c2	—	—	—	—	—	—	—	—	—	100	—	—	100.00
		②	c1	93.03	0.62	4.63	—	—	0.14	0.38	—	—	1.21	—	—	100.01
		③	b2	—	11.43	71.92	—	—	1.76	—	0.95	—	13.94	—	—	100.00
		④	b1	—	14.25	70.73	—	—	2.18	—	1.17	—	11.67	—	—	100.00
		⑤	(b1)	—	18.60	65.90	—	—	—	—	—	—	15.50	—	—	100.00

下地層は、淡褐色酸化層を境にして最大 $35 \mu\text{m}$ の粒子を含む厚さ $120 \mu\text{m}$ のシルト質粘土層の b1 層、同様のシルト質粘土層の b2 層、微細な炭粒子からなる厚さ $20 \mu\text{m}$ 以下の黒色層の b3 層である。塗膜層は、透明淡褐色の漆膜層の c1 層、不連続の金粉層の c2 層である（原色図版 4-2b）。金粉層は、漆膜層の表面に接しており、漆膜により被覆されてはいない。

なお、木胎は、試料 No.1 と 2 のいずれにおいても腐朽し、木材組織は確認されない。一方、他の塗膜片では、シルト質粘土層に挟まれた薄い木胎が確認され、光学顕微鏡では仮道管と放射柔細胞が確認できたことから針葉樹であった。部材 A (試料 No.1) に見られた b1 層と b2 層の間に黒色の薄層が木胎の痕跡と推測される。

部材 A (試料 No.1) の塗膜 c2 層および部材 B (試料 No.2) の塗膜 c1 層の赤外分光分析では、漆の成分であるウルシオールの吸収ビーカー (No.6 ~ No.8) と一致したことから、漆と同定された (第 140 図-1)。なお、第 137 図-1 の赤外吸収スペクトル図は、試料が実線、生漆が点線で示し、縦軸が透過率 (%)、横軸が波数 (Wavenumber cm^{-1}) : カイザー) である。スペクトル図は、ノーマライズしてあり、吸収スペクトルに示した数字は、生漆の赤外吸収位置を示す (第 10 表)。なお、下地層 (b1 または b2 層) の赤外分光分析では、土成分のために明瞭ではないが、ウルシオールの一部の吸収が見られた (第 140 図-1 の b 層)。

以上の箱状塗膜片の検討から、針葉樹を用いた木胎漆器であることが確認された。塗膜構造は、外面が粘土下地に炭を塗った上に漆を塗り金の蒔絵を施し、内面が水銀を混ぜた漆塗膜と推定された。ただし、木胎の保存状態は悪く、木胎の厚さは不明であった。

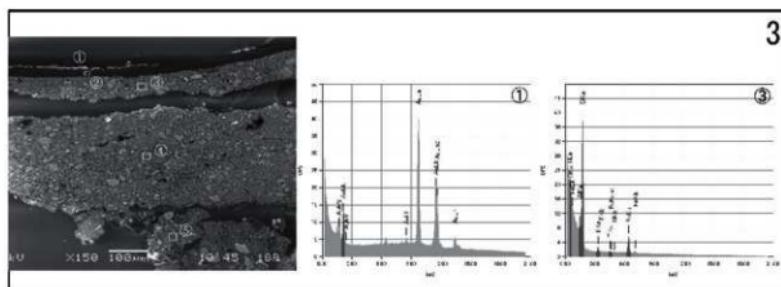
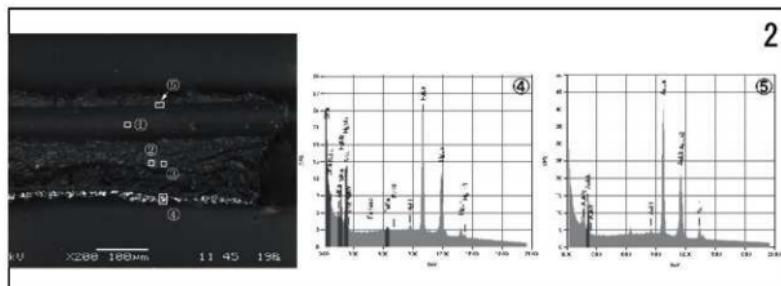
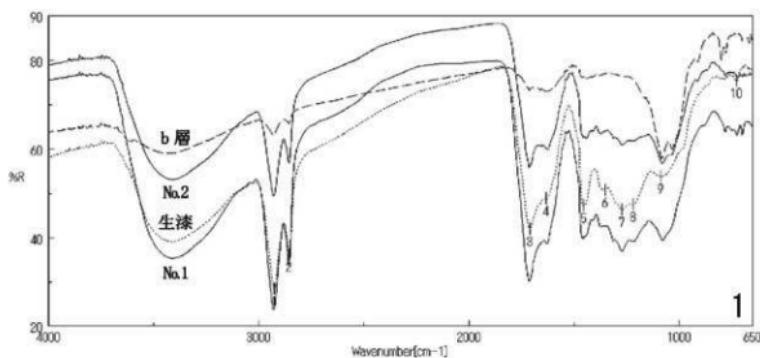
4. おわりに

黒地蒔絵箱物の塗膜片について顕微鏡観察等の塗膜分析を行った。その結果、針葉樹を用いた木胎漆器であることが確認された。塗膜構造は、外面が粘土下地に炭を塗った上に漆を塗り金の蒔絵を施し、内面が水銀を混ぜた漆塗膜と推定された。ただし、木胎の保存状態は悪く、木胎の厚さは不明であった。

第 10 表 生漆の赤外吸収位置とその強度

吸収 No.	生漆		ウルシ成分
	位置	強度	
1	2925.48	28.534	
2	2854.13	36.217	
3	1710.55	42.035	
4	1633.41	48.833	
5	1454.06	47.195	
6	1351.86	50.803	%f-f
7	1270.86	46.334	%f-f
8	1218.79	47.536	%f-f
9	1087.66	53.843	
10	727.03	75.389	

(株式会社パレオ・ラボ 藤根 久・竹原弘展)



第140図 黒地蒔繪箱物塗膜の赤外線分光分析とX線分析結果

1. 塗塗膜（試料No.1のc2層、試料No.2のc1層）および下地層（b層）の赤外分光スペクトル図（縦軸は透過率、横軸は波数を示す）
2. 試料No.1 塗膜層の反射電子像とX線スペクトル（番号は点分析位置を示す）
3. 試料No.2 塗膜層の反射電子像とX線スペクトル（番号は点分析位置を示す）

引用・参考文献

- 石丸敦史・渥美賢吾編 2009 『大船町遺跡（第8地点）一宅地造成工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』水戸市教育委員会
- 伊藤廉倫 1995 『茨城県水戸市 堀遺跡一住宅建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』水戸市教育委員会
- 井上義安 1988 『水戸市大船町遺跡（仮称）元吉田第三住宅団地造成工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』水戸市大船町遺跡発掘調査会
- 1990 『葉王院東遺跡 千波中学校建設に伴う埋蔵文化財調査報告書』水戸市葉王院東遺跡発掘調査会
- 井上義安・夢沼香未由・仁平妙子・根本瞳子 1999 『水戸市埋蔵文化財分布調査報告書 平成10年度版』水戸市教育委員会
- 茨城県教育委員会 2001 『茨城県遺跡地図』
- 小川和博・大沢淳志編 2006 『台渡里遺跡—集合住宅建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』水戸市教育委員会
- 川口武彦・色川順子編 2009 『平成18年度水戸市内遺跡発掘調査報告書』水戸市教育委員会
- 川口武彦・色川順子編 2010 『平成19年度水戸市内遺跡発掘調査報告書』水戸市教育委員会
- 斎藤 洋・新垣清貴編 2005 『大船町遺跡 グランディヒルズ元吉田造成工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』水戸市教育委員会・グランディハウス株式会社・株式会社地域文化財コンサルタント
- 佐々木藤雄・間口慶久・大橋 生・林 邦雄 2006 『大船町遺跡（第3地点）一市道浜田207号線側溝新設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』水戸市教育委員会
- 佐々木藤雄・林 邦夫編 2008 『台渡里遺跡（第39次調査）一公共下水道工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』水戸市教育委員会
- 佐々木義則 2001 『茨城県における8・9世紀の須恵器表裏観』『斐良岐考古』第23号 斐良岐考古同人会
- 高野浩之・米川暢敬編 2011a 『台渡里5一市道常磐123号線道路改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書（台渡里第60次）』水戸市教育委員会
- 2011b 『赤塚遺跡（第5地点）一河和田住宅建替え事業（第5期）に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』水戸市教育委員会
- 外山泰久 1983 『常陸赤塚一国道50号水戸バイパス道路建設に伴う発掘調査』国道50号水戸バイパス埋蔵文化財発掘調査会
- 細谷弘一・佐藤次男・川井正一・根本康弘・市毛美津子 1994 『内原町の遺跡—内原町遺跡分布調査報告書』内原町史編さん委員会
- 南田法正・渥美賢吾編 2009a 『町付遺跡（第1地点）一共同住宅建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』水戸市教育委員会
- 宮田忠洋・渥美賢吾 2009 『雁沢遺跡（第1地点）一工場建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』水戸市教育委員会・株式会社水戸理化ガラス・有限会社毛野考古学研究所

報告書抄録

ふりがな	へいせいにじゅうねんどみとしないいせきはくつちょうさほうこくしょ							
書名	平成20年度水戸市内遺跡発掘調査報告書							
シリーズ名	水戸市埋蔵文化財調査報告 第43集							
編集者名	川口武彦・色川順子・田中恭子・三浦健太							
著者名	川口武彦・色川順子・間口慶久・渥美賢吾・金子千秋・平井孝憲・藤根 久・竹原弘展							
編集・発行機関	水戸市教育委員会	所在地	〒310-8610 茨城県水戸市中央1-4-1 ☎029-224-1111(代)					
発行年月日	2011(平成23)年4月25日							
所取遺跡名	所在地	コード 市町村 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積 (m ²)	調査原因	
井の頭遺跡 (第8地点)	阿知田3丁目2370-1	08201 015	36° 22' 23'	140° 24' 31'	2008.4.21	36.6	共同住宅建築	
井の頭遺跡 (第9地点)	阿知田1丁目1615-1	08201 015	36° 22' 23'	140° 24' 52'	2008.7.9	86.15	個人住宅建築	
合ノ山遺跡 (第1地点)	大庭町字合ノ山709	08305 074	36° 22' 55'	140° 22' 03'	2008.11.6	17.51	個人住宅建築	
牛伏山遺跡 (第1地点)	牛伏町181-1外	08305 069	36° 23' 34'	140° 21' 44'	2008.6.2～6.5	124	墓地造立工事	
船岡古墳群 (第1地点)	大塙町1757	08201 221	36° 22' 27'	140° 25' 37'	2009.3.23	342	宅地造成工事	
天城高等学校跡 (第1地点～2次)	八幡町8-54 (水戸八幡宮)	08201 062	36° 23' 16'	140° 27' 37'	2009.3.16	10	板拌殿設置	
三の丸遺跡 (第1地点)	那珂町地内 (那須8-1067号線)	08201 252	36° 20' 45'	140° 20' 55'	2008.10.28	304	側溝新設工事	
江川前跡 (第3地点)	内郷町639-1	08201 059	36° 22' 02'	140° 21' 46'	2009.3.23	15	個人住宅建築	
大庭町字原坪 (第9地点)	大庭町字原坪598-2	08201 176	36° 20' 00'	140° 32' 31'	試掘 2008.5.12. 本調査 2008.7.31～8.12	45.9 103.34	個人住宅建築	
大庭道跡 (第1地点)	大庭町字舟塚1277-1	08305 072	36° 22' 09'	140° 22' 48'	2008.6.5	23	個人住宅建築	
大塙新地遺跡 (第6地点)	大塙町字表467	08201 222	36° 22' 51'	140° 23' 27'	2008.5.30	10	個人住宅建築	
大塙新地遺跡 (第7地点)	大塙町544-10	08201 222	36° 22' 54'	140° 23' 18'	2008.6.23	13.8	個人住宅建築	
大塙新地遺跡 (第8地点)	大塙町字表484	08201 222	36° 22' 52'	140° 23' 22'	2008.12.11	10.5	個人住宅建築	
元吉田遺跡 (第9地点)	元吉田町2339-4	08201 011	36° 21' 18'	140° 29' 41'	2008.12.11	26	店舗建設	
元吉田遺跡 (第10地点)	元吉田町2280-9,-10	08201 011	36° 21' 18'	140° 29' 09'	試掘 2008.8.6. 本調査 2008.11.4～11.19	10 135.37	個人住宅建築	
元川町字原坪 (第4地点)	龍前町754-4,-11,-12	08201 020	36° 22' 24'	140° 27' 57'	2009.3.13	12	個人住宅建築	
元川町字原坪 (第1地点)	元川町字原坪900-1,-4,-6,-8,-12,910-1	08201 141	36° 20' 14'	140° 29' 23'	2009.6.9～6.13	475	伐倒工事	
河和田城跡 (第6地点)	河和田町552	08201 102	36° 21' 55'	140° 25' 04'	2008.5.7	12.2	個人住宅建築	
崩れ石道跡 (第1地点)	内郷町4304-33 (主要地方道石岡常北線)	08305 158	36° 20' 34'	140° 23' 13'	2008.8.11, 9.17, 9.24, 9.25	12.04	路盤剥取工事	
里民石道跡 (第3地点)	上国井町3667-1,-5	08201 046	36° 26' 29'	140° 26' 31'	2008.6.25～7.3	57.04	個人住宅建築	
御反石道跡 (第4地点)	上国井町3585-1	08201 046	36° 26' 35'	140° 26' 24'	試掘 2008.11.20. 本調査 2009.1.22～3.11	10 66	個人住宅建築	
小仲町遺跡 (第2地点)	元川町1802-1	08201 241	36° 19' 21'	140° 30' 08'	2008.4.16	16	個人住宅建築	
山王寺遺跡 (第1地点)	赤尾間町字山王582-1	08305 180	36° 21' 52'	140° 22' 18'	試掘 2008.11.26. 本調査 2009.2.9～3.11	7.5 66	個人住宅建築	
下荒町遺跡 (第4地点～2次)	坂庭台4丁目238	08201 066	36° 23' 45'	140° 24' 00'	2008.6.9～6.10	76.1	個人住宅建築	

所収遺跡名	所在地	コード		北緯 ° ′ ″	東経 ° ′ ″	調査期間	調査面積 (m ²)	調査原因
		市町村	遺跡番号					
元吉田町 (安楽寺跡附近)	元吉田町 2506	08201	—	36° 21' 27"	140° 22' 06"	2009.2.2	12	個人住宅建築
新田遺跡 (第1地点・2次)	今瀬町 1366-1	08201	212	36° 25' 20"	140° 22' 36"	2008.7.28 ~ 8.1	219.4	吐水槽建設
古河方舟跡 (第2地点)	飯島町字間堀 527-4	08201	120	36° 22' 24"	140° 23' 58"	2008.9.12	9	個人住宅建築
古河方舟跡 (第3地点)	渡里町 3009-1	08201	276	36° 24' 33"	140° 26' 03"	2008.7.10	49.68	個人住宅建築
古河方舟跡 (第4地点)	渡里町字宿屋敷 2987-4, 14	08201	276	36° 24' 33"	140° 25' 55"	2008.10.9	24	共同住宅建築
古河方舟跡 (第5地点)	渡里町 3001-3	08201	276	36° 24' 35"	140° 25' 57"	2008.12.3	15.4	範囲確認
古河方舟跡 (第6地点)	渡里町 3058-3	08201	098	36° 24' 36"	140° 25' 54"	2008.10.31	8.24	個人住宅建築
長者山遺跡 (第3地点)	渡里町 3151-4, 3151-6	08201	276	36° 24' 41"	140° 24' 01"	2008.8.21 ~ 8.26	89.75	範囲確認
寺内遺跡 (第2地点)	大足寺町字寺原 1189-3, 4-, 5-, 1190-1, -2	08305	071	36° 23' 15"	140° 22' 01"	1次 2008.10.29 ~ 10.30 2次 2009.1.13 ~ 1.14	185.95	墓地造成
堺ノ遺跡 (第2地点)	小林町字小林 1200-1	08305	123	36° 21' 06"	140° 21' 06"	2009.1.29	16.5	個人住宅建築
東前田遺跡 (第1地点)	東前田 2-57, -60	08201	259	36° 20' 23"	140° 31' 49"	2008.11.11	71.5	個人住宅建築
中河内遺跡 (第3地点)	中河内町 194-1, 3, -4, 5, -6	08201	065	36° 24' 25"	140° 27' 31"	2009.2.13	7.5	個人住宅建築
東大野遺跡 (第1地点)	東大野 137-2	08201	054	36° 21' 52"	140° 21' 35"	試掘 2008.8.30 本調査 2008.9.4 ~ 9.8	37.5	個人住宅建築
舞子町字舞台 (第5地点)	三瀬町字舞台 466	08305	089	36° 22' 21"	140° 20' 50"	2008.9.24	9	個人住宅建築
舞子町 (第8地点)	舞子町字馬場東 295	08201	064	36° 24' 31"	140° 22' 14"	2009.3.23	24.9	個人住宅建築
舞子町 (第13地点)	渡里町字野木 3324-1の一 部	08201	064	36° 24' 36"	140° 25' 26"	2008.4.9	29.25	個人住宅建築
舞子町 (第15地点)	舞町 327-1	08201	064	36° 24' 35"	140° 25' 25"	2008.7.11	21	個人住宅建築
水戸城跡 (第16地点)	三の丸 1, 1丁目 6 (三の丸小学校)	08201	172	36° 22' 29"	140° 28' 38"	2008.4.4	24	学校校舎改築
有賀町字中原 483-2, 3	08305	082	36° 22' 41"	140° 21' 44"	1次 2008.8.26 2次 2008.10.31	6.87 7.5	個人住宅建築	
大串町字原 121-7	08201	178	36° 20' 17"	140° 32' 07"	2008.8.20	14	個人住宅建築	
元吉田町東南跡 (第2地点)	元吉田町字東南 573-2, 10, -11, -12	08201	128	36° 21' 35"	140° 28' 42"	2009.1.28	82.5	宅地造成工事
谷田町遺跡 (第9地点)	谷田町 805-3, 805-10	08201	069	36° 21' 03"	140° 21' 02"	2008.7.3, 7.15	16.4	個人住宅建築
千波町字中道南 1502-14	08201	058	36° 21' 13"	140° 28' 08"	2008.9.9	15.4	個人住宅建築	
渡里町 (第9地点)	渡里町 2568-1	08201	121	36° 24' 20"	140° 26' 27"	2009.1.15	76.3	共同住宅建築
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構			主な遺物		特記事項
片瀬遺跡 (第8地点)	集落跡	縄文・弥生・ 古墳・奈良・ 平安・中世	性懸不明遺構（縄文）			縄文土器、土師器、須恵器、 陶路		
片瀬遺跡 (第9地点)	集落跡	縄文・弥生・ 古墳・奈良・ 平安・中世	縄文土器、既貨			縄文土器、既貨		
合ノ田遺跡 (第1地点)	笠置地	古墳・奈良・ 平安	堅穴建物跡 2 (奈良、平安)			土師器、須恵器		
合ノ田遺跡 (第1地点)	笠置地	先王廟・ 鏡文・ 奈良・ 平安・ 中世	堅穴建物跡 3 (奈良、平安)			土師器、須恵器		
福井塚古墳群 (第1地点)	古墳群	古墳	古墳圓溝 1 (古墳)、圓溝 1 (不明)			土師器、須恵器、陶器		

所取遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
茨城高等学校遺跡 (第1地点・230)	集落跡	绳文・平安・近世		陶器、磁器、土師質土器	
上野道跡 (第1地点)	集落跡	奈良・平安		カワラケ	
江川館跡 (第3地点)	城館跡	中世	井戸跡 1(近代以降)		
大里道跡 (第9地点)	集落跡	縄文・弥生・古墳・奈良・平安・中世	堅穴建物跡 1(奈良)、土坑 4(縄文)	縄文土器、土師器、須恵器、鉄製品	第7地点で確認された官衙の遺跡に伴う軒落を構成するところから堅穴建物跡が確認された。
大城道跡 (第1地点)	包蔵地	後古代・奈良・古墳・奈良・平安・中世		土師器、須恵器	
大塚新地遺跡 (第6地点)	集落跡	弥生・古墳・奈良・平安	堅穴建物跡 1(古墳～奈良)	土師器、須恵器	
大塚新地遺跡 (第7地点)	集落跡	弥生・古墳・奈良・平安		土師器	
大塚新地遺跡 (第8地点)	集落跡	弥生・古墳・奈良・平安		土師器、須恵器、陶器	
大里町道跡 (第9地点)	集落跡	先秦・縄文・弥生・古墳・奈良・平安・中世・近世	堅穴建物跡 2(奈良・平安)	弥生土器、土師器、須恵器	
大里町道跡 (第10地点)	集落跡	先秦・縄文・弥生・古墳・奈良・平安・中世・近世	堅穴建物跡 3(古墳 1、平安 1、不明 1)、溝跡 2(近世)、土坑 5(不明)	縄文土器、弥生土器、土師器、須恵器、磨石、平瓦	
伊勢崎市道跡 (第4地点)	集落跡	縄文・近世・近代	遺物包含層 2(縄文、近世)	縄文土器、打製石斧、陶器、磁器、錢貨、漆製品	出土焼土含む多量の陶磁器とともに、武家の調度品とみられる漆油付駕籠物の残片が出土した。
鹿沼町道跡 (第1地点)	集落跡	縄文・中世	溝跡 2(中世以降)	縄文土器、平瓦	
河内坂道跡 (第6地点)	城館跡	中世・近世		土師器、須恵器	
明治鐵道跡 (第1地点)	包蔵地	縄文・古墳・奈良・平安	塚 2(近世)	磁器、ガラス瓶、漆	
軍民坂道跡 (第3地点)	集落跡	縄文・奈良・平安・近世	土坑 3(縄文 3)、ビット 25(近世)	縄文土器、土師器、須恵器、磁器、漆	
明治鐵道跡 (第4地点)	集落跡	縄文・奈良・平安	堅穴建物跡 1(平安)、掘立柱建物 1(奈良)、土坑・ビット 45(縄文 37、古代以降 8)	縄文土器、土師器、打製石斧、石組、磨石、鐵石類、石器、土師器、須恵器、漆	
小糸町道跡 (第2地点)	集落跡	縄文・古墳・平安		土師器、陶器	
下足向町道跡 (第4地点・2次)	集落跡	縄文・古墳・近世	溝跡 1(近世以降)	縄文土器	
葛原寺跡 (安楽寺遺跡近接)	—	—		縄文土器	
新田道跡 (第1地点・2次)	集落跡	縄文・奈良・平安	堅穴建物跡(縄文)、土坑(縄文)、炉穴(縄文)、ビット(縄文)	縄文土器、石器、磨製石斧、須恵器、漆	
仙光内道跡 (第2地点)	集落跡	弥生・古墳・奈良・平安		土師器	
台渡里遺跡 (第43次)	官衙跡 集落跡	先土器・縄文・弥生・古墳・奈良・平安・中世・近世	溝跡 4(古墳～平安)、土坑 1(奈良～平安)	縄文土器、土師器、須恵器、軒丸瓦、平瓦	那賀郡斎正食院とみられる台渡里魔寺跡長者山地区と同様の3121型軒丸瓦が出土した。
台渡里遺跡 (第47次)	官衙跡 集落跡	先土器・縄文・弥生・古墳・奈良・平安・中世・近世	堅穴建物跡 2(奈良～平安)、掘立柱建物跡 2(奈良・平安、中世)	土師器、須恵器	
台渡里遺跡 (第50次)	官衙跡 集落跡	先土器・縄文・弥生・古墳・奈良・平安・中世・近世		土師器、瓦、陶器	
竹原町魔寺跡 (第49次)	寺院跡 集落跡	先土器・縄文・弥生・古墳・奈良・平安・中世・近世		土師器	
猿者山遺跡 (第3地点)	集落跡	縄文・弥生・古墳・奈良・平安	土坑 4(縄文、古墳、中世)、掘立柱建物跡 1(奈良～平安)	縄文土器、土師器、須恵器、土師質土器、陶器、磁器、漆	
寺内道跡 (第2地点)	包蔵地	先土器・縄文・弥生・古墳・奈良・平安・中世	溝跡 2(中世)	削片、弥生土器、土師器	
上野山遺跡 (第2地点)	包蔵地	縄文・奈良・平安		土師器	

所取遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
東山町遺跡 (第1地点)	集落跡	圓文・古墳・奈良・平安		圓文土器	
山ノ内町遺跡 (第3地点)	集落跡	古墳・奈良・平安		土師器、須恵器	
東大野遺跡 (第4地点)	集落跡	古墳・奈良・平安・近世	溝跡1(近世)、土坑1(時期不明)	土師器、須恵器、陶磁器、煙管	
新竹遺跡 (第5地点)	包蔵地	圓文・古墳・奈良・平安		須恵器	
堀之内村 堀之内遺跡 (第8地点)	集落跡	圓文・弥生・古墳・奈良・平安・中世・近世		土師器、須恵器	
堀之内村 堀之内遺跡 (第13地点)	集落跡	圓文・第1・古墳・奈良・平安・中世・近世	柱立柱建物跡1(奈良～平安)、溝跡1(奈良～平安)、性格不明遺構1(奈良～平安)	土師器、須恵器	
堀之内村 堀之内遺跡 (第15地点)	集落跡	圓文・第1・古墳・奈良・平安・中世・近世	竪穴建物跡2(奈良～平安)	土師器、須恵器	
水戸城跡 (第16次)	城郭跡	先王廟・圓文・古墳・奈良・平安・中世・近世		土師質土器、陶器、磁器、近世瓦	
向原遺跡 (第6地点)	包蔵地	奈良・平安	溝跡1(奈良～平安)	灰釉陶器、土師器	
向山遺跡 (第2地点)	集落跡	圓文・弥生・古墳・平安	竪穴建物跡2(圓文)	圓文土器	
上原町遺跡 (第2地点)	集落跡	弥生・平安	竪穴建物跡4(弥生2・平安2)	弥生土器、土師器、須恵器	
谷田町遺跡 (第9地点)	古墳群	古墳		土師器、罐	
米沢町遺跡 (第11地点)	集落跡	圓文・奈良・平安・中世		土師器	
米沢町遺跡 (第9地点)	集落跡	圓文・第1・古墳・奈良・平安・中世	竪穴建物跡1(平安)、溝跡1(時期不明)、土坑群(圓文)	圓文土器、剥片、罐、土師器、須恵器	

*北緯・東経は世界測地系による。

水戸市埋蔵文化財調査報告

第1集	台渡里廐寺跡—範囲確認調査報告書一	2005年3月発行
第2集	台渡里廐寺跡 —市道常磐17号線改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書(1)一	2005年4月発行
第3集	大鎌町遺跡 —グランディヒルズ元吉田造成工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書一	2005年8月発行
第4集	台渡里廐寺跡 —市道常磐17号線改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書(2)一	2006年3月発行
第5集	台渡里遺跡—集合住宅建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書一	2006年3月発行
第6集	吉田古墳I—史跡整備計画に伴う吉田古墳群第3次調査報告書一	2006年3月発行
第7集	大鎌町遺跡(第3地点) —市道浜田207号線側溝新設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書一	2006年3月発行
第8集	坏遺跡(第3地点) —ヴィヴィアンコート赤塚建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書一	2007年3月発行
第9集	坏遺跡(第4地点) —ブランタンコーナーII建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書一	2007年3月発行
第10集	吉田古墳II —史跡整備計画に伴う吉田古墳群第1号墳の第3次発掘調査報告書一	2007年3月発行
第11集	平成17年度水戸市内遺跡発掘調査報告書	2007年3月発行
第12集	アラヤ遺跡(第2地点) —市道常磐10号線道路改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書一	2007年3月発行
第13集	米沢町遺跡(第5地点) —住宅展示場建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書一	2007年3月発行
第14集	大串遺跡(第7地点) —介護老人保健施設建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書一	2008年3月発行
第15集	台渡里遺跡(第39次調査) —公共下水道工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書一	2008年3月発行
第16集	渡里町遺跡(第5地点) —市道常磐31号線道路改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書一	2008年6月発行
第17集	渡里町遺跡(第6地点) —市道常磐34、275号線道路改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書一	2008年6月発行
第18集	薄内遺跡—移動体通信基地局建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書一	2008年8月発行
第19集	堀遺跡(第9地点)—宅地造成工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書一	2008年9月発行
第20集	元石川大谷原遺跡—宅地造成工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書一	2008年12月発行
第21集	台渡里I—平成18年度長者山地区範囲確認調査概報一	2009年3月発行
第22集	平成18年度水戸市内遺跡発掘調査報告書	2009年3月発行
第23集	吉田古墳III —史跡整備計画に伴う吉田古墳群第1号墳の第4・5次発掘調査報告書一	2009年3月発行
第24集	町付遺跡(第1地点)—共同住宅建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書一	2009年3月発行
第25集	東組遺跡(第1地点)—物販店舗建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書一	2009年3月発行

第 26 集	荷鞍坂遺跡（第 1 地点）	—コンビニエンスストア建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—	2009 年 3 月発行
第 27 集	大鋸町遺跡（第 8 地点） 一宅地造成工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—	2009 年 3 月発行	
第 28 集	雁沢遺跡（第 1 地点） 一工場建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—	2009 年 3 月発行	
第 29 集	渡里町遺跡（第 7 地点）	—市道常磐 23, 31, 307 号線公共下水道工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—	2009 年 6 月発行
第 30 集	台渡里 2 —市道常磐 283 号線公共下水道工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書（台渡里第 51 次）—	2009 年 6 月発行	
第 31 集	若林遺跡（第 1 地点） 一宅地造成工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—	2009 年 8 月発行	
第 32 集	堀遺跡（第 16 地点）	—市道渡里 48 号線公共下水道工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書（1）—	2009 年 10 月発行
第 33 集	堀遺跡（第 18 地点）	—市道渡里 31, 41 号線公共下水道工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—	2009 年 11 月発行
第 34 集	堀遺跡（第 17 地点）	—市道渡里 35 号線公共下水道工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—	2009 年 12 月発行
第 35 集	平成 19 年度水戸市内遺跡発掘調査報告書		2010 年 3 月発行
第 36 集	笠原水道 一第 6 次・10 次・11 次発掘調査報告書—		2010 年 3 月発行
第 37 集	台渡里 3 一平成 19 ~ 21 年度長者山地区範囲確認調査概報—		2011 年 1 月発行
第 38 集	台渡里 4 一宅地造成工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書（台渡里第 64 次）—		2011 年 1 月発行
第 39 集	堀遺跡（第 3 地点第 2 次調査） 一宅地造成工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—		2011 年 1 月発行
第 40 集	台渡里 5 一市道常磐 123 号線道路改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書（台渡里第 60 次）—		2011 年 1 月発行
第 41 集	堀遺跡（第 16 地点） 一市道渡里 48 号線公共下水道工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書（2）—		2011 年 1 月発行
第 42 集	赤塚遺跡（第 5 地点） 一河和田住宅建替え事業（第 5 期）に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—		2011 年 1 月発行
第 43 集	平成 20 年度水戸市内遺跡発掘調査報告書		2011 年 4 月発行

水戸城跡 三の丸土塁および堀の復旧に伴う工事・調査報告書 2006 年 9 月発行

水戸市埋蔵文化財調査報告 第 43 集

平成 20 年度水戸市内遺跡発掘調査報告書

印刷 平成 23 年 4 月 25 日

発行 平成 23 年 4 月 25 日

編集 水戸市教育委員会

発行 水戸市教育委員会

印刷 コトブキ印刷株式会社

〒 310-0851 水戸市千波町 2398-1

TEL 029-241-1000 (代)